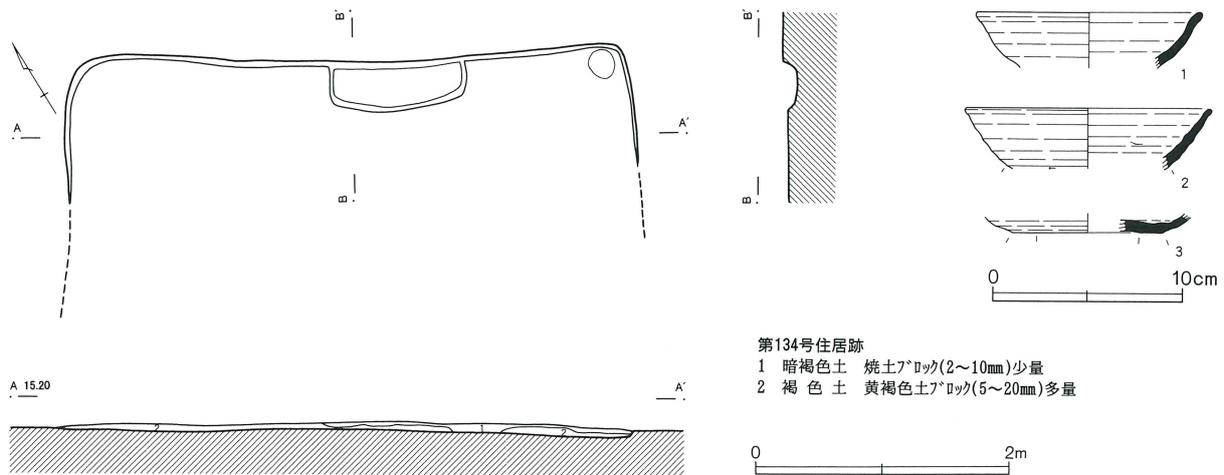


第200図 F区第134号住居跡・出土遺物



第134号住居跡
1 暗褐色土 焼土ブロック(2~10mm)少量
2 褐色土 黄褐色土ブロック(5~20mm)多量

F区第134号住居跡出土遺物観察表 (第200図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(11.9)	(2.9)		W針	A	灰	5	南比企産
2	坏	(12.9)	(3.2)		WB針	A	灰白	5	南比企産
3	坏		(1.0)	(8.0)	WB針	A	灰	5	南比企産 底部周辺ヘラ

出土している。

第132号住居跡 (第198・60図)

BN45・46、BO45・46グリッドに位置し、重複する第49号溝跡よりも古い。

平面形態は方形で、大地震に伴う液状化現象による噴砂の影響を受け、南東側が陥没している。規模は主軸長3.82m×幅3.82m×深さ0.17m、主軸方位N-3°-Eを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と捉えられる。床面には貼床が施されている。

カマドは北壁中央に設置され、残存状態がよい。断面観察において天井部および煙出部が認められる。燃焼部の最下層には灰が堆積し、その上面には多量の焼土ブロックが認められる。壁面は被熱のため焼土化している。袖部は貼床土と酷似するにふい黄褐色土によって造り付けられ、住居跡床面整形後にカマドが構築されている状況が看取できる。カマド東側より支脚も出土している。

柱穴は検出されていない。貯蔵穴はカマド東側の北東コーナー付近に付設され、長径0.79m×短径0.53m×深さ0.12mの平面隅丸長方形である。壁溝は貯蔵穴付近を除いて全周し、幅0.15~0.20m、深さ0.22~

0.28mほどである。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

第133号住居跡 (第199・56図)

BL43グリッドに位置する。重複する第141号住居跡よりも新しく、第86・105・106号溝跡よりも古い。

平面形態は長方形で、大地震に伴う液状化現象による噴砂の影響を受け、砂脈が北西から南東に延びている。砂脈南西側は垂直方向約0.05mほど沈降している。規模は主軸長3.08m×東西幅3.43m×深さ0.25m、主軸方位N-44°-Wを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と捉えられる。床面には貼床が施されている。

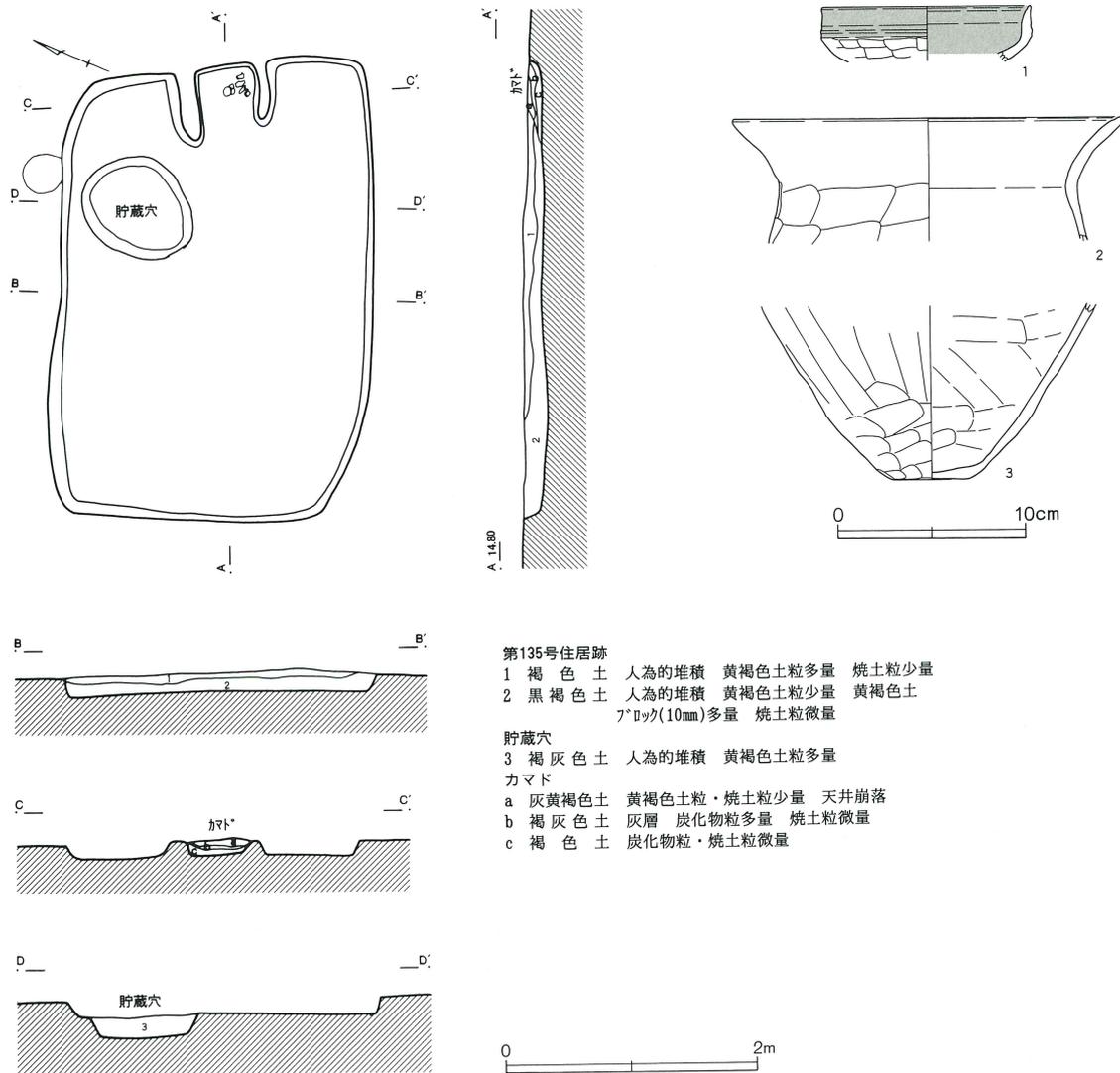
カマドは北壁中央に設置され、第105・106号溝跡による攪乱のため掘形のみが残存している。壁溝はほぼ全周するものと想定され、幅0.13~0.25m、深さ0.11~0.30mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第140号住居跡 (第199・56図)

BL43、BM43グリッドに位置する。重複する第141

第201図 F区第135号住居跡・出土遺物



第135号住居跡
 1 褐色土 人為的堆積 黄褐色土粒多量 焼土粒少量
 2 黒褐色土 人為的堆積 黄褐色土粒少量 黄褐色土
 7°ブロック(10mm)多量 焼土粒微量
 貯蔵穴
 3 褐灰色土 人為的堆積 黄褐色土粒多量
 カマド
 a 灰黄褐色土 黄褐色土粒・焼土粒少量 天井崩落
 b 褐灰色土 灰層 炭化物粒多量 焼土粒微量
 c 褐色土 炭化物粒・焼土粒微量

F区第135号住居跡出土遺物観察表 (第201図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(11.0)	(2.9)		WBR	B	にふい橙	10	内外面赤彩
2	甕	(20.6)	(6.6)		WBR	B	橙	10	
3	甕	(9.2)	(6.0)		WBR	B	暗褐	15	

号住居跡よりも新しく、第105・106・107・108・109号溝跡よりも古い。

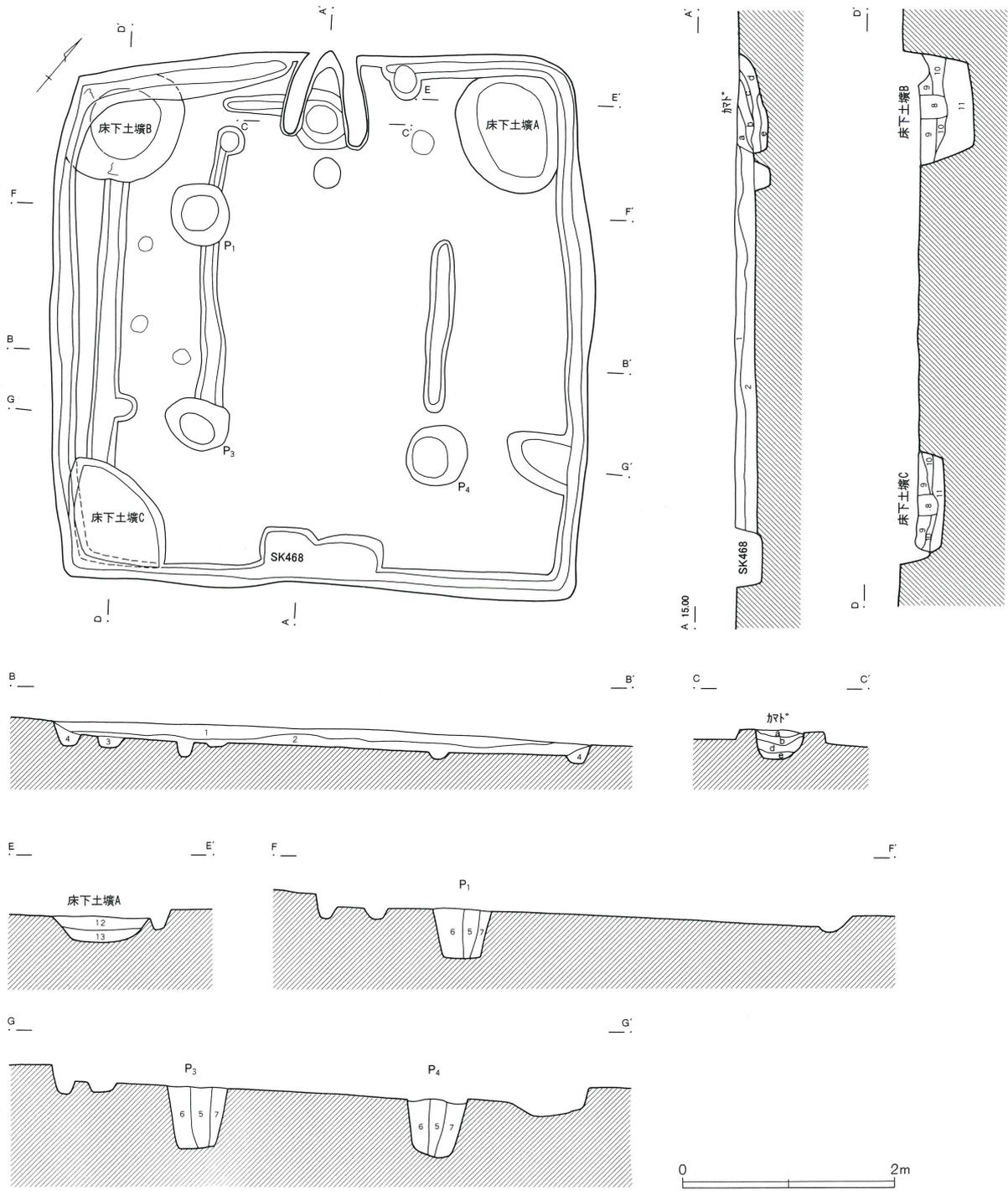
平面形態は方形で、規模は主軸長4.22m×東西幅4.26m×深さ0.23m、主軸方位N—18.5°—Wを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と捉えられる。床面には貼床が施されているが、大地震に伴う液状化現象による噴砂の影響を受け沈降がみられる。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は暗褐色土に

よって造り付けられている。燃焼部には灰が堆積し、支脚が据えられている。壁溝は東壁南半を除き全周し、幅0.16~0.26m、深さ0.28mほどである。壁溝が途切れる箇所には出入り口部が想定されるが、これに伴う施設は確認されていない。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕片、土師器甕・坏片が出土している。

第202図 F区第136号住居跡



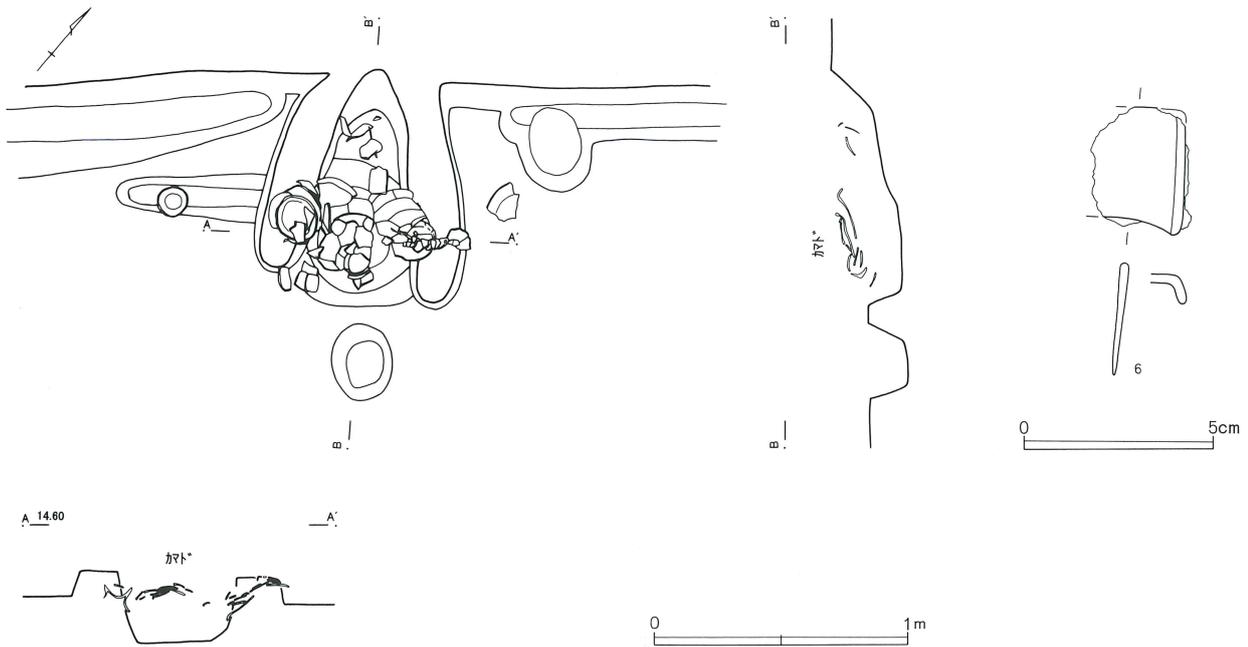
第136号住居跡

- 1 暗赤~7°褐色土 黄褐色土粒多量 焼土粒少量
- 2 におい黄褐色土 黄褐色土粒極多量
- 3 黒褐色土 黄褐色土粒多量 白色粒少量
- 4 暗褐色土 黄褐色土粒多量
- 柱穴
- 5 灰黄褐色土 炭化物粒多量 焼土粒少量
- 6 におい黄褐色土 黄褐色土粒多量
- 7 褐色土 炭化物粒少量

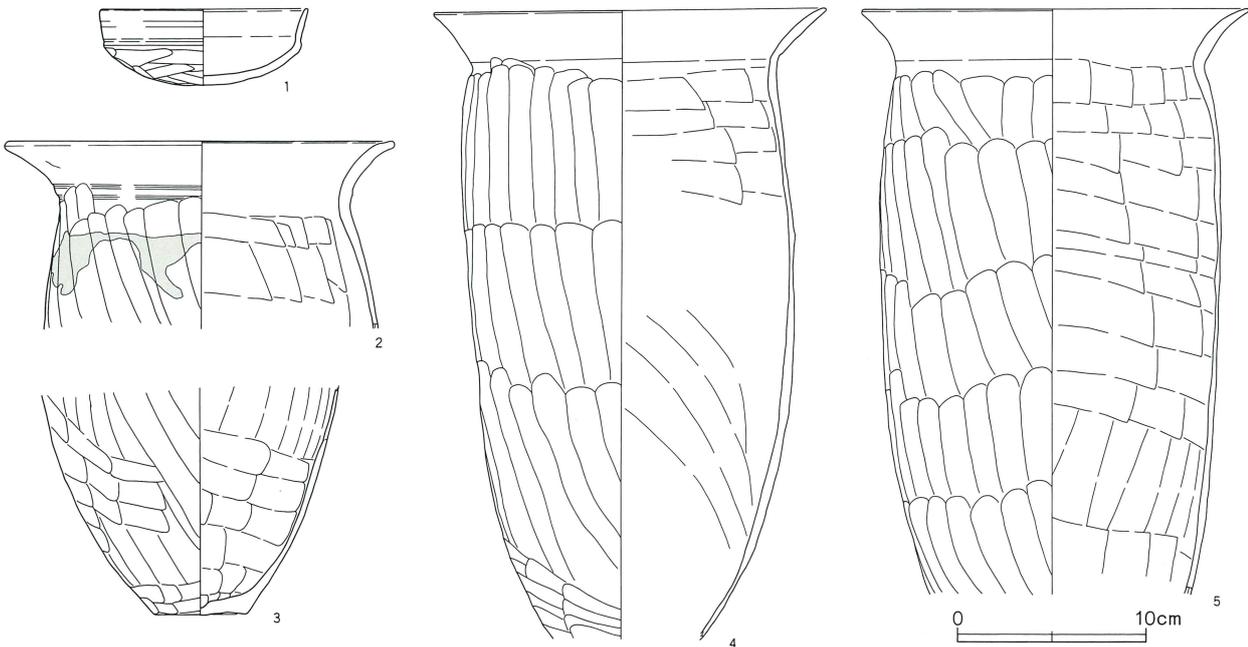
床下土壇B・C

- 8 黒褐色土 黄褐色土7°ロツク(10mm)多量 炭化物粒少量 焼土7°ロツク(10mm)微量
- 9 褐色土 黄褐色土粒・黄褐色土7°ロツク極多量 焼土粒微量
- 10 黒褐色土 黄褐色土粒多量
- 11 黒褐色土 灰色シルト質7°ロツク(15mm)多量 黄褐色土粒・焼土粒少量
- 床下土壇A
- 12 褐色土 黄褐色土粒極多量 焼土粒・炭化物粒少量
- 13 黒褐色土 灰色シルト質7°ロツク(10mm)・灰色土粒極多量 焼土粒少量
- カマド
- a 暗褐色土 焼土粒微量
- b 褐色土 黄褐色土粒多量 天井の崩落? 遺物混入
- c 褐色土 灰層 焼土粒少量 遺物混入
- d 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒微量
- e 黄褐色土粒・焼土粒・焼土7°ロツク少量

第203図 F区第136号住居跡カマド



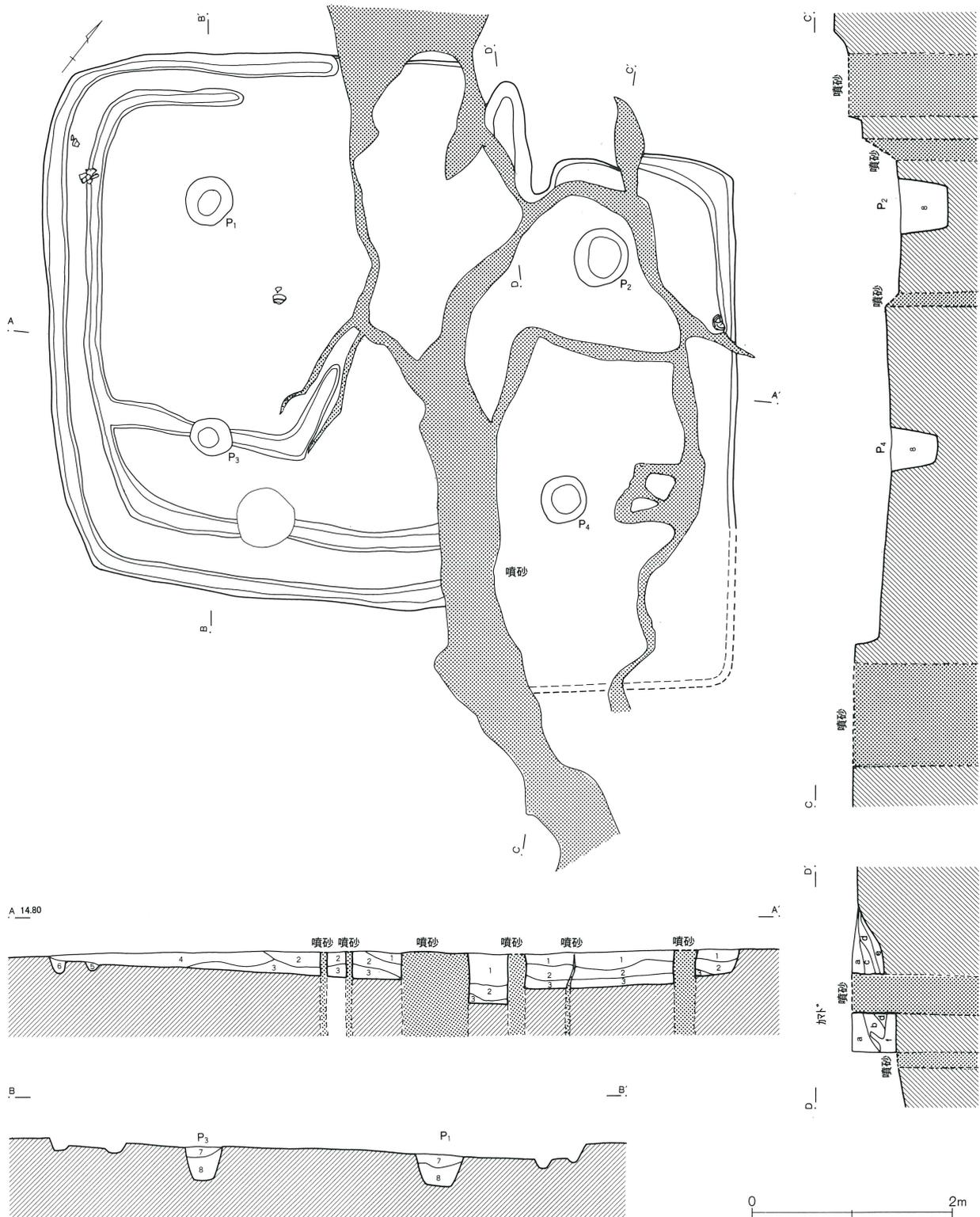
第204図 F区第136号住居跡出土遺物



F区第136号住居跡出土遺物観察表 (第204図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	10.9	4.0		WBR	B	にぶい黄橙	95	No. 2
2	甕	20.4	(10.0)		WB	B	にぶい橙	30	カマドNo.45 タール状の付着物
3	甕		(12.0)	4.8	B	B	にぶい橙	30	カマド
4	甕	20.4	(33.1)		BR	B	橙	70	カマドNo.58
5	甕	20.1	(30.8)		WB	B	にぶい橙	70	カマドNo. 8・9・10・12・16・20・25・31・33・35・36
6	鎌								長さ2.95×幅2.5×厚さ0.25×重さ11.2 g

第205图 F区第137号住居跡



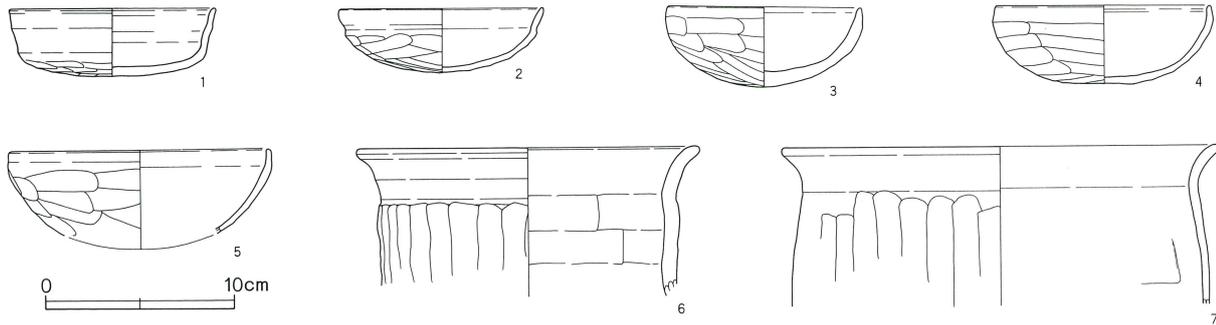
第137号住居跡

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒少量
- 2 黒褐色土 焼土7°(10mm大)多量 焼土粒・炭化物粒少量
- 3 黒褐色土 黄褐色土粒・焼土粒少量
- 4 褐灰色土 黄褐色土粒極多量
- 5 褐灰色土 黄褐色土粒・炭化物粒少量
- 6 褐灰色土 黄褐色土粒少量

柱穴

- 7 黄灰色土 黄褐色土粒・褐灰色土粒多量 炭化物7°(10mm)少量
 - 8 褐灰色土 白色珪質粒少量
- カマド
- a 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒少量
 - b 褐灰色土 焼土粒・白色土粒少量
 - c 灰黄褐色土 焼土粒少量 炭化物7°(10mm)多量
 - d 暗褐色土 焼土7°(10mm)多量
 - e 褐色土 焼土粒多量
 - f 褐灰色土 白色土粒微量

第206図 F区第137号住居跡出土遺物



F区第137号住居跡出土遺物観察表（第206図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(10.7)	3.6		WB	B	橙	40	
2	坏	10.6	3.4		WB	B	橙	70	
3	坏	10.2	4.2		WB	B	にふい橙	75	
4	坏	11.2	4.1		WBR	B	橙	70	
5	坏	(13.5)	(4.5)		WBR	B	にふい黄橙	20	
6	甕	(18.0)	(7.9)		WR	A	灰黄褐	5	No.2
7	甕	(23.0)	(8.4)		WR	A	にふい橙	5	

第141号住居跡（第199・56図）

BL43グリッドに位置し、重複する第133・140号住居跡、第86・105・106・107号溝跡よりも古い。

平面形態は方形で、規模は南北長3.40m×東西長3.73m×深さ0.23m、南北軸方位N-21.5°-Wを測る。床面には貼床が施されているが、大地震に伴う液状化現象による噴砂の影響を受け、西半部の沈降が認められる。

カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。壁溝は北壁中央付近および南東コーナー付近で確認され、幅0.10~0.22m、深さ0.13mほどである。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

第134号住居跡（第200・56図）

BK42・43、BL42・43グリッドに位置する。

遺構確認段階で既に床面を消失しており、焼土を多く含む暗褐色土が充填された掘形のみが残存していた。平面形態は方形で、規模は東西長4.51m、南北軸方位N-32°-Eを測る。埋没状況は不明である。

カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第135号住居跡（第201・56図）

BO44グリッドに位置する。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.64m×南北幅2.48m×深さ0.16m、主軸方位N-68°-Eを測る。覆土の堆積状況は人為的に埋め戻されている。

カマドは東壁中央に設置されている。天井部は崩落し、直下には灰層が堆積していることから、人為的に破壊されたものと捉えられる。柱穴・壁溝は検出されていない。貯蔵穴は北東コーナー付近に付設され、長径0.92m×短径0.77m×深さ0.17mの平面不整形である。

遺物は図示したほかに、土師器甕片が出土している。

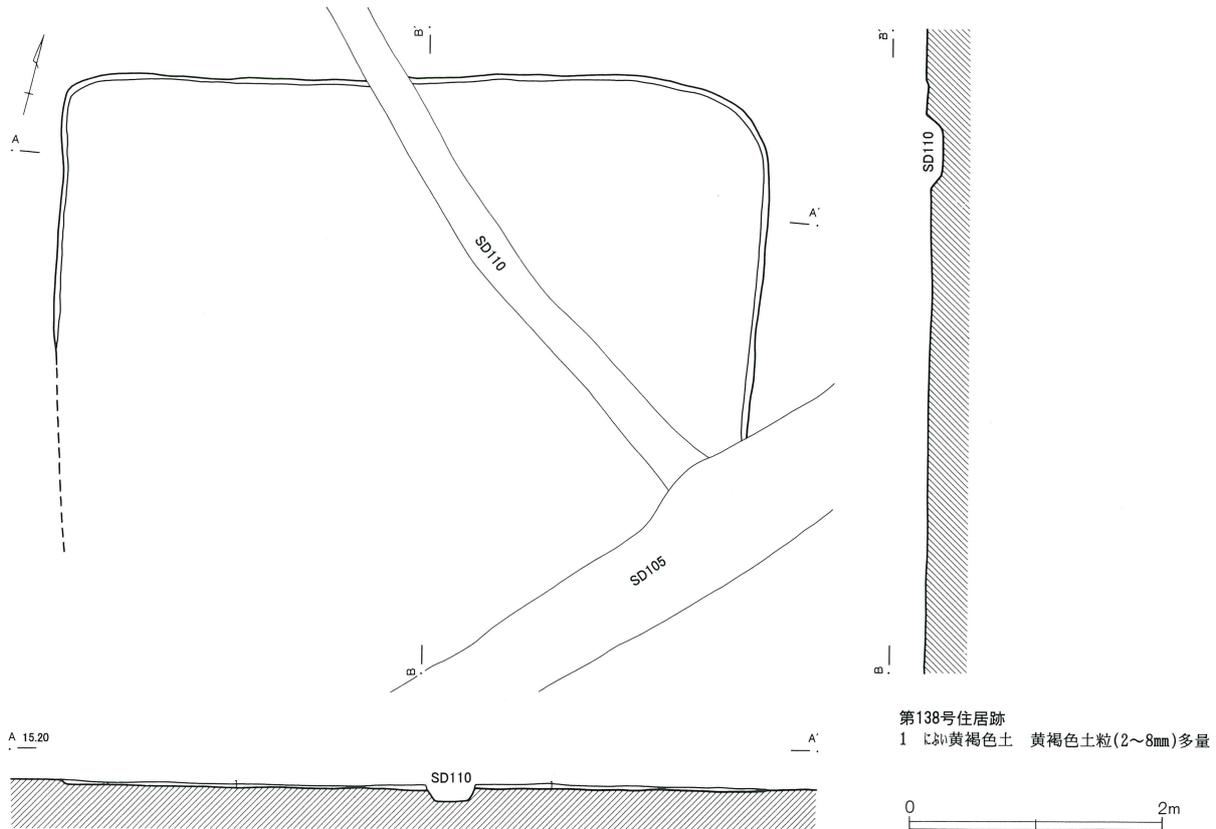
第136号住居跡（第202・203・204・56図）

BN43・44、BO43・44グリッドに位置する。

平面形態は方形である。北壁・西壁に沿って壁溝が二重に巡り、拡張が行われている。拡張前の規模は主軸長4.65m×東西幅4.75m、拡張後は主軸長5.00m×東西幅5.07m×深さ0.16m、主軸方位N-36°-Wを測る。覆土の堆積状況は人為的に埋め戻されたものと捉えられる。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は造り付けられている。天井部は土師器甕が架けられた状態で崩落し、

第207図 F区第138号住居跡



直下には灰層が堆積している。柱穴は3本検出され、柱痕が認められる。柱掘形は円形で、にぶい黄褐色土と褐色土が充填されている。南北に走る間仕切り溝が2本の柱穴を繋いでいる。壁溝は、拡張前は北壁に沿って巡っていないが、拡張後は全周している。幅0.17~0.27m、深さ0.17~0.28mほどである。貯蔵穴は付設されていないが、北東コーナー・北西コーナー・南西コーナーに床下土壌が確認されている。北東コーナーに位置する床下土壌Aは長径1.22m×短径1.04m×深さ0.24mの平面円形、北西コーナーに位置する床下土壌Bは長径1.24m×短径1.05m×深さ0.50mの平面円形、南西コーナーに位置する床下土壌Cは長径1.29m×短径0.85m×深さ0.25mの平面三角形である。

遺物はカマドに設置された状態で土師器甕がみられ、図示したほかに須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第137号住居跡 (第205・206・56図)

BN44グリッドに位置する。

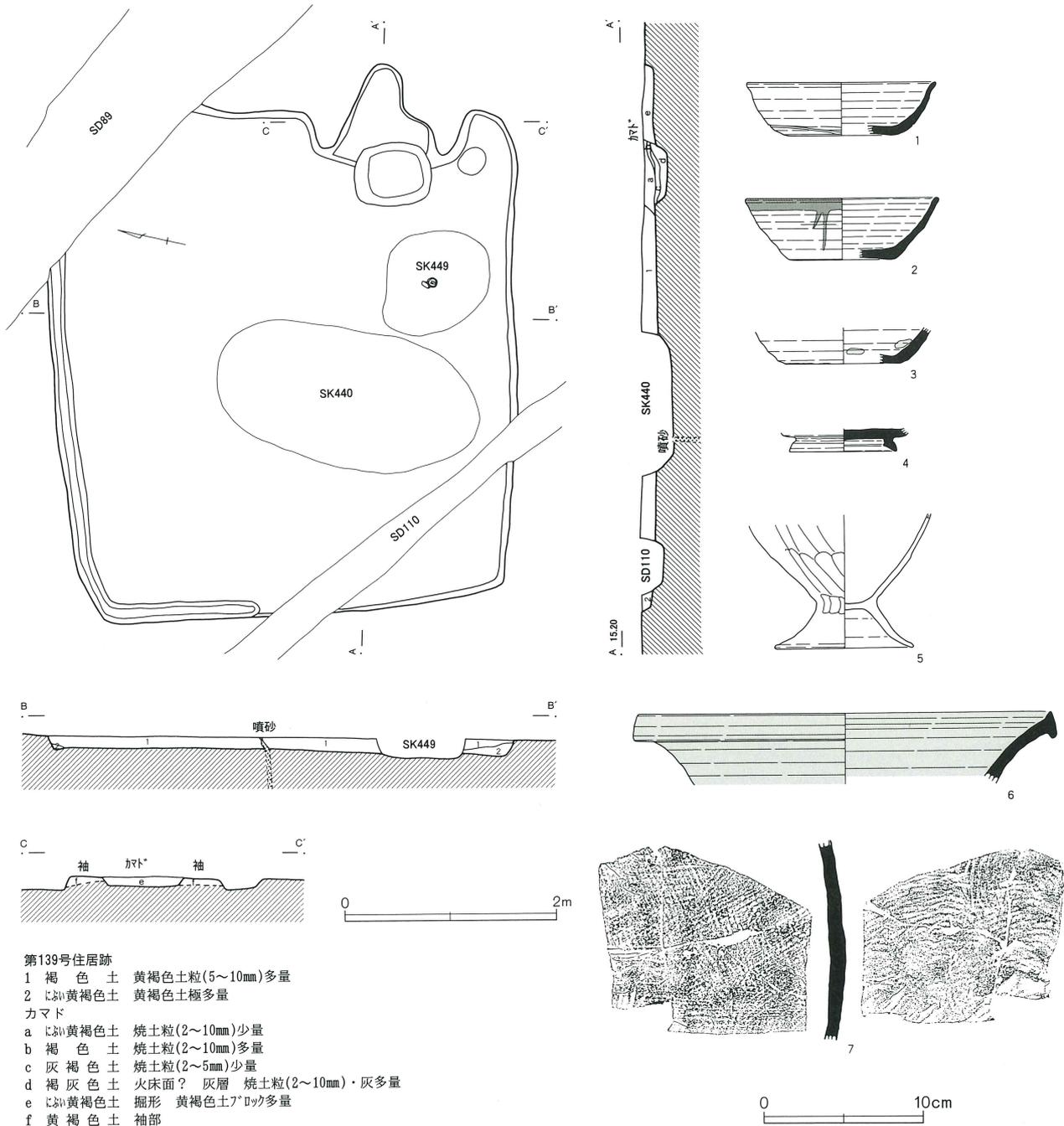
大地震に伴う液状化現象による噴砂の砂脈が走り、水平方向南北に約1m、垂直方向約0.20~0.25mほどの地盤沈降が認められる。

平面形態は長方形である。拡張が行われ、壁溝が二重に巡っている。規模は拡張前が主軸長4.50m×東西幅6.55m、拡張後が主軸長5.46m×東西幅6.89m×深さ0.34mを測り、主軸方位はN-36.5°-Wを向いている。覆土は人為的に埋め戻されている。

カマドは北壁中央東よりに設置され、西側袖部は噴砂によって破壊されている。柱穴は4本で、柱は抜き取られている。壁溝は拡張前後とも北壁中央~西壁~南壁中央を巡り、幅0.14~0.24m、深さ0.13~0.16mほどである。貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第208図 F区第139号住居跡・出土遺物



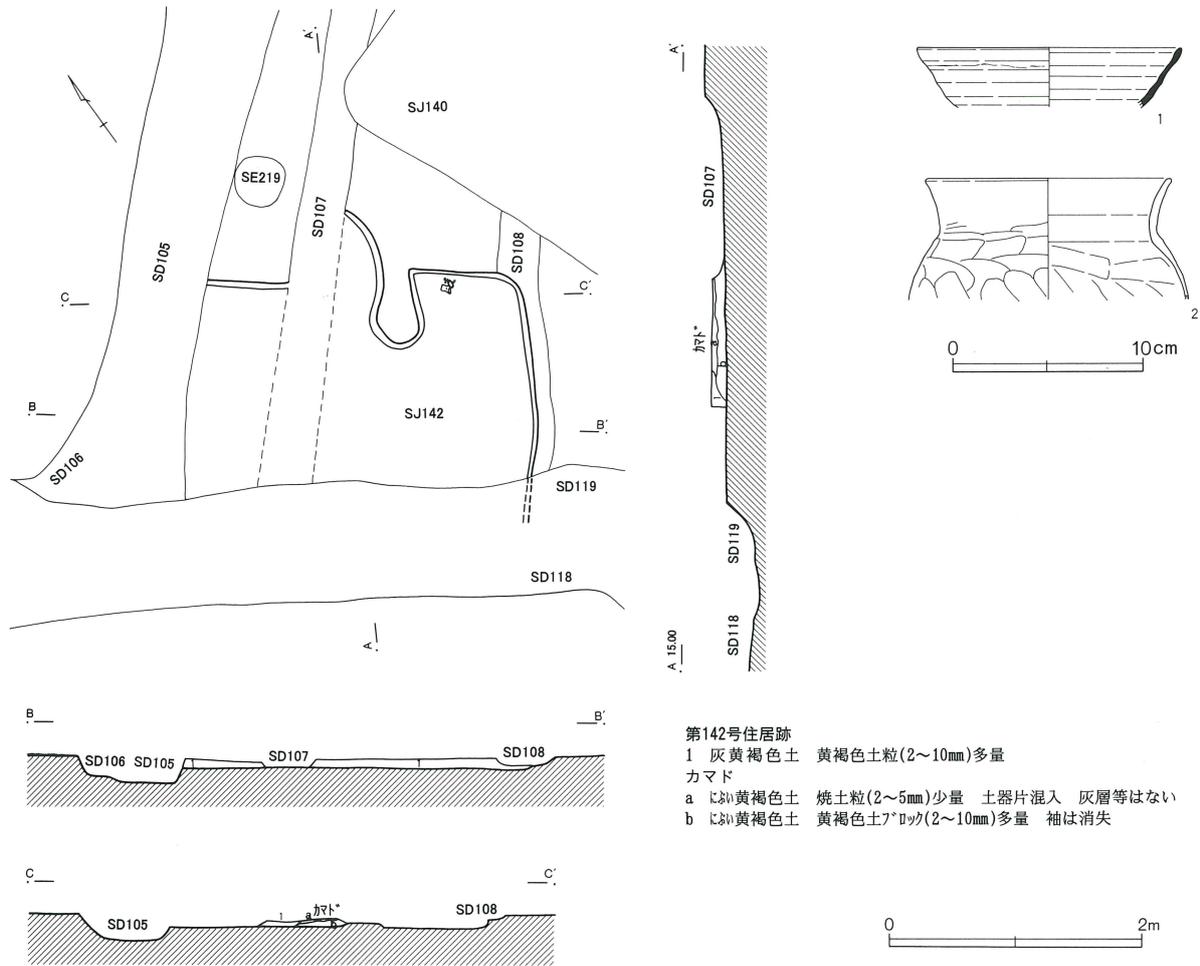
第139号住居跡

- 1 褐色土 黄褐色土粒(5~10mm)多量
- 2 黄褐色土 黄褐色土極多量
- カマド
- a 黄褐色土 焼土粒(2~10mm)少量
- b 褐色土 焼土粒(2~10mm)多量
- c 灰褐色土 焼土粒(2~5mm)少量
- d 褐灰色土 火床面? 灰層 焼土粒(2~10mm)・灰多量
- e 黄褐色土 掘形 黄褐色土7°Dク多量
- f 黄褐色土 袖部

F区第139号住居跡出土遺物観察表 (第208図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(11.8)	3.3	(7.4)	WB 針	A	灰	25	南比企産
2	坏	(12.2)	3.9	(6.6)	WB	A	灰	20	カマド 末野産 底部糸切離し 火だすき痕
3	坏		(2.3)	(7.3)	WBR 針	B	黄灰	20	末野産 黒色付着物
4	高台付坏		(1.4)	(6.7)	WB 針	A	灰	20	南比企産 貼付高台
5	台付甕		(8.4)	8.7	WBR	B	橙	10	
6	甕	(25.9)	(4.5)		WB	A	灰オリーブ色		南比企産? 内外面自然釉付着
7	甕				WB	A	灰		末野産

第209図 F区第142号住居跡・出土遺物



第142号住居跡
 1 灰黄褐色土 黄褐色土粒(2~10mm)多量
 カマド
 a にぶい黄褐色土 焼土粒(2~5mm)少量 土器片混入 灰層等はない
 b にぶい黄褐色土 黄褐色土7°Dツ(2~10mm)多量 袖は消失

F区第142号住居跡出土遺物観察表 (第209図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(13.9)	(3.2)		WB 針	B	灰白	10	南比企産
2	台付甕	(12.8)	(6.4)		WBR	B	にぶい橙	10	No. 1

第138号住居跡 (第207・56図)

BK43、BL43グリッドに位置し、重複する第105・110号溝跡に切られている。

遺構確認段階で既に床面は消失し、掘形の一部が残存しているのみである。平面形態は方形で、規模は東西長5.57m、南北軸方位N-13°-Wを測る。

カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は出土していない。

第139号住居跡 (第208・56図)

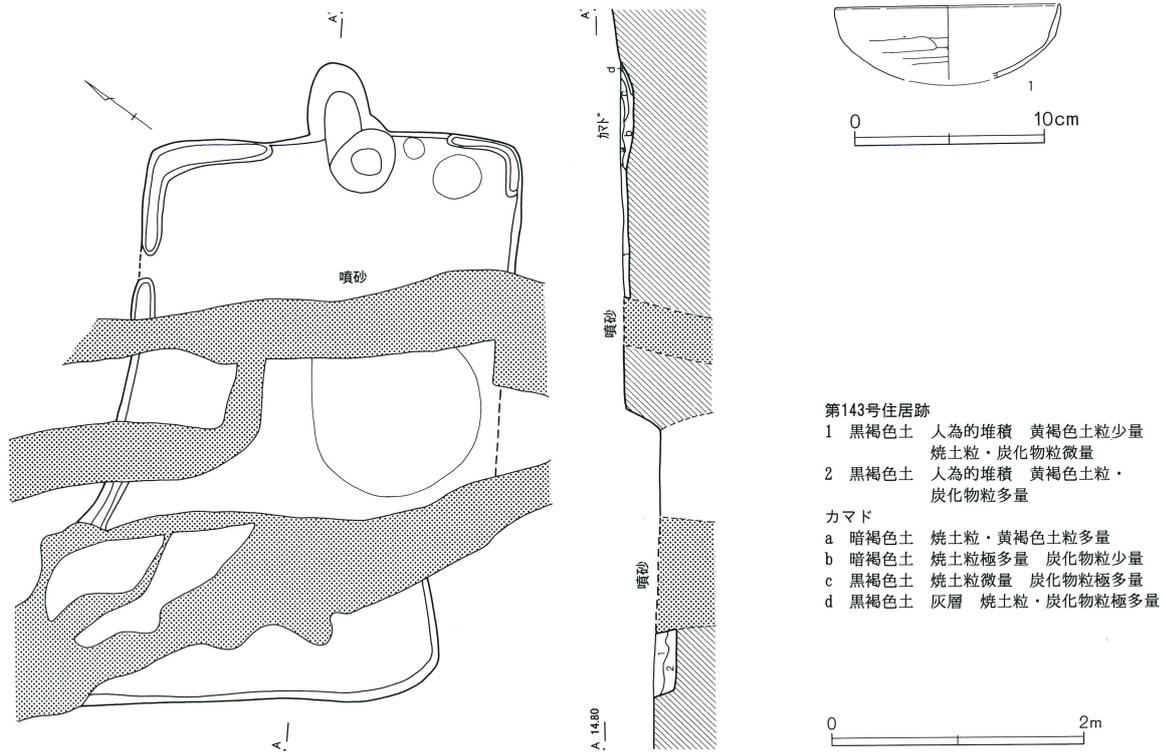
BK42・43グリッドに位置し、重複する第440・449号土壇、第89・110号溝跡よりも古い。大地震に伴う噴砂の影響を若干受けている。

平面形態は長方形で、規模は主軸長4.70m×南北幅4.39m×深さ0.15m、主軸方位N-79°-Eを測る。覆土は堅くしまっているが、乾燥するとブロック状に崩れてしまう。

カマドは東壁南よりに設置され、袖部は地山を掘り残している。燃烧部は土壇状に掘り込まれ、灰層が堆積している。壁溝は北壁～西壁中央に巡り、幅0.14～0.18m、深さ0.14mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第210図 F区第143号住居跡・出土遺物



F区第143号住居跡出土遺物観察表（第210図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(11.8)	(3.9)		B	B	橙	10	

第142号住居跡（第209・56図）

BL42・43、BM42・43グリッドに位置し、重複する第105・106・107・108・118・119号溝跡よりも古い。

平面形態は方形であるが、重複が著しく、規模は不明である。主軸方位N-33.5°-Wを測る。

カマドは北壁中央に設置されているが、西半部は第107号溝跡に攪乱されている。袖部は黄褐色土を用いて造り付けられている。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第143号住居跡（第210・56図）

BM44、BN43・44グリッドに位置し、第217号井戸跡と重複する。大地震に伴う液状化現象による噴砂の影響を受け、南東側半部の沈降および住居跡の変形が著しい。

平面形態は長方形で、規模は主軸長4.45m×南北幅

2.98m×深さ0.17m、主軸方位N-58°-Eを測る。

カマドは東壁中央に設置されているが、袖部は検出されていない。燃焼部最下層には灰が堆積している。壁溝は南東コーナーおよび北東コーナー～北壁に巡り、幅0.09～0.21mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

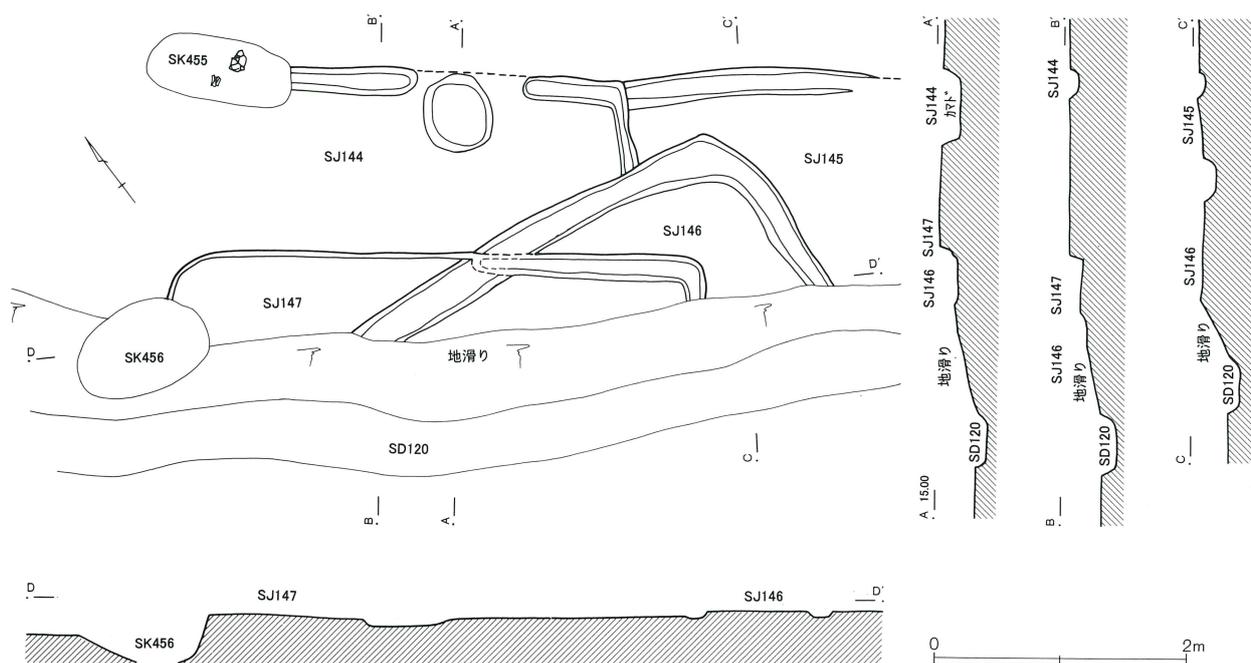
遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

第144・145・146・147号住居跡（第211・212・53図）

BK41・42、BL42グリッドに位置し、4軒の住居跡が重複している。新旧関係は、第145号住居跡がもっとも古く、第144号住居跡→第146号住居跡→第147号住居跡の順に新しくなる。いずれの住居跡も重複する第120号溝跡によって攪乱され、さらに大地震に伴う地滑りの影響が著しく、南半部は消失している。

第147号住居跡は第456号土壇と重複する。遺構確認段階で既に床面が消失しており、掘形と壁溝の残欠が

第211図 F区第144・145・146・147号住居跡



第212図 F区第147号住居跡出土遺物



F区第147号住居跡出土遺物観察表（第212図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(13.4)	(2.6)		WB 針	A	灰	40	南比企産
2	坏	(12.2)	(3.4)		WB 針	A	灰	20	南比企産
3	坏		(0.7)	6.8	WB 針	A	灰	10	南比企産 底部周辺ヘラ

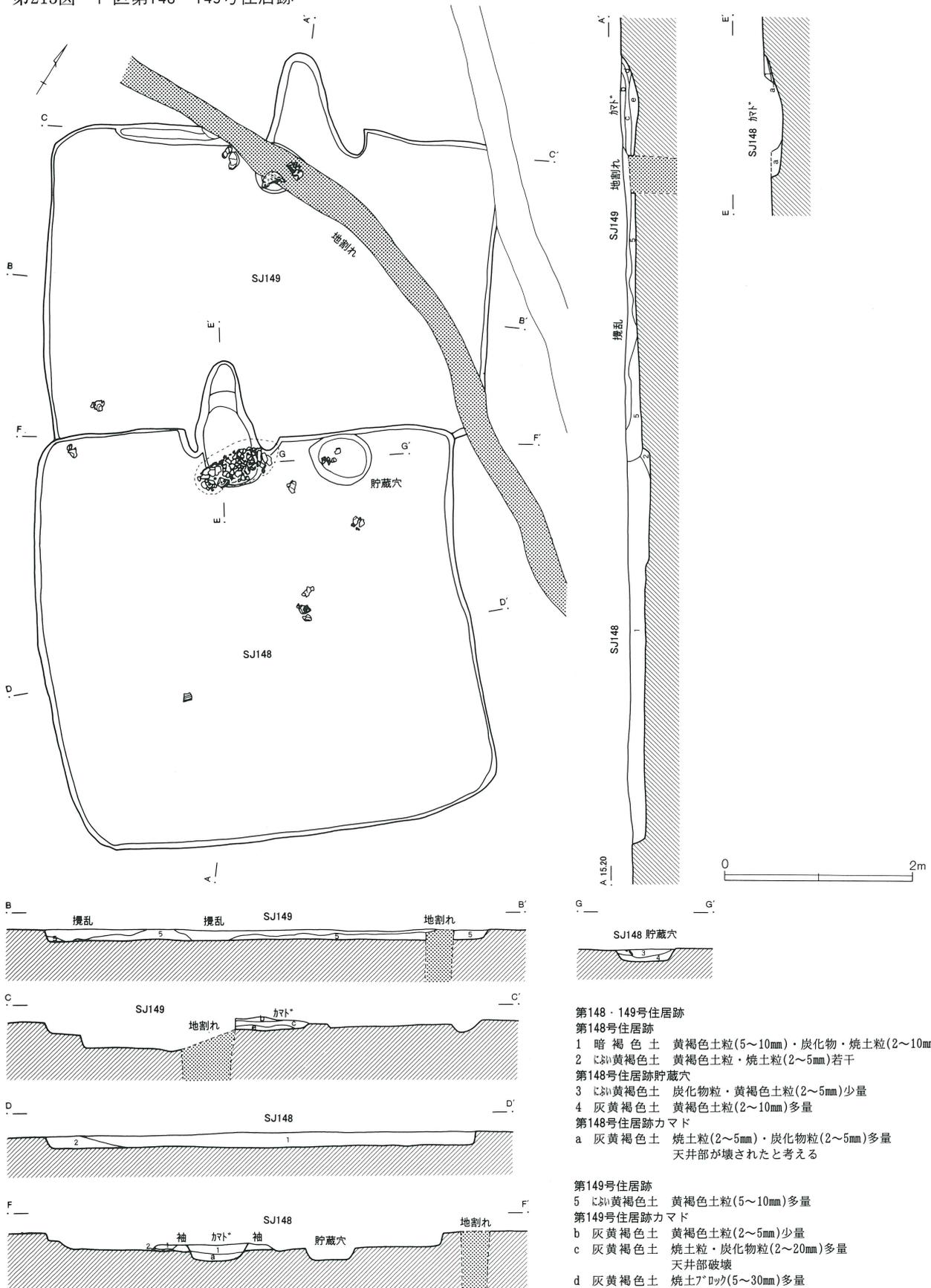
確認された。平面形態は方形で、規模は東西長4.25m、南北軸方位N-38°-Eを測る。壁溝は北東コーナーに確認され、幅0.21m、深さ0.06mほどである。覆土は黄褐色土粒を少し含む暗褐色土である。カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第146号住居跡も遺構確認段階で既に床面が消失し、掘形と壁溝の残欠が検出された。平面形態は方形であるが、規模は不明である。南北軸方位N-2°-Eを測る。壁溝は全周し、幅0.18~0.32m、深さ0.05mほどで、焼土粒・黄褐色土粒を少し含む暗褐色土が堆

積している。カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。遺物は出土していない。

第144号住居跡は第455号土壌と重複する。遺構確認段階で既に床面はおろか掘形も消失しており、幅0.10~0.23m、深さ0.07mほどの壁溝の残欠が検出された。壁溝には、黄褐色土粒を少し含むにふい黄褐色土が堆積している。平面形態は方形で、規模は不明である。主軸方位N-38°-Eを測る。カマドは北壁に掘形が確認されている。黄褐色土ブロックを多く含む暗褐色土が堆積している。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示し得ないが、須恵器坏片、土師器坏片が出土している。

第213図 F区第148・149号住居跡



第148・149号住居跡

第148号住居跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒(5~10mm)・炭化物・焼土粒(2~10mm)少量
- 2 黄褐色土 黄褐色土粒・焼土粒(2~5mm)若干

第148号住居跡貯蔵穴

- 3 黄褐色土 炭化物粒・黄褐色土粒(2~5mm)少量

第148号住居跡カマド

- 4 灰黄褐色土 黄褐色土粒(2~10mm)多量
- a 灰黄褐色土 焼土粒(2~5mm)・炭化物粒(2~5mm)多量
天井部が壊されたと考える

第149号住居跡

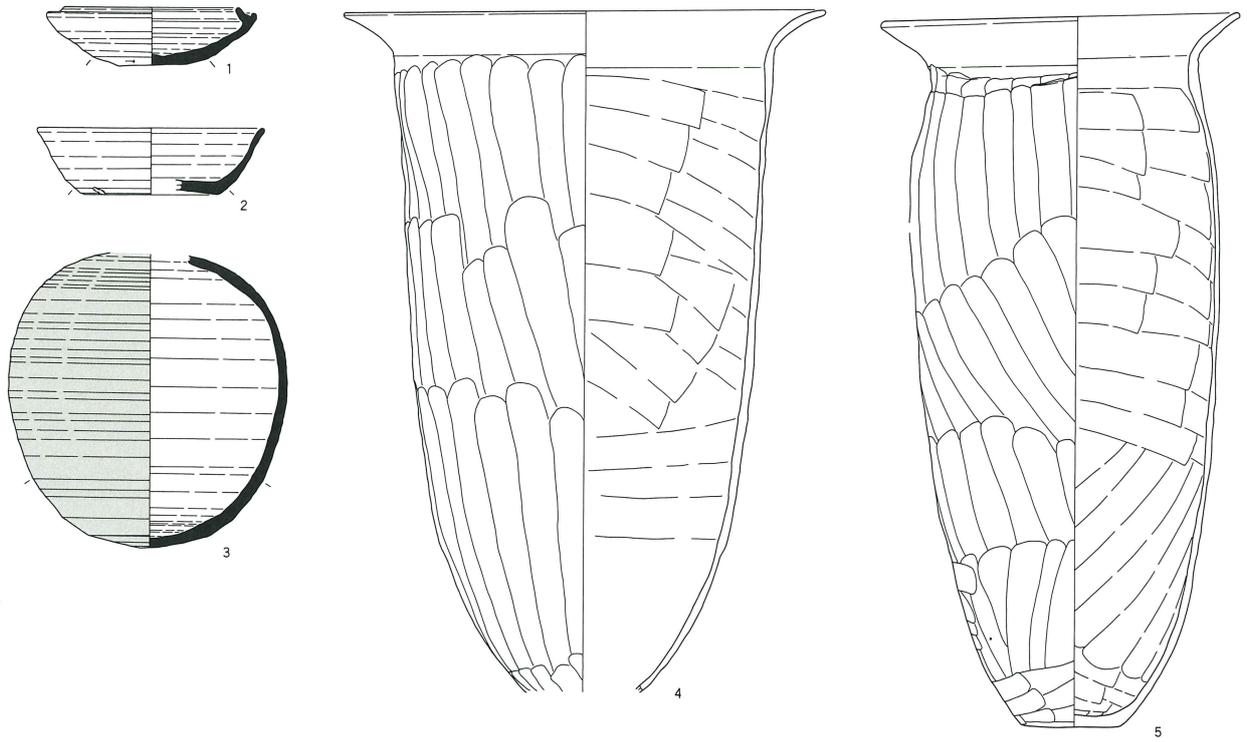
- 5 黄褐色土 黄褐色土粒(5~10mm)多量

第149号住居跡カマド

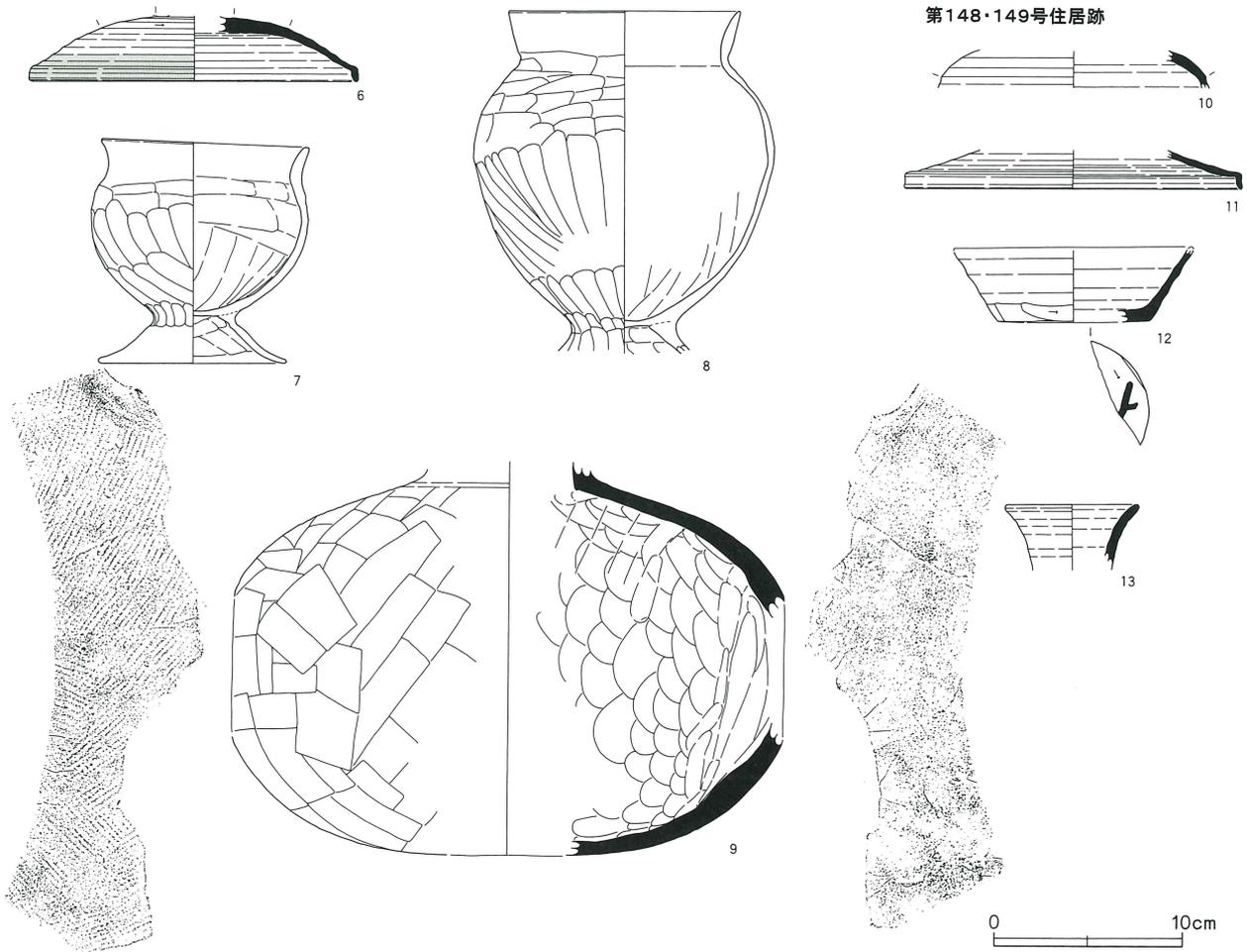
- b 灰黄褐色土 黄褐色土粒(2~5mm)少量
- c 灰黄褐色土 焼土粒・炭化物粒(2~20mm)多量
天井部破壊
- d 灰黄褐色土 焼土アブリク(5~30mm)多量
天井部破壊
- e 灰黄褐色土 灰層 焼土粒(2~10mm)・灰多量
純の灰ではなく全体に混入

第214图 F区第148·149号住居跡出土遺物

第148号住居跡



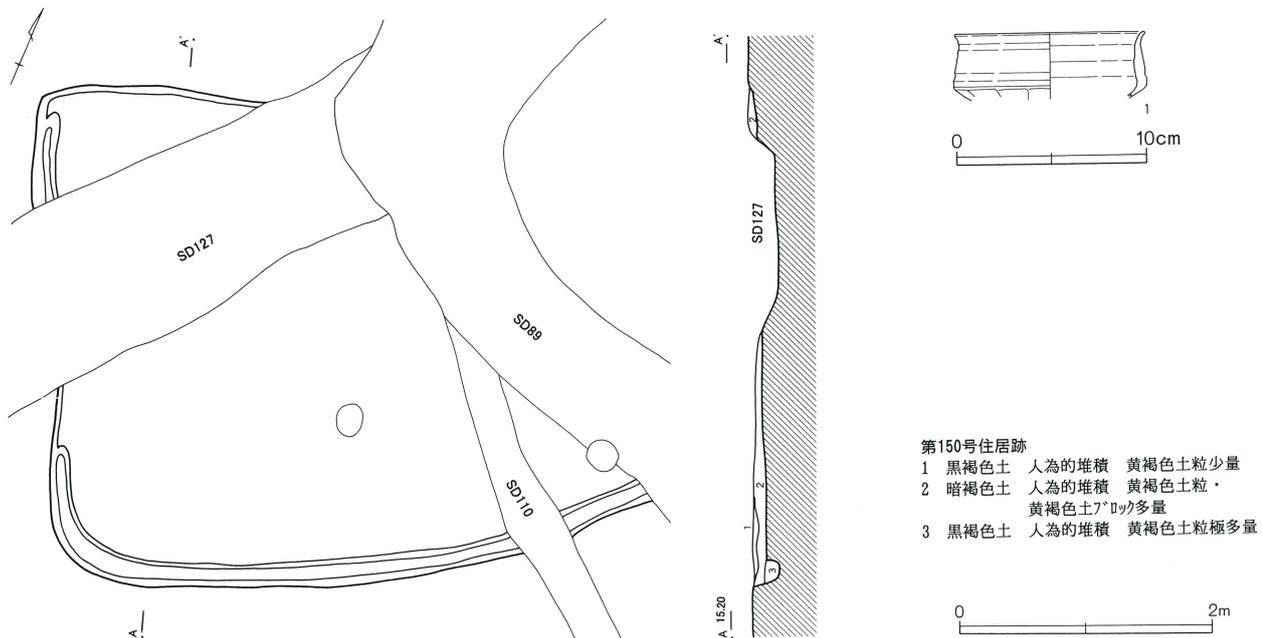
第149号住居跡



F区第148・149号住居跡出土遺物観察表（第214図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	9.3	3.1		WB	A	灰	70	SJ148 No.1 湖西産？ 底部全面ヘラ
2	坏	(11.9)	3.5	(7.0)	WB 針	A	灰	25	SJ148 No.8 南比企産 底部内面擦痕 転用硯か
3	長頸壺		(15.5)		WB	A	灰	30	SJ148 No.6・7 湖西産？ 外面に自然釉付着
4	甕	(25.2)	(35.9)		BR	B	橙	70	SJ148 No.2
5	甕	18.6	37.7	5.3	BR	B	橙	85	SJ148 No.2
6	蓋	(17.5)	(3.5)		WB 針	A	灰	40	SJ149 No.1 南比企産 自然釉付着
7	台付甕	10.9	12.0	(9.8)	WB	C	にぶい橙	80	SJ149
8	台付甕	(12.2)	(18.0)		BR	B	にぶい橙	40	SJ149 No.4
9	横瓶		(20.6)		WB 針	B	灰	40	SJ149 No.3 南比企産
10	蓋		(2.0)		WB	A	灰白	5	SJ148・149 湖西産？
11	蓋	(17.9)	(2.1)		WB 針	B	灰白	10	SJ148・149 南比企産
12	坏		(3.8)	(8.1)	WB	A	灰		SJ148・149 新治産 底面に墨書
13	長頸壺	(7.0)	(3.5)		WB	A	灰		SJ148・149 末野産？

第215図 F区第150号住居跡・出土遺物



F区第150号住居跡出土遺物観察表（第215図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(10.0)	(3.5)		WBR	C	橙	20	

第145号住居跡も遺構確認段階で既に床面は消失しており、掘形と壁溝が検出された。壁溝は幅0.23m、深さ0.04mほどで、覆土には焼土粒・黄褐色土粒・炭化物粒が少し含まれている。平面形態は方形で、規模は不明である。南北軸方位N-34.5°-Eを測る。カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。遺物は図示し得ないが、須恵器坏片、土師器坏片が出土している。

第148号住居跡（第213・214・53・56図）

BK42グリッドに位置し、重複する第149号住居跡よ

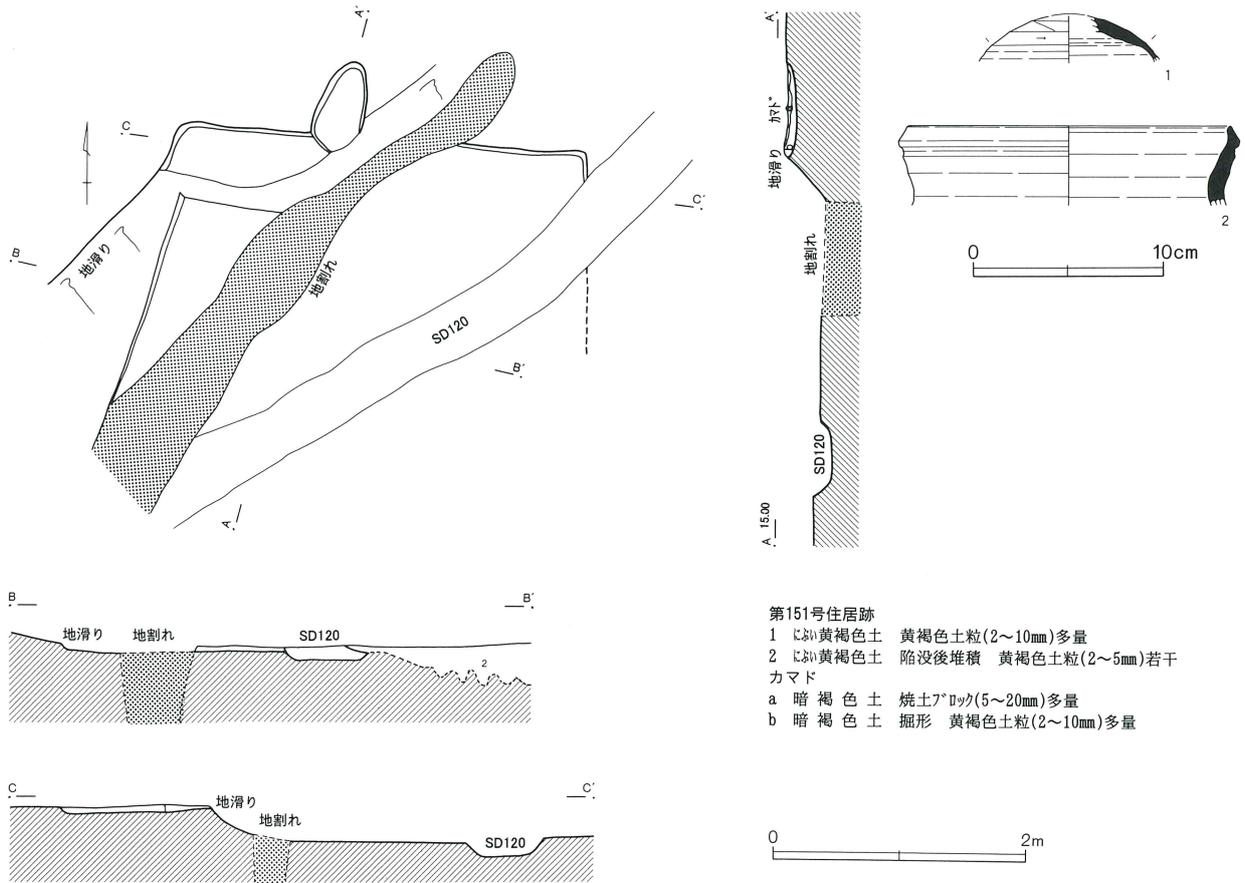
りも古い。

平面形態は方形で、規模は主軸長4.44m×東西幅4.55m×深さ0.14m、主軸方位N-35°-Wを測る。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は造り付けられている。燃焼部からは細かく破損した土師器甕が出土している。柱穴・壁溝は検出されていない。貯蔵穴はカマド東側の北東コーナー付近に付設され、長径0.68m×短径0.54m×深さ0.12mの平面円形である。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第216図 F区第151号住居跡・出土遺物



F区第151号住居跡出土遺物観察表 (第216図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(2.5)		WB	A	灰	10	秋間産?
2	短頸壺	(17.0)	(4.2)		WB	C	灰白		群馬産?

第149号住居跡 (第213・214・53図)

BJ42、BK42グリッドに位置し、重複する第148号住居跡よりも新しく、第110号溝跡よりも古い。上層部は攪乱が著しい。

大地震に伴う地割れの影響を受け、若干の変形が認められる。平面形態は長方形で、規模は主軸長3.33m×南北4.72m×深さ0.12m、主軸方位N-28°-Wを測る。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は黄褐色土ブロックを少し含む土壌によって造り付けられている。灰層の上層に天井部が崩落した状態で堆積している。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第150号住居跡 (第215・53図)

BJ41・42グリッドに位置し、重複する第89・110・127・137号溝跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は南北長3.96m×深さ0.10m、南北軸方位N-23°-Wを測る。覆土は殆ど残存していないものの、埋没状況は自然堆積の可能性はある。

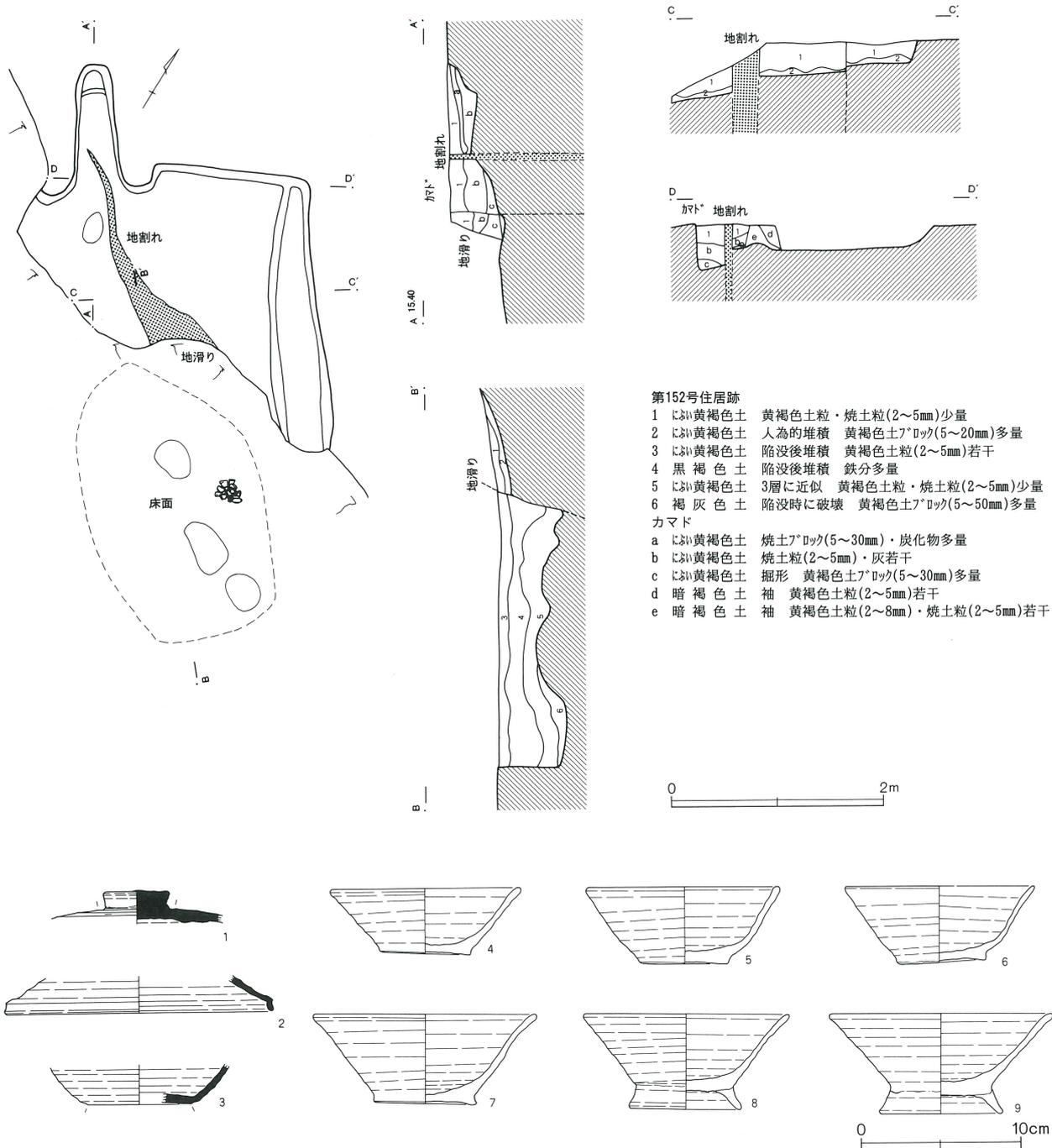
カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。壁溝は西壁～南壁に巡り、幅0.16~0.20m、深さ0.21mほどである。

遺物は図示したほかに、土師器甕片が出土している。

第151号住居跡 (第216・53図)

BK41グリッドに位置し、重複する第120号溝跡よりも古い。

第217図 F区第152号住居跡・出土遺物

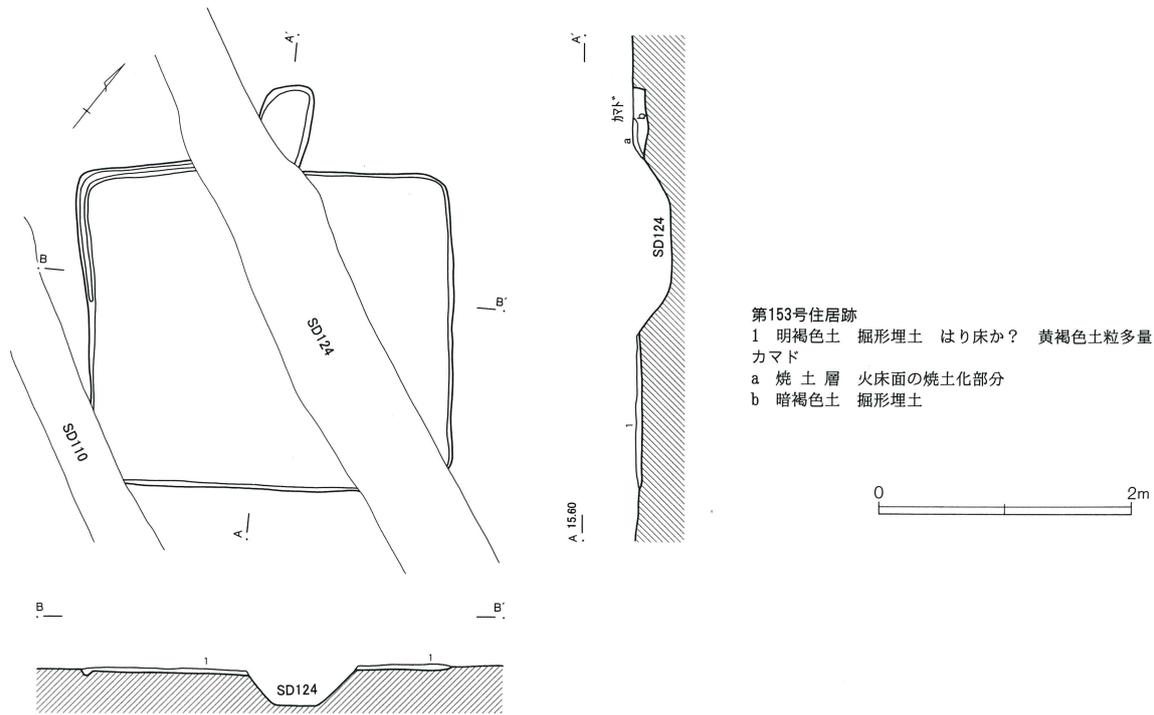


- 第152号住居跡
- 1 にぶい黄褐色土 黄褐色土粒・焼土粒(2~5mm)少量
 - 2 にぶい黄褐色土 人為的堆積 黄褐色土7°Dック(5~20mm)多量
 - 3 にぶい黄褐色土 陥没後堆積 黄褐色土粒(2~5mm)若干
 - 4 黒褐色土 陥没後堆積 鉄分多量
 - 5 にぶい黄褐色土 3層に近似 黄褐色土粒・焼土粒(2~5mm)少量
 - 6 褐灰色土 陥没時に破壊 黄褐色土7°Dック(5~50mm)多量
- カマド
- a にぶい黄褐色土 焼土7°Dック(5~30mm)・炭化物多量
 - b にぶい黄褐色土 焼土粒(2~5mm)・灰若干
 - c にぶい黄褐色土 掘形 黄褐色土7°Dック(5~30mm)多量
 - d 暗褐色土 袖 黄褐色土粒(2~5mm)若干
 - e 暗褐色土 袖 黄褐色土粒(2~8mm)・焼土粒(2~5mm)若干

F区第152号住居跡出土遺物観察表 (第217図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(2.1)		WBR	A	灰	10	未野産
2	蓋	(16.7)	(2.3)		WB針	A	灰	5	南比企産
3	坏		(2.5)	(6.5)	WB針	A	灰	10	南比企産
4	坏	11.9	4.2	5.7	WBR	B	浅黄	95	底部糸切離し
5	坏	12.0	4.9	5.5	BR	B	淡黄	80	底部糸切離し
6	坏	11.8	4.8	5.6	BR	A	にぶい黄橙	95	底部糸切離し
7	坏	14.0	5.7	6.5	WBR	B	淡黄	95	No.1 底部糸切離し
8	高台付坏	12.9	6.0	(7.1)	WBR	B	淡黄	60	貼付高台
9	高台付坏	(14.0)	6.3	(7.7)	BR	B	にぶい黄橙	20	

第218図 F区第153号住居跡



大地震に伴う地滑りによって住居跡の大半を消失し、また地割れによって大きく変形されている。平面形態は方形で、規模は東西幅3.30m、主軸方位N-14°-Wを測る。

カマドは北壁中央に設置されているが、地滑りや地割れの影響によって燃焼部・袖部の状況は不明である。柱穴・壁溝・貯蔵穴は確認されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第152号住居跡 (第217・53図)

BJ40グリッドに位置する。

住居跡南半部は大地震に伴う地滑りの影響を受け、地割れがカマド燃焼部付近まで入り込み、床面に段差を生じている。地滑り下のカマドの延長付近には、かろうじて床面が検出されている。平面形態は方形で、規模は不明である。主軸方位N-31.5°-Wを測る。埋没状況は覆土下層部は人為的に埋め戻されているが、上層は自然堆積である。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は暗褐色土によって造り付けられている。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。壁溝は東壁に沿って確認され、幅0.26~

0.55m、深さ0.02mほどと浅い。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第153号住居跡 (第218・52・53図)

BI40グリッドに位置し、重複する第110・124号溝跡よりも古い。

平面形態は方形で、規模は主軸長2.52m×東西幅2.92m、主軸方位N-33°-Wを測る。遺構確認段階には既に床面が露呈し、埋没状況は明確ではない。床面には貼床が施されている。

カマドは北壁中央に設置されているが、火床面の一部を残すのみで、燃焼部・袖部は第124号溝跡によって攪乱されている。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

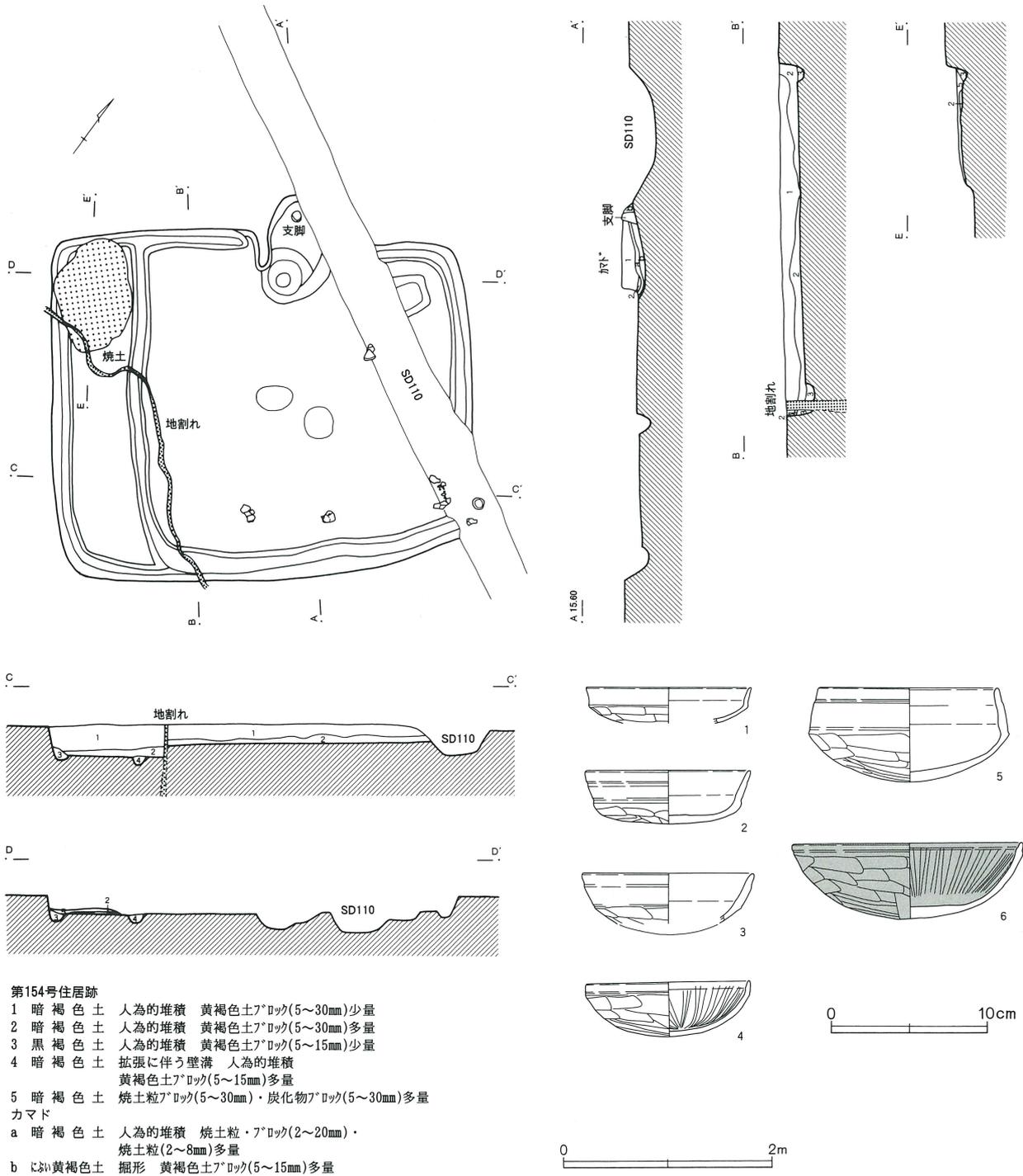
遺物は図示し得ないが、土師器甕片が出土している。

第154号住居跡 (第219・52・53図)

BI39・40、BJ39・40グリッドに位置し、重複する第110号溝跡よりも古い。

平面形態は長方形で、西部は拡張が行われている。規模は拡張前が東西幅3.36m、拡張後が主軸長3.37m×東西幅4.04m×深さ0.17m、主軸方位N-40°-

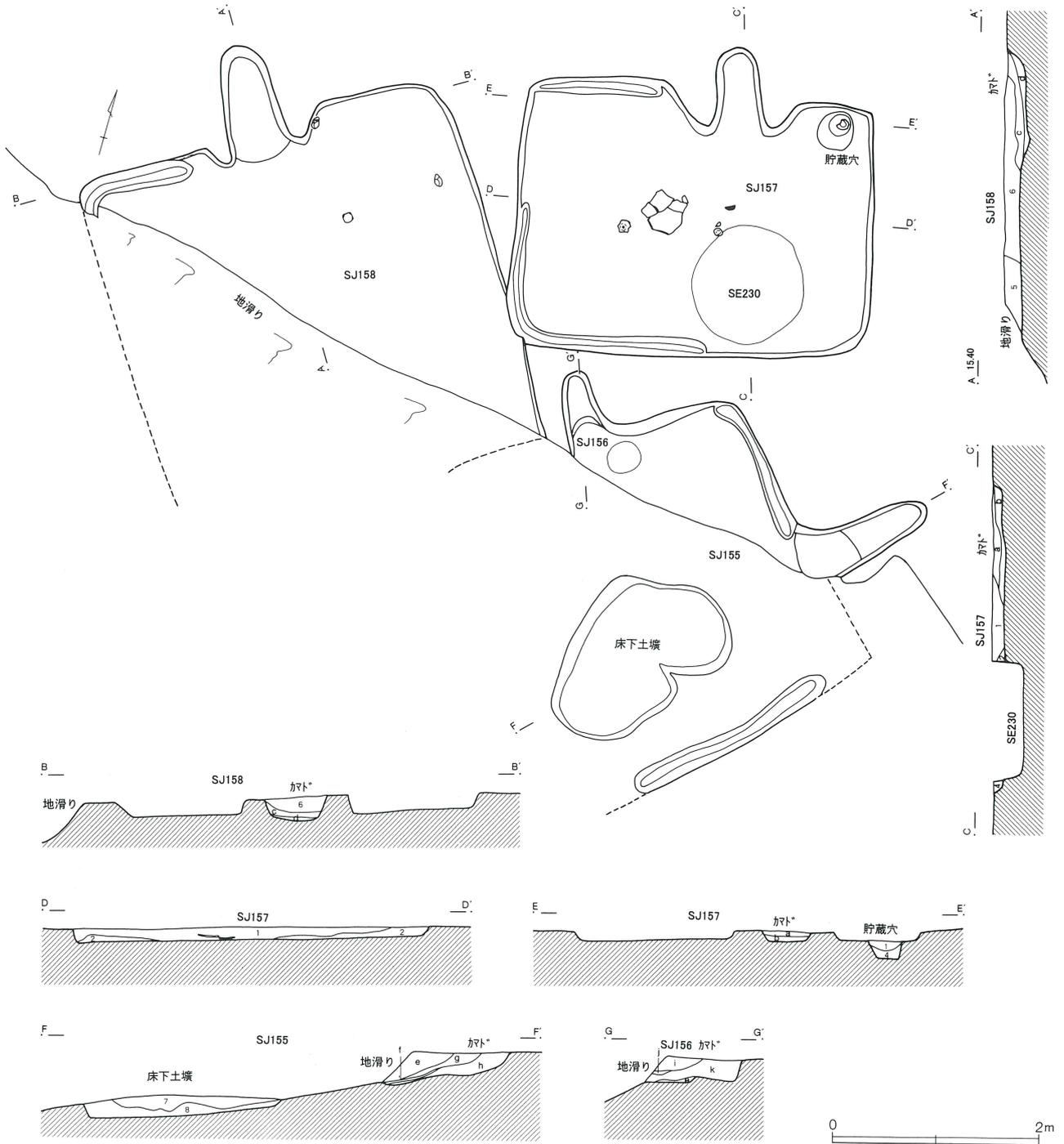
第219図 F区第154号住居跡・出土遺物



F区第154号住居跡出土遺物観察表 (第219図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(10.6)	(2.3)		WBR	B	橙	20	
2	坏	10.6	3.0		WB	B	橙	95	No. 5
3	坏	(10.9)	(3.2)		WB	B	暗褐	15	
4	坏	10.4	3.5		WBR	B	橙	80	No. 6
5	坏	(11.3)	(6.0)		WB	B	に π 黄橙	30	No. 3
6	坏	14.5	4.9		WBR	B	に π 黄橙	80	No. 1・2 赤彩

第220図 F区第155・156・157・158号住居跡



第155・156・157・158号住居跡

第157号住居跡

1 黒褐色土 人為の堆積 焼土粒・黄褐色土粒多量

2 暗褐色土 黄褐色土粒多量

第157号住居跡貯蔵穴

3 黒褐色土 炭化物多量 焼土粒少量

4 黒褐色土 砂粒多量

第157号住居跡カマド

a 黒褐色土 流入土 焼土粒・炭化物粒多量

b 暗褐色土 掘形埋土 黄褐色土粒多量

第158号住居跡

5 灰黄褐色土 黄褐色土粒・焼土粒・炭化物粒(2~8mm)多量

6 暗褐色土 黄褐色土粒・焼土粒・炭化物粒(2~5mm)少量

第158号住居跡カマド

c 暗褐色土 焼土粒・炭化物粒(2~8mm)多量

d 灰黄褐色土 掘形埋土 黄褐色土7°ツツ(5~30mm)多量

第155号住居跡床下土壇

7 黒褐色土 人為の堆積 黄褐色土多量

8 暗黄褐色土 人為の堆積 黄褐色土7°ツツ主体 黒褐色土2~3割混入

第155号住居跡カマド

e 黒褐色土 人為の堆積 黄褐色土粒多量

f 黒褐色土 焼土7°ツツ・粒混合 天井部陥落

g 炭化物層

h 黒褐色土 炭化物・焼土多量

第156号住居跡カマド

i 黒褐色土 焼土粒・黄褐色土粒少量 カマド天井部構築材か?

j 黒褐色土 焼土 天井部内面

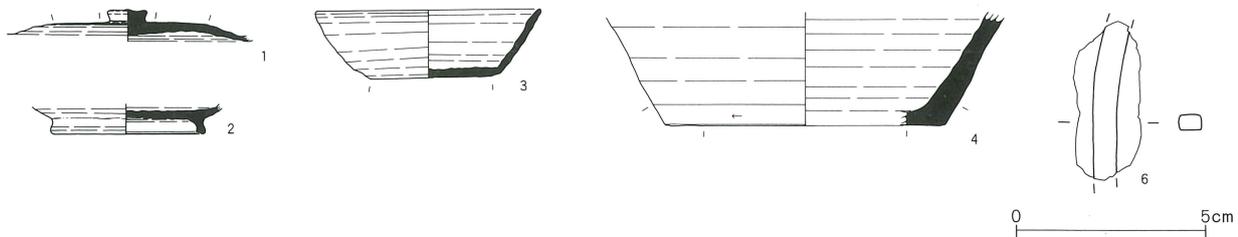
k 黒褐色土 流入土 焼土粒多量 黄褐色土粒少量

l 焼土層 火床面

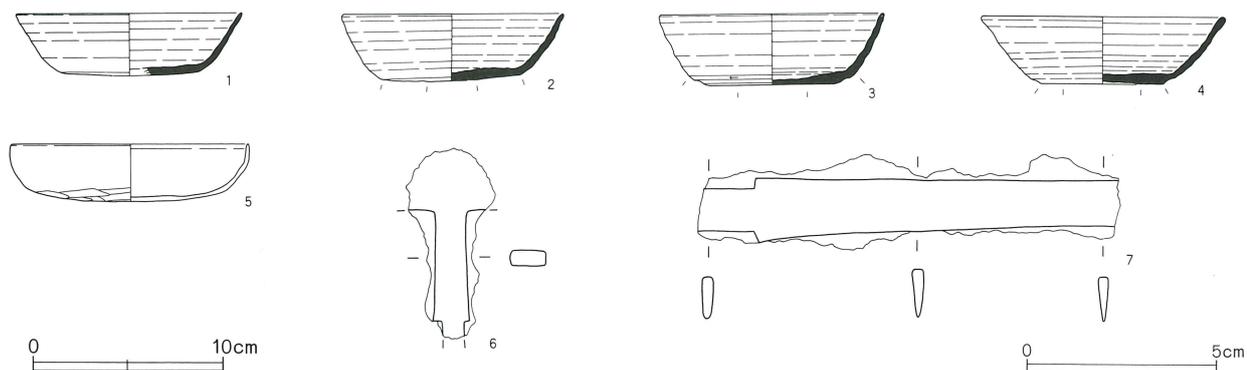
第221图 F区第156号住居跡出土遺物



第222图 F区第157号住居跡出土遺物



第223图 F区第158号住居跡出土遺物



Wを測る。南西部分には大地震に伴う地割れと、その影響による床面の沈降がみられる。埋没状況は人為的に埋め戻されている。

北西コーナー付近には焼土を多く含んだ土層が堆積している。住居跡内小鍛冶跡の存在を想定したが、床面への掘り込みがなく、また堆積状況の観察からも、埋め戻す際に焼土を含んだ土壌が集中したものと判断される。

カマドは北壁中央に設置され、拡張に伴う造り替えは行われていない。第110号溝跡に攪乱され、袖部は西側のみが残存している。燃烧部には支脚が据えられている。覆土は人為的に埋め戻された痕跡を残し、住居跡廃棄段階にカマドを破壊しているものと思われる。壁溝は拡張前後ともに全周し、幅0.16~0.33m、深さ0.20~0.25mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片、鉄滓が出土している。

第155・156号住居跡（第220・221・53図）

BJ39グリッドに位置し、第158号住居跡と重複する。

大半が大地震に伴う地滑りによって破壊され、北西コーナー部とここから続く2基のカマドが確認された。そのため当初は第155号住居跡・第156号住居跡の2軒の住居跡として調査を開始したが、カマドの残存状態や覆土の堆積状況からカマドが造り替えられた1軒の住居跡と判断された。ただし遺物取り上げ作業との関係から第155・156号住居跡という1軒の住居跡として取り扱っている。

地滑り下の区域からは、地割れを免れた若干の床面と南壁に沿う壁溝が検出されている。平面形態は長方形で、規模は東西幅(3.18)m、主軸方位N-43.5°-Eを測る。

カマドは北壁中央東よりの第155号住居跡カマドと西壁中央の第156号住居跡カマドとした2基が設置されている。2基のカマドの関係は第156号住居跡カマドが第155号住居跡カマドに造り替えられたものである。壁溝は東壁北東コーナー~中央および南壁に沿って巡り、幅0.10~0.24mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていないが、住居跡南東半に床下土壌が付設されている。長径1.90m×短径1.16m×深さ0.14m

F区第156号住居跡出土遺物観察表（第221図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(13.0)	3.2	(7.8)	WB針	B	灰白	20	カマド 南比企産

F区第157号住居跡出土遺物観察表（第222図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(1.7)		WB針	A	灰	60	No.1 南比企産 内面擦痕
2	坏		(1.6)	(8.2)	WB針	A	灰	25	南比企産
3	坏	11.9	3.6	6.4	WB針	A	灰	75	No.3・4・5 南比企産 底部全面ヘラ
4	甕		(6.0)	(14.8)	WB	B	灰		末野産
5	甕				WB	A	灰		No.2 末野産
6	釘								長さ4.2×幅0.6×厚さ0.4×重さ9.6g

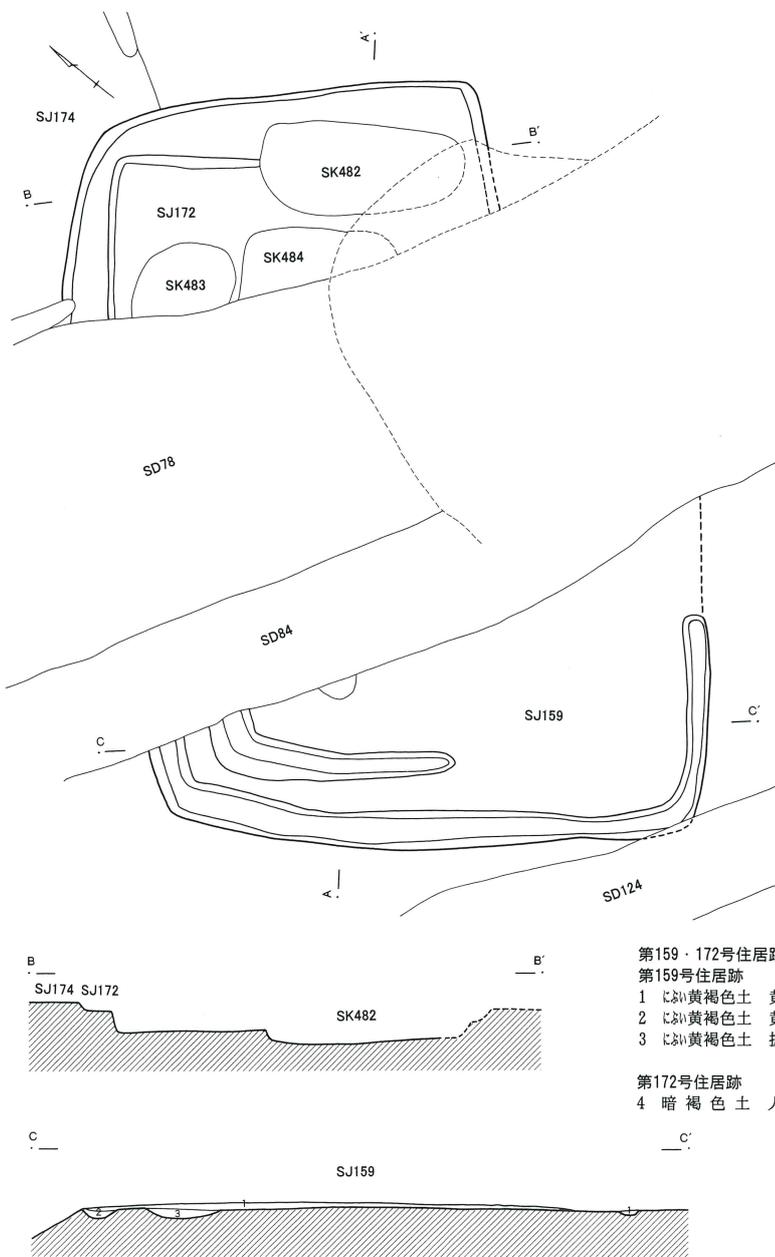
F区第158号住居跡出土遺物観察表（第223図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(11.9)	3.3	(7.4)	WBR片	C	灰黄	40	産地不明
2	坏	11.7	3.5	7.3	WBR針	A	黄灰	75	南比企産 底部周辺ヘラ 底部ヘラ記号「×」
3	坏	(11.8)	3.7	(6.6)	WB針	A	灰	40	No.3 南比企産 底部周辺ヘラ
4	坏	12.9	3.6	6.5	WB針	A	灰	50	南比企産 底部周辺ヘラ
5	坏	12.4	3.0		WBR	B	橙	70	No.1
6	鉄鎌								長さ5.0×幅2.2×厚さ0.4×重さ8.1g
7	刀子								長さ11.0×幅1.65×厚さ0.25×重さ29.4g

F区第172号住居跡出土遺物観察表（第225図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(9.8)	(3.0)		WB	B	橙	20	

第224図 F区第159・172号住居跡



第159・172号住居跡

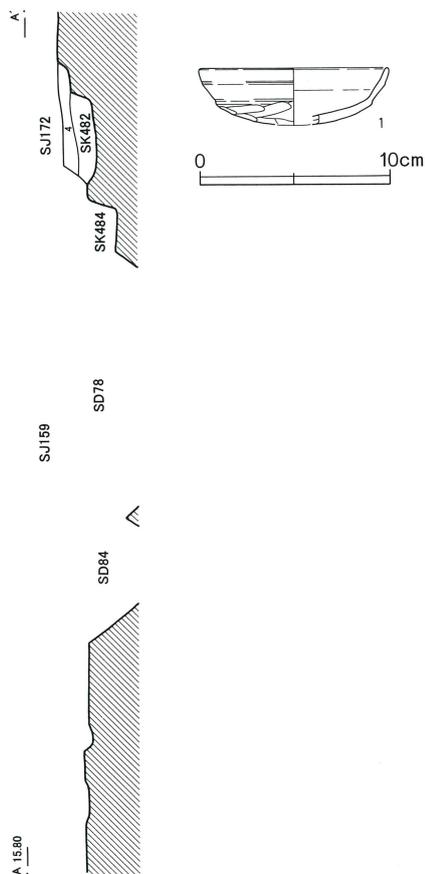
第159号住居跡

- 1 におい黄褐色土 黄褐色土粒(2~8mm)少量
- 2 におい黄褐色土 黄褐色土粒(2~5mm)多量
- 3 におい黄褐色土 拡張に伴う人為的堆積 黄褐色土7°ブロック(5~20mm)多量

第172号住居跡

- 4 暗褐色土 人為的堆積 黄褐色土粒多量 焼土粒・焼土7°ブロック(10mm)少量

第225図 F区第172号住居跡出土遺物



で、平面不整形・床面の凹凸が激しい土壌である。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第157号住居跡 (第220・222・52・53図)

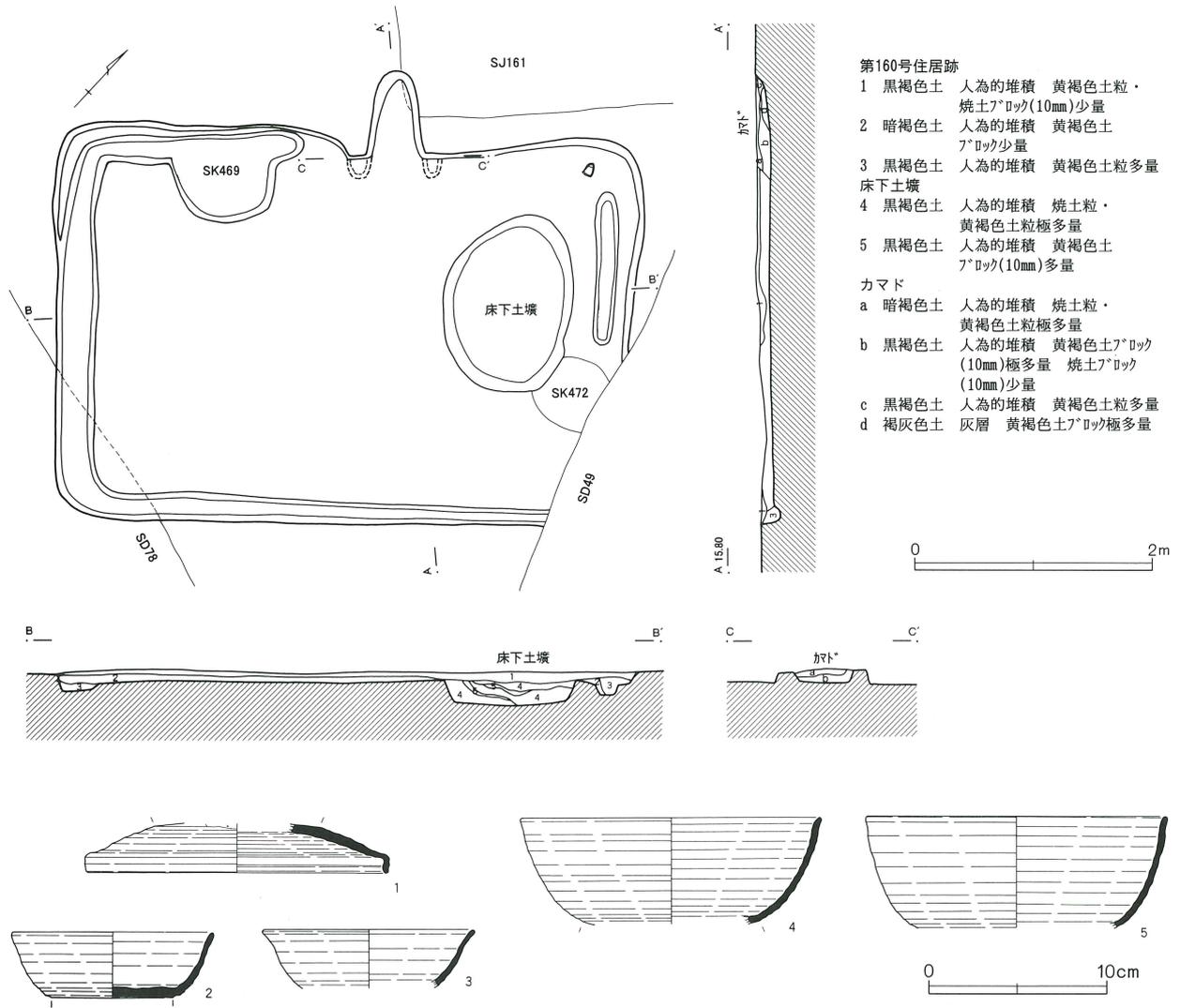
BI39グリッドに位置し、重複する第158号住居跡、第230号井戸跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は主軸長2.66m×東西幅3.43m×深さ0.13m、主軸方位N-16°-Wを測る。埋没状況は自然堆積と思われる。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は地山が掘り残されている。柱穴は検出されていない。壁溝は北壁西半および南西コーナー付近に巡り、幅0.10~0.20mほどである。貯蔵穴は北東コーナーに付設され、南北0.37m×東西0.35m×深さ0.16mを測る平面円形である。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第226図 F区第160号住居跡・出土遺物



F区第160号住居跡出土遺物観察表 (第226図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(16.8)	(2.8)		WB 針	A	灰	10	カマド 南比企産
2	坏	(11.3)	3.7	(6.8)	WB 針	A	灰白	25	南比企産 底部全面ヘラ 底部ヘラ記号
3	坏	(11.9)	(3.3)		WBR 針	B	灰白	10	南比企産
4	椀	(16.9)	(6.0)		WB 針	A	灰	20	No.1 南比企産
5	椀	(16.9)	(6.3)		WB 針	A	灰	10	カマド 南比企産

第158号住居跡 (第220・223・53図)

BI39、BJ39グリッドに位置し、重複する第157号住居跡よりも新しい。

平面形態は方形であるが、大地震に伴う地滑りによって南半部が失われている。規模は主軸長3.50m以上×東西幅3.73m以上×深さ0.16m、主軸方位N-33°-Wを測る。埋没状況は自然堆積である。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は造り付けられ

ている。壁溝は北壁西半に沿って認められ、幅0.21m、深さ0.15mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第159号住居跡 (第224・52図)

BH39、BI39グリッドに位置し、重複する第78・84・124号溝跡よりも古い。

平面形態は方形であるが、第78・84号溝跡によって攪乱されている。壁溝が二重に巡っていることから、拡張が推測される。壁溝は幅0.14～0.31m、深さ0.04～0.08mほどである。規模は拡張前が東西長4.00m、拡張後が東西長4.38m、南北軸方位N—52°—Eを測る。遺構確認段階で既に床面が消失しており、埋没状況は不明である。カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示し得ないが、土師器甕片が出土している。

第172号住居跡 (第224・225・52図)

BH39グリッドに位置し、第174号住居跡と重複する。第482・483・484号土壇、第78・84号溝跡よりも古い。

平面形態は方形であるが、南西半が第78・84号溝跡によって攪乱され、規模は東西長3.52m×深さ0.07m、南北軸方位N—47°—Eを測る。遺構確認段階で既に床面が露呈している箇所もあり、埋没状況は明確ではない。北壁・西壁に沿ってテラスが巡り、床面との比高差は0.16mほどである。カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第160号住居跡 (第226・55図)

BI43、BJ42・43グリッドに位置し、第469・472号土壇と重複する。第161号住居跡、第49・78号溝跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.35m×幅4.99m×深さ0.10m、主軸方位N—41°—Wを測る。埋没状況は自然堆積である。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は造り付けられている。燃焼部最下層には灰が堆積し、ほかは人為的に埋め戻された土層であり、住居跡廃棄段階に破壊されたものと予想される。壁溝は北壁西半～西壁～南壁および東壁北半に巡り、幅0.13～0.34m、深さ0.16～0.20mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。東壁に沿って床下土壇が付設され、長径1.52m×短径1.08m×深さ0.20mの平面隅丸長方形である。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師

器甕・坏片が出土している。

第161号住居跡 (第227・228・55図)

BI42・43グリッドに位置し、第475・477号土壇、第49・50号溝跡と重複する。第160・162号住居跡よりも新しい。

平面形態は方形で、東壁・南壁が拡張されている。規模は拡張前が主軸長6.63m×南北幅6.86m、拡張後が主軸長7.78m×南北幅7.80m×深さ0.06m、主軸方位N—48°—Wを測る。覆土の堆積状況は人為的に埋め戻されている。

カマドは西壁に設置され、袖部は設けられていない。燃焼部は浅く掘り込まれ、灰層が堆積している。柱穴は拡張前後それぞれに伴う2本ずつが検出され、住居の拡張に伴って柱位置も移動している。壁溝は拡張前後とも全周し、幅0.20～0.43m、深さ0.13～0.30mほどである。貯蔵穴は確認されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏・平瓶片、土師器甕・坏片が出土している。

第162号住居跡 (第227・55図)

BI42グリッドに位置し、第475・477号土壇と重複する。第161号住居跡、第242号井戸跡よりも古い。

平面形態は方形で、規模は東西長4.03m、南北軸方位N—46.5°—Wを測る。遺構確認段階で既に床面が消失し、壁溝のみが検出されている。

カマド・柱穴・貯蔵穴は検出されていない。壁溝は全周し、幅0.10～0.24m、深さ0.08mほどである。

遺物は出土していない。

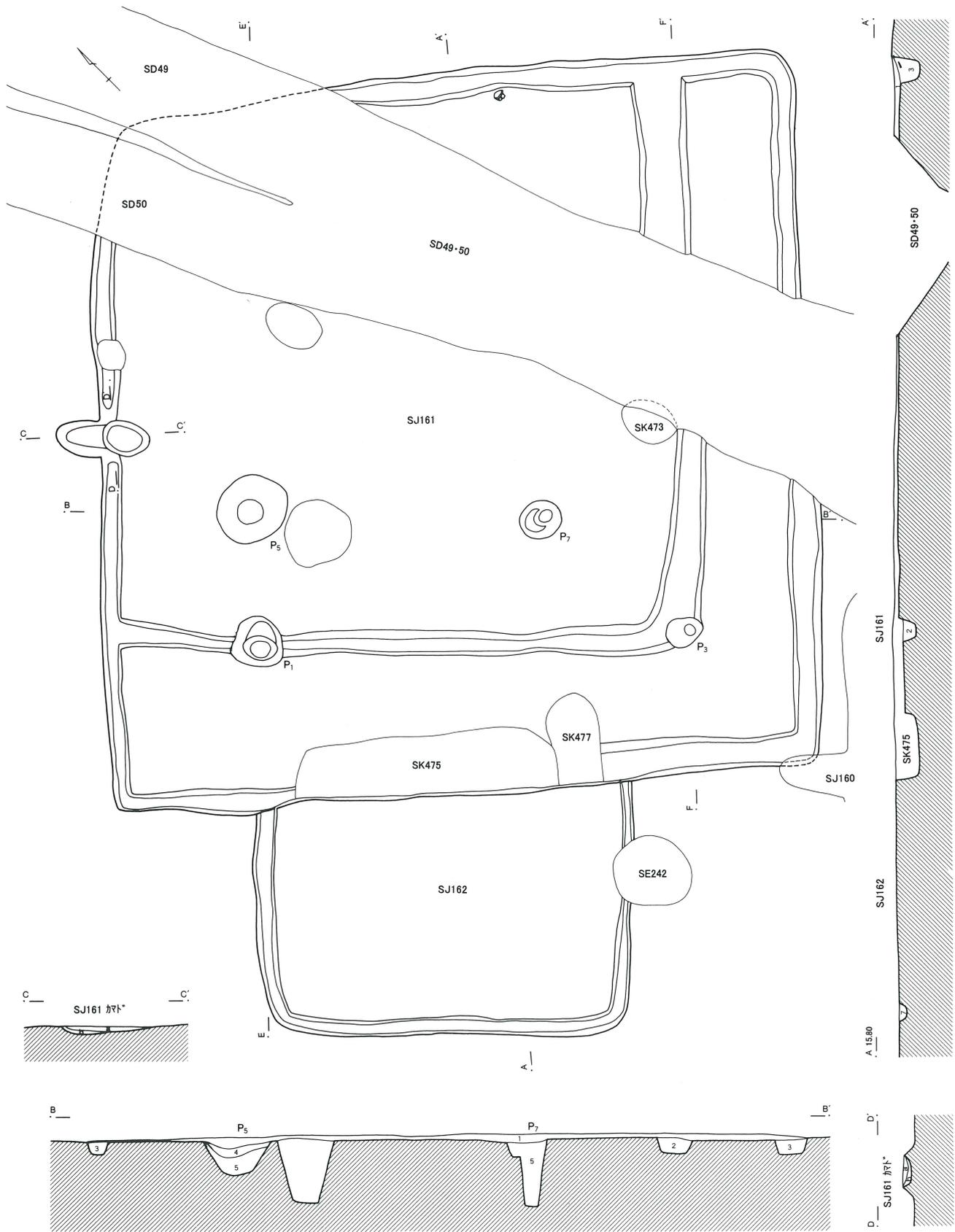
第163号住居跡 (第229・230・52図)

BH40グリッドに位置し、重複する遺構はない。

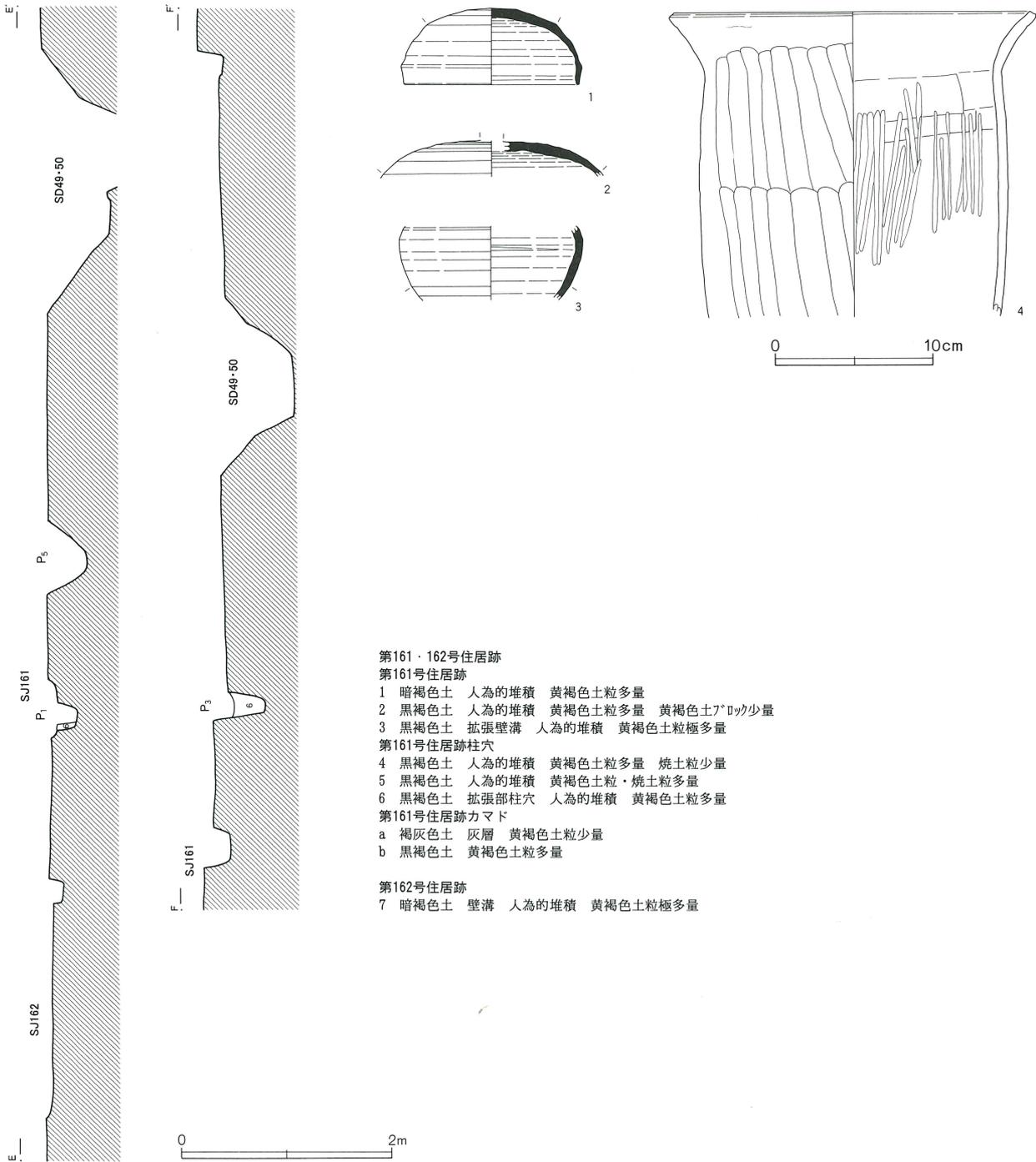
平面形態は方形で、規模は主軸長4.48m×東西幅4.35m×深さ0.09m、主軸方位N—23°—Wを測る。

カマドは北壁中央と東壁中央にそれぞれ設置されている。北壁中央のカマドAは造り替えられたカマドである。袖部は造り付けられているが、住居内部への張り出しは小さい。東壁のカマドBは住居跡構築当初のカマドで、破壊後に壁溝が掘り直されている。柱穴は4本で、柱は基本的に抜き取られているが、P1には

第227図 F区第161・162号住居跡



第228図 F区第161号住居跡出土遺物



第161・162号住居跡

第161号住居跡

- 1 暗褐色土 人為の堆積 黄褐色土粒多量
- 2 黒褐色土 人為の堆積 黄褐色土粒多量 黄褐色土フノック少量
- 3 黒褐色土 拡張壁溝 人為の堆積 黄褐色土粒極多量

第161号住居跡柱穴

- 4 黒褐色土 人為の堆積 黄褐色土粒多量 焼土粒少量
- 5 黒褐色土 人為の堆積 黄褐色土粒・焼土粒多量
- 6 黒褐色土 拡張部柱穴 人為の堆積 黄褐色土粒多量

第161号住居跡カマド

- a 褐灰色土 灰層 黄褐色土粒少量
- b 黒褐色土 黄褐色土粒多量

第162号住居跡

- 7 暗褐色土 壁溝 人為の堆積 黄褐色土粒極多量

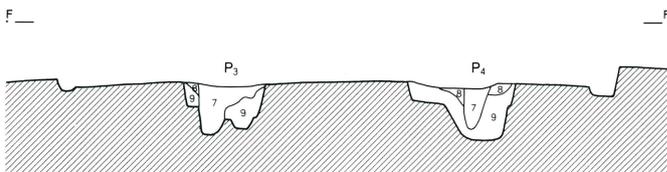
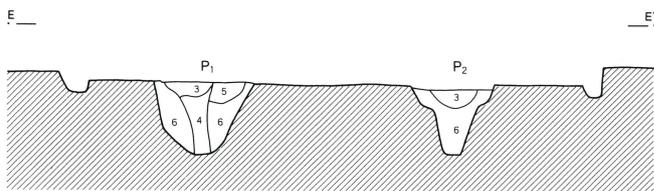
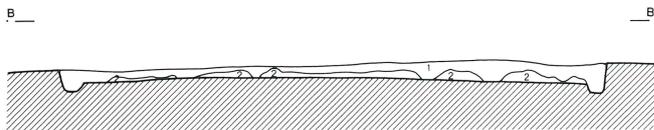
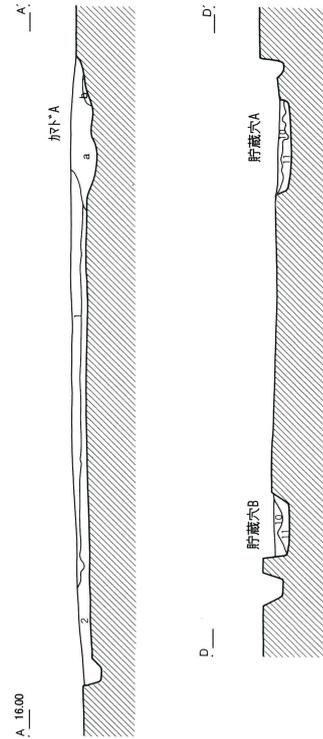
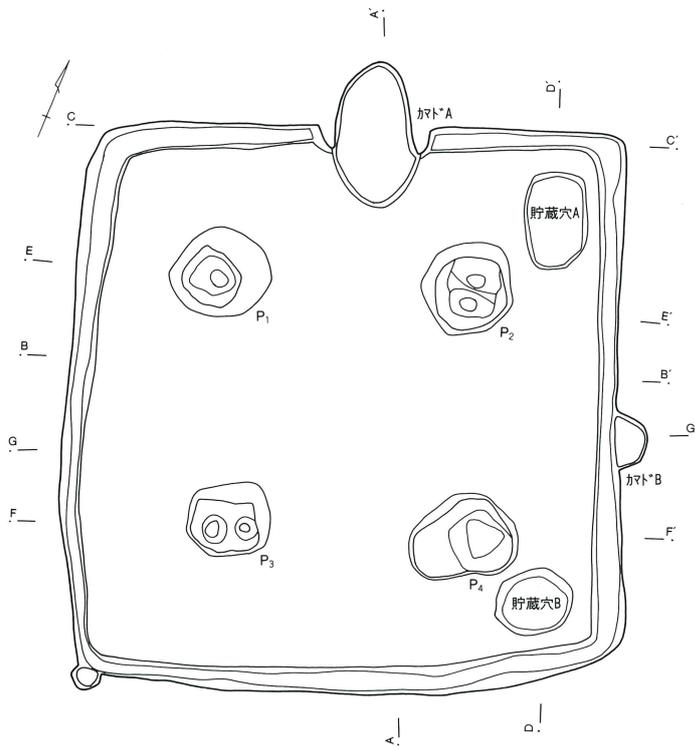
F区第161号住居跡出土遺物観察表 (第228図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(10.9)	4.8		WB	B	灰	40	末野産?
2	蓋		(2.3)		WB	B	灰	5	末野産 or 藤岡産
3	はそう		(4.7)		B	A	灰	5	湖西産
4	甗	(22.5)	(19.3)		WBR	B	にぶい橙	20	

柱痕が残存している。掘形は円形で、暗褐色土が充填されている。壁溝は全周し、幅0.10~0.26m、深さ0.10

~0.24mほどである。貯蔵穴は2基付設され、北東コーナー貯蔵穴AがカマドA、南東コーナー貯蔵穴B

第229図 F区第163号住居跡

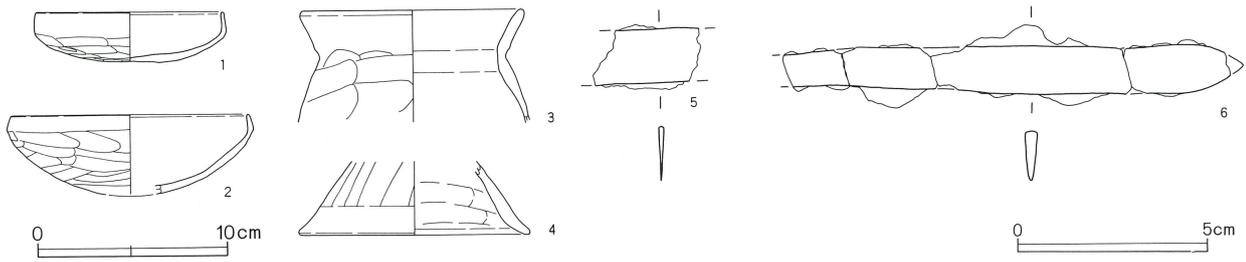


第163号住居跡

- 1 濃い黄褐色土 黄褐色土7°ブロック(20mm)少量
- 2 濃い黄褐色土 黄褐色土7°ブロック(30mm)多量
- 柱穴
- 3 暗褐色土
- 4 暗褐色土 黄褐色土7°ブロック(10mm)少量
- 5 暗褐色土 黄褐色土7°ブロック(20mm)少量
- 6 暗褐色土 黄褐色土7°ブロック(40mm)多量
- 7 暗褐色土 柱抜取後の埋没土
- 8 暗褐色土 黄褐色土7°ブロック(10mm)混入
- 9 暗褐色土 黄褐色土7°ブロック(30~40mm)混入
- 貯蔵穴
- 10 暗褐色土
- 11 暗褐色土 黄褐色土7°ブロック(10mm)少量
- カマド
- a 黒褐色土 焼土7°ブロック(10~30mm)混入
- b 暗褐色土 焼土7°ブロック(10mm)少量
- c 暗褐色土 黄褐色土7°ブロック(20mm)少量
- d 暗褐色土 焼土7°ブロック(10mm)混入

0 2m

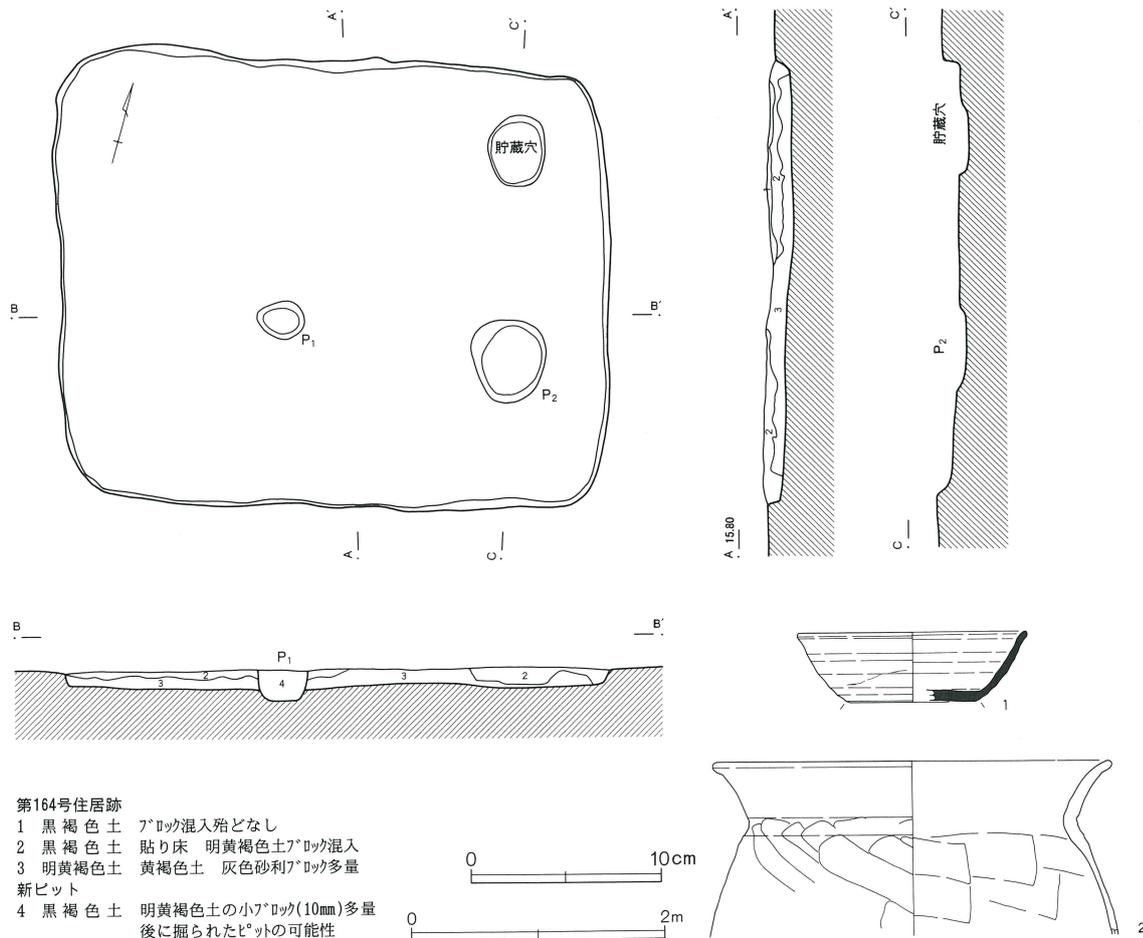
第230図 F区第163号住居跡出土遺物



F区第163号住居跡出土遺物観察表（第230図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	9.8	2.5		WBR	B	橙	95	カマド
2	坏	(12.4)	(4.2)		WBR	B	橙	40	カマド
3	小型甕	(11.4)	(5.9)		WB	B	にぶい橙	10	
4	台付甕		(3.9)	(12.0)	WB	B	暗褐	5	
5	刀子								長さ2.3×幅1.4×厚さ0.1×重さ2.5g
6	刀子								長さ11.6×幅1.3×厚さ0.3×重さ17.4g

第231図 F区第164号住居跡・出土遺物

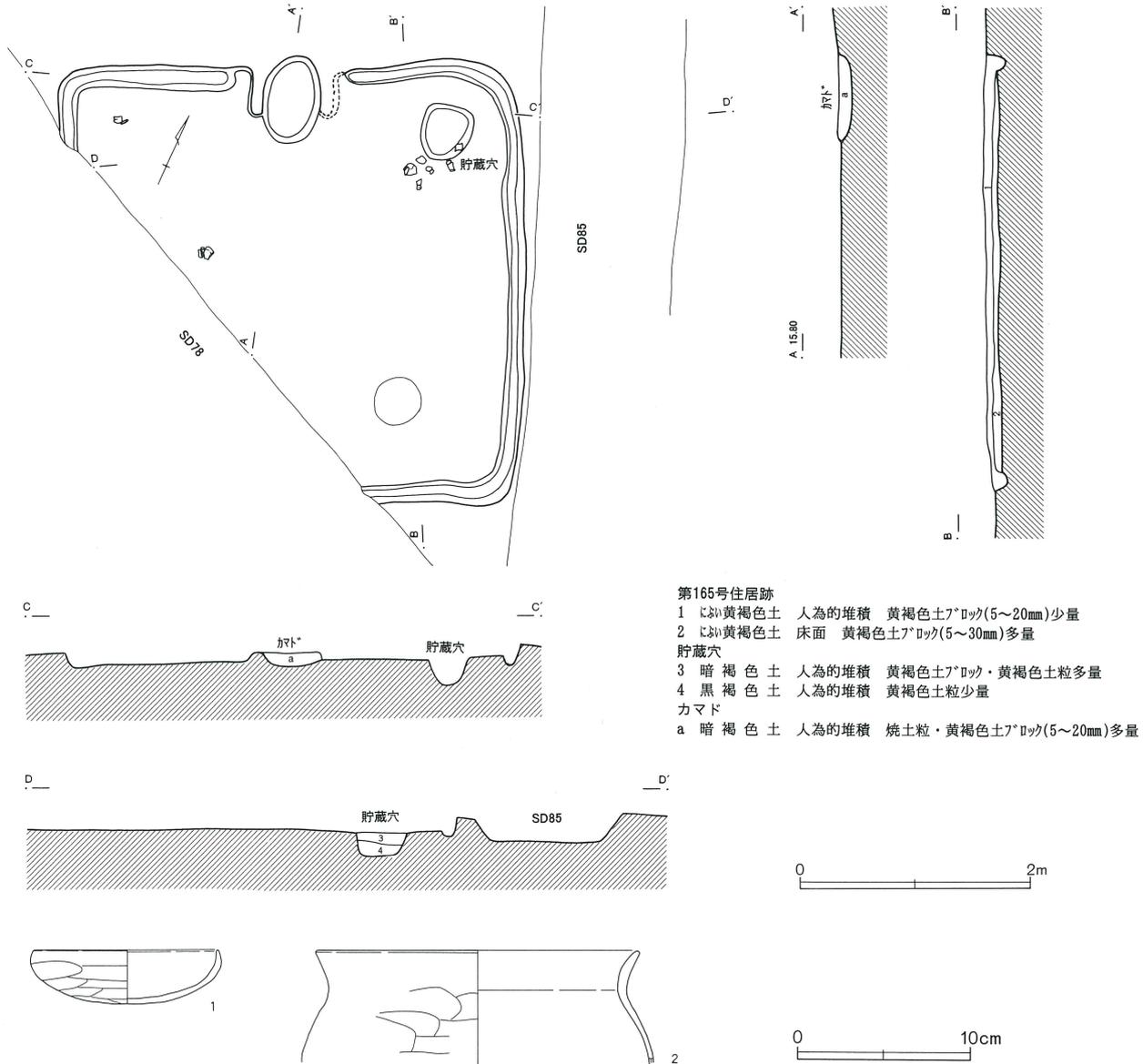


- 第164号住居跡
- 1 黒褐色土 フロック混入殆どなし
 - 2 黒褐色土 貼り床 明黄褐色土フロック混入
 - 3 明黄褐色土 黄褐色土 灰色砂利フロック多量
 - 4 黒褐色土 明黄褐色土の小フロック(10mm)多量 後に掘られたピットの可能性

F区第164号住居跡出土遺物観察表（第231図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.0)	3.7	(6.6)	WB 針	A	灰白	25	南比企産 底部全面へラ
2	甕	(20.6)	(9.2)		BR	B	橙	15	

第232図 F区第165号住居跡・出土遺物



F区第165号住居跡出土遺物観察表 (第232図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(10.5)	(3.1)		WB	B	橙	50	No. 4
2	甕	(18.5)	(6.5)		WB	B	暗褐	5	

がカマドBに対応する。貯蔵穴Aは平面隅丸長方形で、規模は長径0.76m×短径0.48m×深さ0.10mほどである。貯蔵穴Bは平面円形で、規模は長径0.64m×短径0.50m×深さ0.14mほどである。

遺物は図示したほかに、土師器甕片が出土している。

第164号住居跡 (第231・52図)

BH41・42グリッドに位置する。

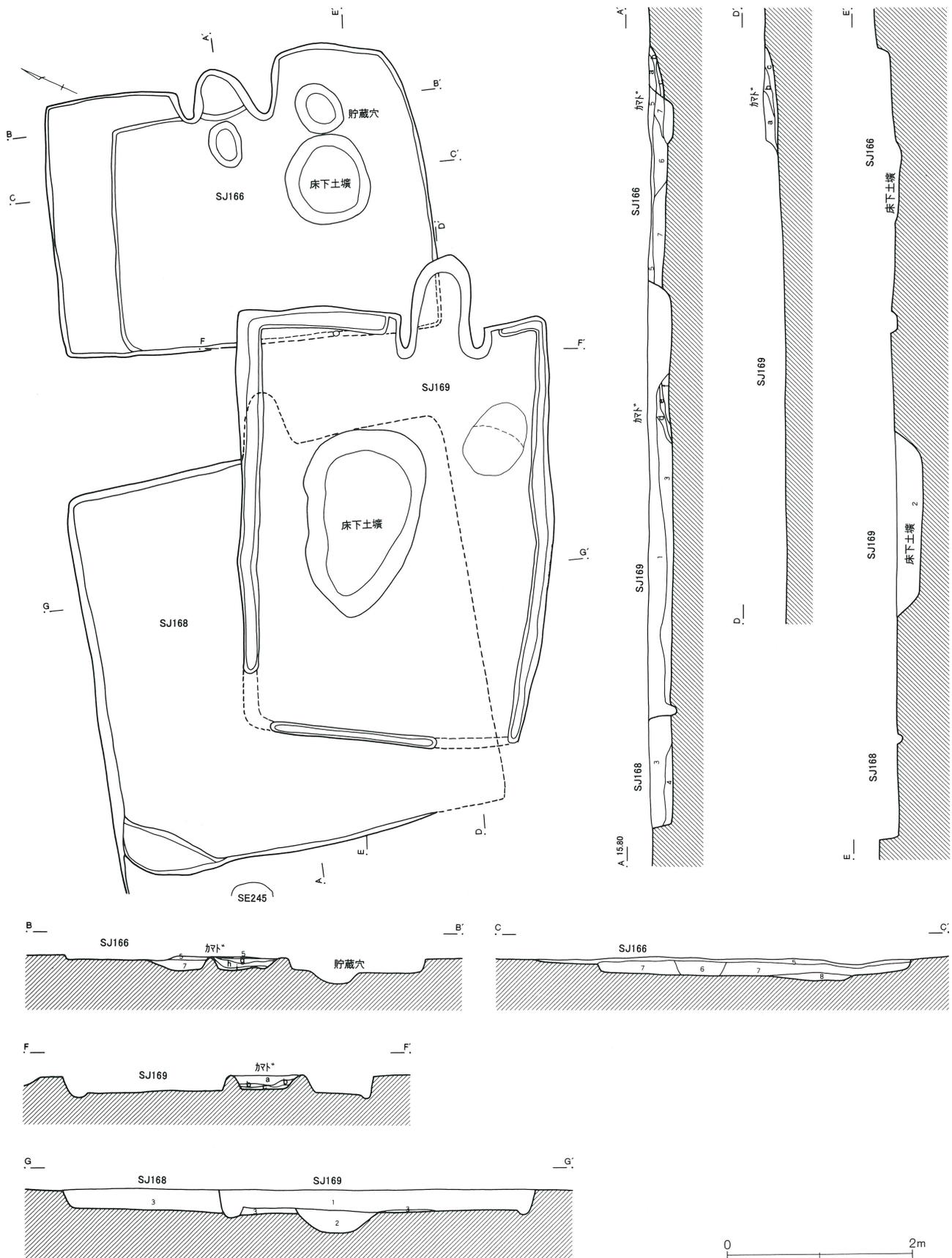
平面形態は長方形で、規模は南北長3.52m×東西長

4.33m、南北軸方位N-15.5°-Wを測る。遺構確認段階で既に床面が消失しており、埋没状況は不明である。

カマド・柱穴・壁溝は検出されていない。貯蔵穴は北東コーナー部に付設され、平面楕円形で、長径0.56m×短径0.44m×深さ0.06mほどである。

遺物は貯蔵穴付近から集中して出土し、カマド支脚もみられることから、カマドが北壁に設置されていた

第233図 F区第166・168・169号住居跡



第166・168・169号住居跡

第169号住居跡

1 暗褐色土 焼土粒少量

第169号住居跡床下土壌

2 黒褐色土 人為的堆積 焼土粒・黄褐色土粒多量

焼土7[°]ロツク(10mm)・炭化物粒・黄褐色土7[°]ロツク少量

第169号住居跡カマド

a 暗褐色土 崩落土 焼土粒少量

b 黄褐色土 焼土7[°]ロツク極多量 炭化物多量

c 褐灰色土 灰層 炭化物多量 焼土粒少量

第168号住居跡

3 黒褐色土 人為的堆積 焼土粒少量 黄褐色土多量

4 黒褐色土 自然堆積? 焼土粒少量 黄褐色土多量

第168号住居跡カマド

d 暗褐色土 黄褐色土7[°]ロツク・焼土7[°]ロツク多量

e 黒褐色土 黄褐色土粒少量

f 褐灰色土 焼土粒少量

第166号住居跡

5 黒褐色土 黄褐色土粒少量 焼土粒微量

6 黒褐色土 人為的堆積 黄褐色土7[°]ロツク少量 黄褐色土粒多量

7 黒褐色土 人為的堆積 黄褐色土7[°]ロツク・黄褐色土粒極多量

第166号住居跡床下土壌

8 黒褐色土 人為的堆積 黄褐色土7[°]ロツク・黄褐色土粒多量

第166号住居跡カマド

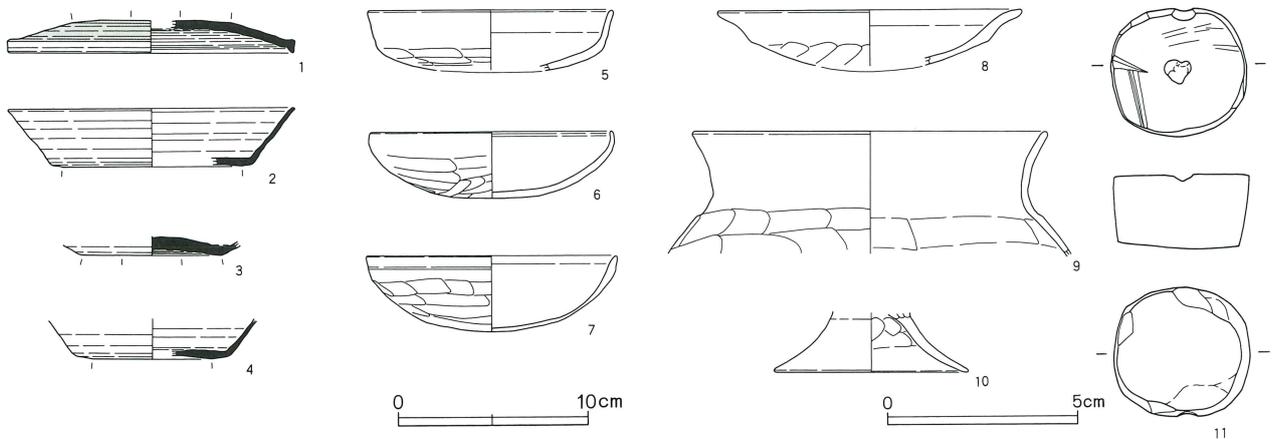
g 暗褐色土 人為的堆積 黄褐色土粒少量

h 黒褐色土 灰層 黄褐色土粒少量 炭化物多量

i 黒褐色土 人為的堆積 黄褐色土極多量

j 灰層

第234図 F区第166・168・169号住居跡出土遺物



F区第166・168・169号住居跡出土遺物観察表 (第234図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(15.0)	(1.8)		B	A	灰白	10	SJ168・169 秋間産? 自然釉付着
2	坏	(15.1)	3.1	(9.5)	WB 針	A	灰黄	10	SJ168・169 南比企産
3	坏		(0.9)	(7.2)	W針	B	灰	20	SJ168・169 南比企産 底部周辺ヘラ
4	坏		(2.1)	(7.8)	W針	B	オリーブ灰	10	SJ168・169 南比企産 底部全面ヘラ
5	坏	(12.8)	(3.2)		WB	B	橙	15	SJ168・169
6	坏	(12.6)	(3.5)		WBR	B	橙	25	SJ168・169
7	坏	(13.2)	4.0		BR	B	橙	25	SJ168・169
8	盤	(15.8)	(2.9)		WBR	B	橙	5	SJ168・169
9	甕	(18.6)	(6.5)		BR	B	橙	10	SJ167~169
10	台付甕		(3.2)	(10.0)	WBR	B	橙	5	SJ168・169
11	石製紡錘車								SJ169 No.1 上径3.6×下径3.2×厚さ1.9×重さ37.2 g

可能性がある。図示したほかに須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第165号住居跡 (第232・52図)

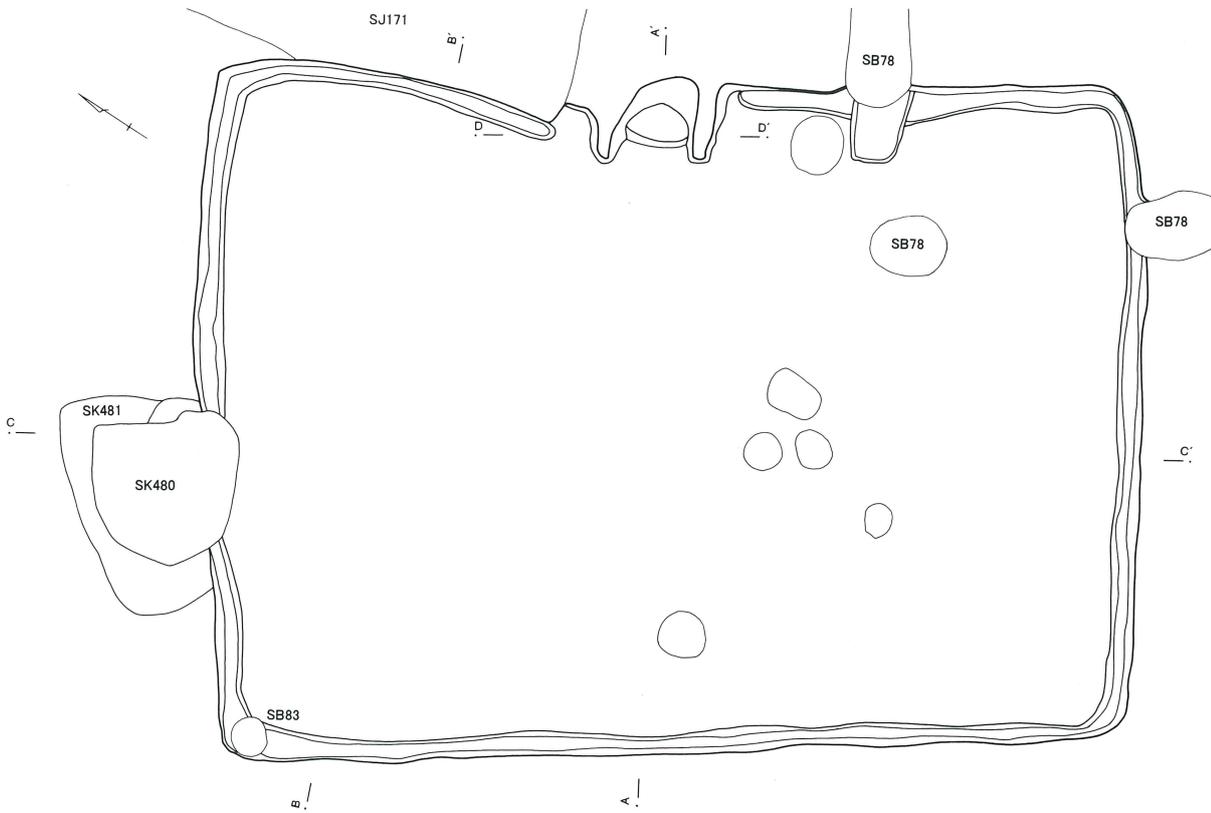
BI40・41グリッドに位置し、重複する第78号溝跡よりも古い。

平面形態は方形で、規模は主軸長3.78m×幅3.98m×深さ0.12m、主軸方位N-22°-Wを測る。埋没状況は人為的に埋め戻され、床面には貼床が施されてい

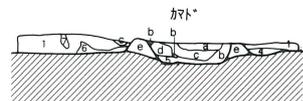
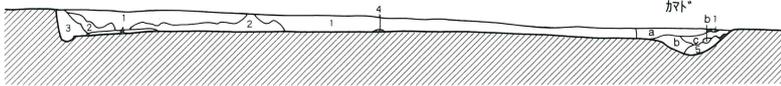
る。

カマドは北壁中央に設置され、燃烧部は楕円形の掘り込みをもつ。袖部は西側のみが残存し、地山の掘り残しを芯にして構築されている。柱穴は検出されていない。壁溝は全周するものと思われ、幅0.13~0.21m、深さ0.10~0.18mほどである。貯蔵穴はカマド東側の北東コーナー部に付設され、長径0.50m×短径0.46m×深さ0.24mの平面不整円形である。

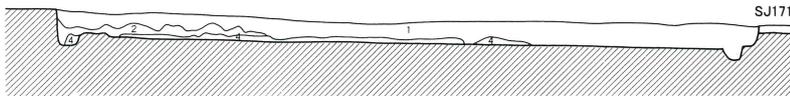
第235図 F区第170号住居跡



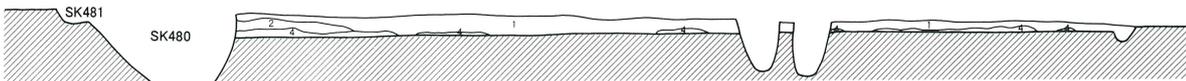
A 16.00



B



C



第170号住居跡

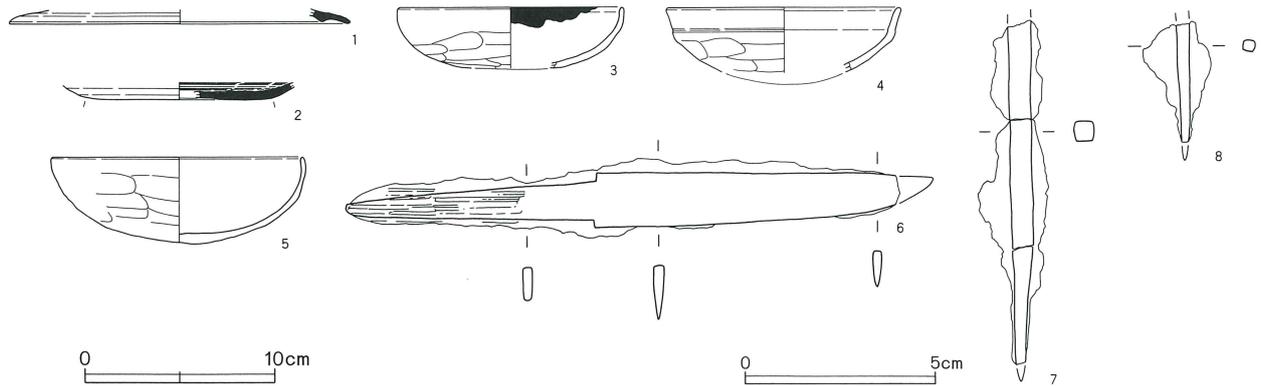
- 1 暗褐色土 砂利・黄褐色土が多少混入
- 2 黒褐色土 1層と対比暗 灰が多少含まない
- 3 黒褐色土 2層と対比 黄褐色土が多少混入
- 4 明黄褐色土 貼り床 黒褐色土混入
- 5 黄褐色土 黄褐色土 砂利が多少混入
- 6 暗褐色土
- 7 黄褐色土

カマド

- a 黒色土 炭化物・焼土塊多量
- b 褐色土 炭化物・焼土塊混入
- c 暗褐色土 b層対比やや暗 炭化物・焼土塊混入
- d 褐色土 c層と比べやや明るい
- e 褐灰色土 粘土 袖と考えられる

0 2m

第236図 F区第170号住居跡出土遺物



F区第170号住居跡出土遺物観察表 (第236図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(18.0)	(0.7)		WB	B	灰	5	末野産
2	椀		(0.9)	(9.8)	WB	A	灰	10	秋間産? 底部全面ヘラ
3	坏	(11.8)	(3.2)		WBR	B	橙	20	油煙の付着
4	坏	(12.2)	(3.4)		BR	B	橙	20	
5	坏	(13.2)	4.6		BR	B	橙	50	
6	刀子								No.1 長さ14.6×幅1.4×厚さ0.25×重さ27.5g
7	釘								No.2 長さ9.0×幅0.6×厚さ0.5×重さ7.4g
8	釘								No.2 長さ3.1×幅0.3×厚さ0.3×重さ2.1g

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

第166号住居跡 (第233・234・52・55図)

BI42グリッドに位置し、重複する第169号住居跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は主軸長2.84m×南北幅4.06m×深さ0.18m、主軸方位N-60°-Eを測る。覆土の堆積状況は人為的に埋め戻されている。

カマドは東壁中央に設置され、袖部は地山が掘り残されている。燃焼部前面にはピットが穿たれ、灰が詰まっている。カマド西側の東壁～北壁に沿って、床面との比高差は0.08m、幅0.70mほどのテラスが設けられている。柱穴・壁溝は検出されていない。貯蔵穴はカマド南側の南東コーナー部に付設され、長径0.57m×短径0.46m×深さ0.12mの平面円形である。また貯蔵穴の南側に並んで浅い床下土壌が掘り込まれ、規模は長径0.96m×短径0.88m×深さ0.06mで、平面円形である。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

第168号住居跡 (第233・234・52図)

BI41・42グリッドに位置し、重複する第169号住居跡、第78号溝跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模は主軸長4.27m×深さ0.23m、主軸方位N-59°-Eを測る。床面には貼床が施され、北西コーナー部にはテラス状の高まりが設けられている。覆土の堆積状況は人為的に埋め戻されている。

カマドは東壁中央に設置されているが、重複する第169号住居跡壁溝によって壊され、わずかに痕跡が認められる程度である。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

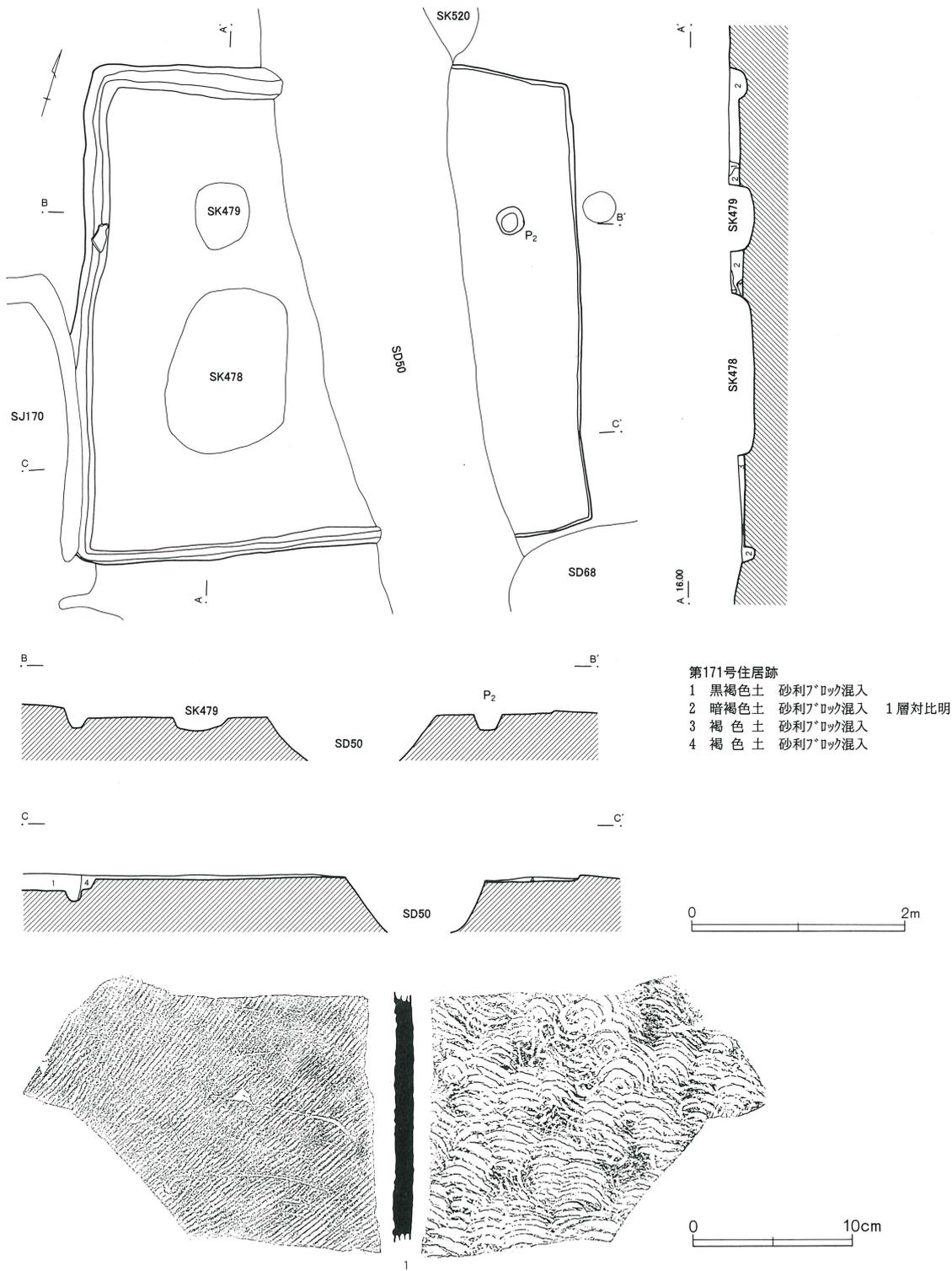
遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片、編物石が出土している。

第169号住居跡 (第233・234・52・55図)

BI41・42グリッドに位置し、重複する第166・168号住居跡よりも新しい。

平面形態は長方形で、規模は主軸長4.62m×幅3.38m×深さ0.25m、主軸方位N-68.5°-Eを測る。床面には貼床が施され、覆土の堆積状況は自然堆積であ

第237図 F区第171号住居跡・出土遺物



F区第171号住居跡出土遺物観察表（第237図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	甕				WB	A	灰		No.1 末野産

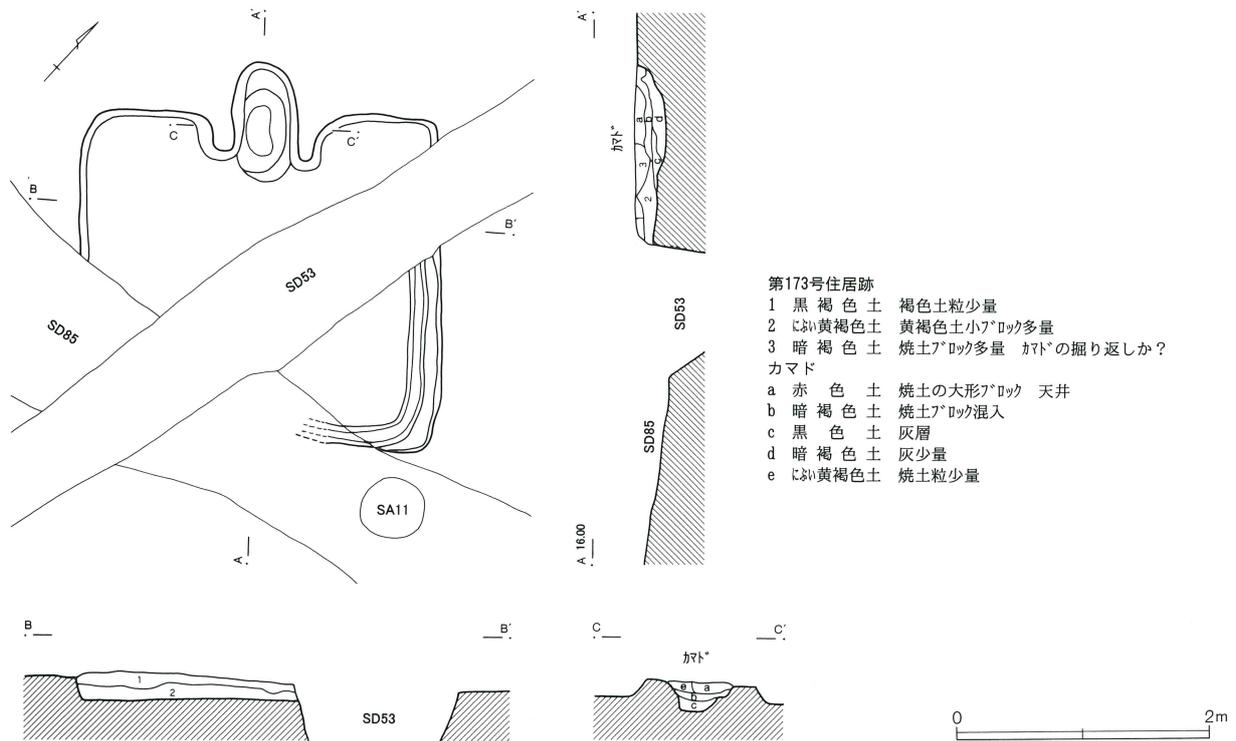
る。

カマドは東壁中央南よりに設置され、袖部は造り付

けられている。燃焼部には灰層・焼土層が堆積してい

る。壁溝は北西コーナー・南西コーナーを除いて全周

第238図 F区第173号住居跡



し、幅0.10~0.28m、深さ0.23~0.27mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。住居中央付近には床下土壌が掘り込まれ、長径2.03m×短径1.28m×深さ0.28mの平面楕円形である。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片、編物石が出土している。

第170号住居跡 (第235・236・52図)

BF40・41、BG40・41グリッドに位置し、第480・481号土壌と重複する。第171号住居跡よりも新しく、第78・83号掘立柱建物跡よりも古い。

平面形態は長方形で、規模が主軸長5.27m×南北幅7.52m×深さ0.18m、主軸方位N-60°-Eを測る。床面には全面に貼床が施され、粒の大きい黄褐色土ブロックを多く含む暗褐色土が堅く踏みしめられている。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

カマドは西壁中央に設置され、袖部は地山を掘り残している。燃烧部には掘り込みがみられ、焼土・炭化物が多量に堆積している。壁溝は全周し、幅0.11~0.24m、深さ0.14~0.28mほどである。柱穴・貯蔵穴

は検出されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第171号住居跡 (第237・52図)

BF41グリッドに位置する。第520号土壌、第50号溝跡と重複し、第170号住居跡、第478・479号土壌よりも古い。

平面形態は方形で、規模は南北長4.50m×東西長4.68m×深さ0.10m、南北軸方位N-15°-Wを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

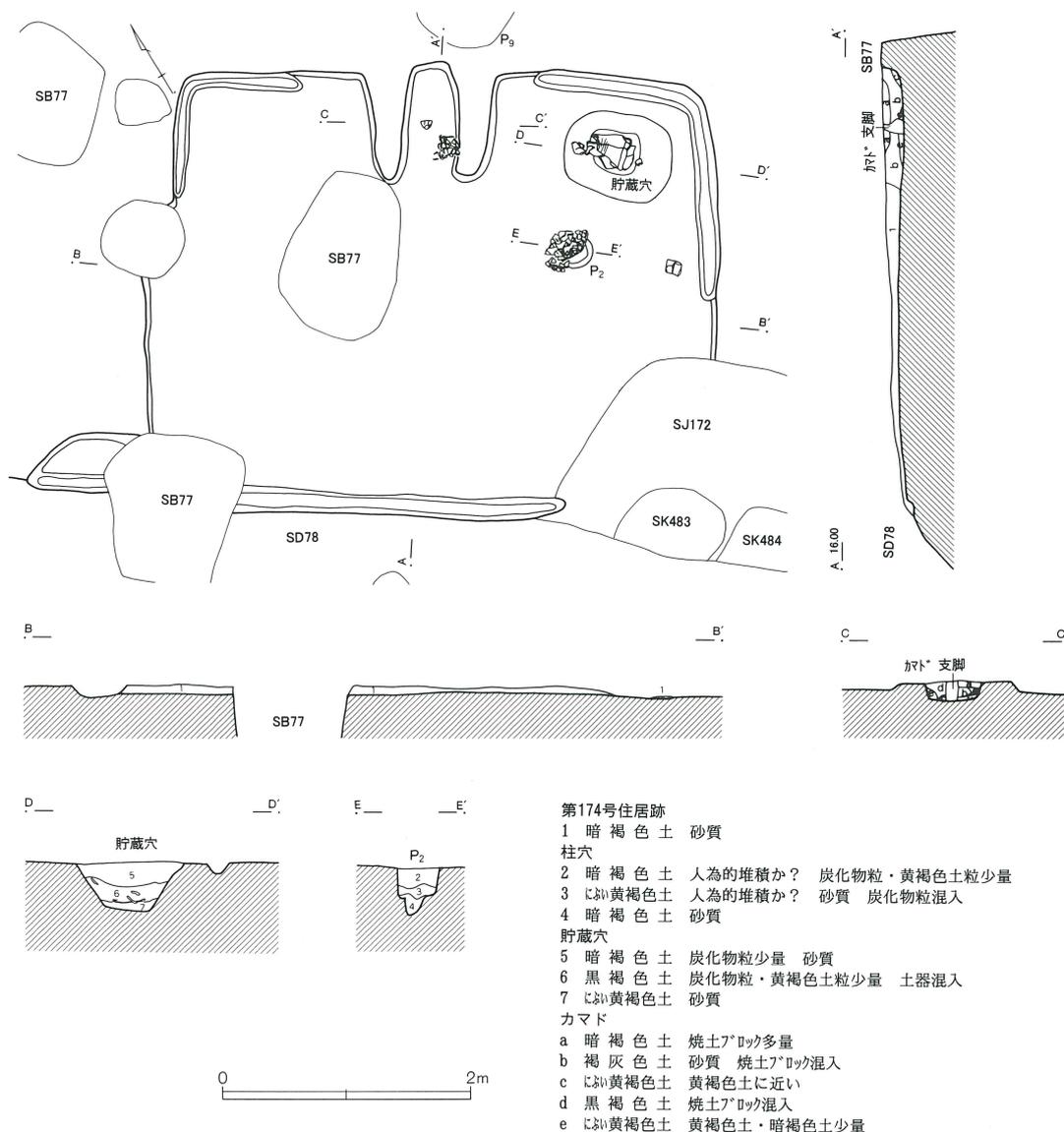
カマドは検出されていないが、東壁・西壁に認められないことから、第50号溝跡と重複する北壁中央に設置されていたものと想定される。壁溝は北壁中央~西壁~南壁中央にかけて巡り、幅0.10~0.28m、深さ0.18mほどである。柱穴・貯蔵穴は確認されていない。

遺物は図示したほかに、須恵器甕片、土師器甕・坏片が出土している。

第173号住居跡 (第238・49・52図)

BG38・39グリッドに位置し、第53・85号溝跡と重複

第239図 F区第174号住居跡



する。

平面形態は方形で、規模は主軸長2.60m×東西幅2.84m×深さ0.18m、主軸方位N-41°-Wを測る。覆土の堆積状況は人為的に埋め戻されている。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は造り付けられている。燃焼部には浅い掘り込みがみられ、灰が堆積している。被熱によって焼土化した天井部が崩落している。壁溝は南東コーナー付近に巡り、幅0.13mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。

出土遺物はなく、時期は特定し得ない。

第174号住居跡 (第239・240・52図)

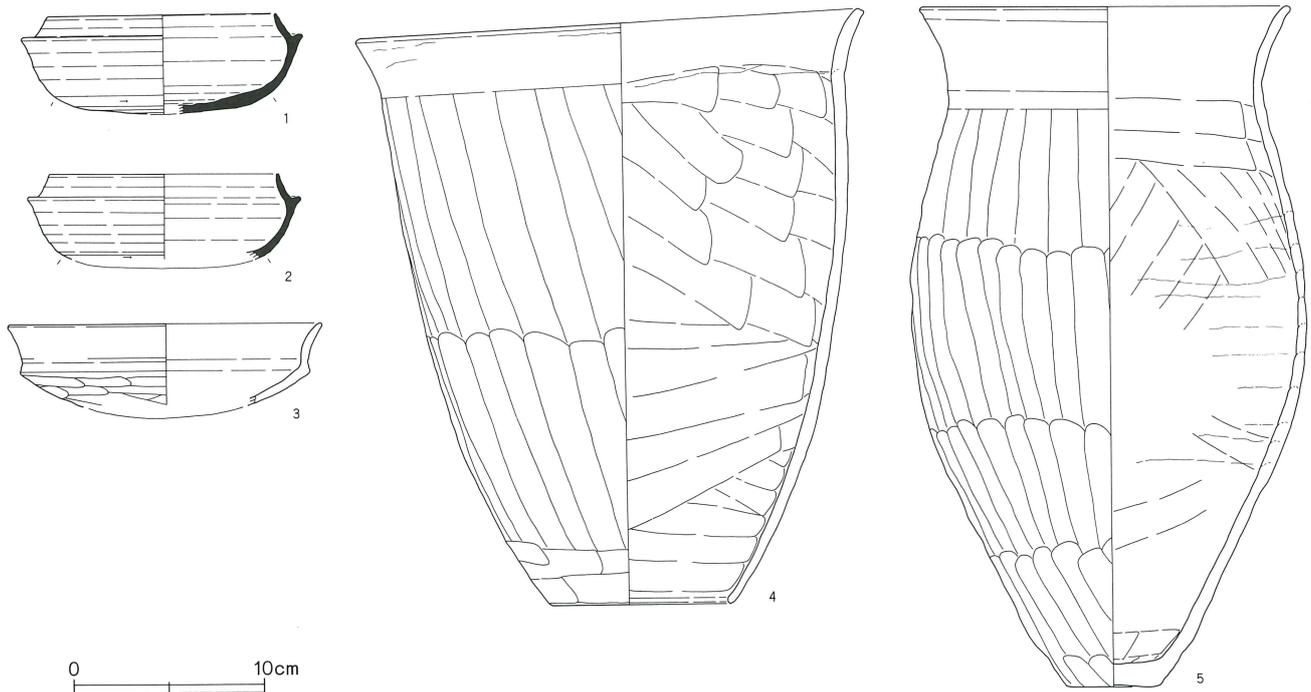
BH39グリッドに位置し、第77号掘立柱建物跡、第

483・484号土壇、第78号溝跡と重複する。

平面形態は長方形で、規模は主軸長3.56m×東西幅4.58m×深さ0.07m、主軸方位N-36°-Eを測る。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は地山が掘り残されている。燃焼部には支脚が据えられている。柱穴は1本が検出され、柱は抜き取られ、柱掘形は円形である。対応する北西柱穴は第77号掘立柱建物跡に攪乱されている。壁溝は北西コーナー付近、北東コーナー付近、南壁に沿って巡り、幅0.11~0.21m、深さ0.08mほどである。貯蔵穴はカマド東側北東コーナーに付設され、平面長方形で、規模は長径0.88m×短径0.69m×深さ0.38mほどである。

第240図 F区第174号住居跡出土遺物



F区第174号住居跡出土遺物観察表 (第240図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(12.0)	5.3		WB	A	灰	25	群馬産?
2	坏	(12.0)	(4.5)		WB	A	灰	15	群馬産?
3	坏	(16.3)	(4.3)		WBR	A	にぶい黄橙	15	No.3
4	甑	26.7	31.4	9.4	WR	B	橙	95	No.3
5	甕	(19.2)	35.9	5.0	WB片	B	にぶい橙	70	No.2

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

第175号住居跡 (第241・242・243・52図)

BE39、BF39グリッドに位置し、重複する第53号溝跡よりも新しく、第82号掘立柱建物跡、第8号柵列跡、第500・504号土壇より古い。

平面形態は方形で、規模は主軸長6.64m×南北幅6.45m×深さ0.08m、主軸方位N-72.5°-Eを測る。遺構確認段階において既に床面が露呈し、埋没状況は明確ではない。

カマドは北壁中央と東壁中央に設置されている。ただし北壁中央のカマドは平面プランでは確認できず、先行して調査を行った第53号溝跡とともに掘り去ってしまい、残欠を確認できた程度である。しかし袖部は検出されず、燃焼部には壁溝が巡っている。東壁中央のカマドは袖部が造り付けられ、袖部を絶ち割った

断面では袖部の下部から壁溝が埋め戻された状態で確認された。以上の結果から、北壁中央のカマドを破壊して東壁中央のカマドを造り替えたものと推測される。

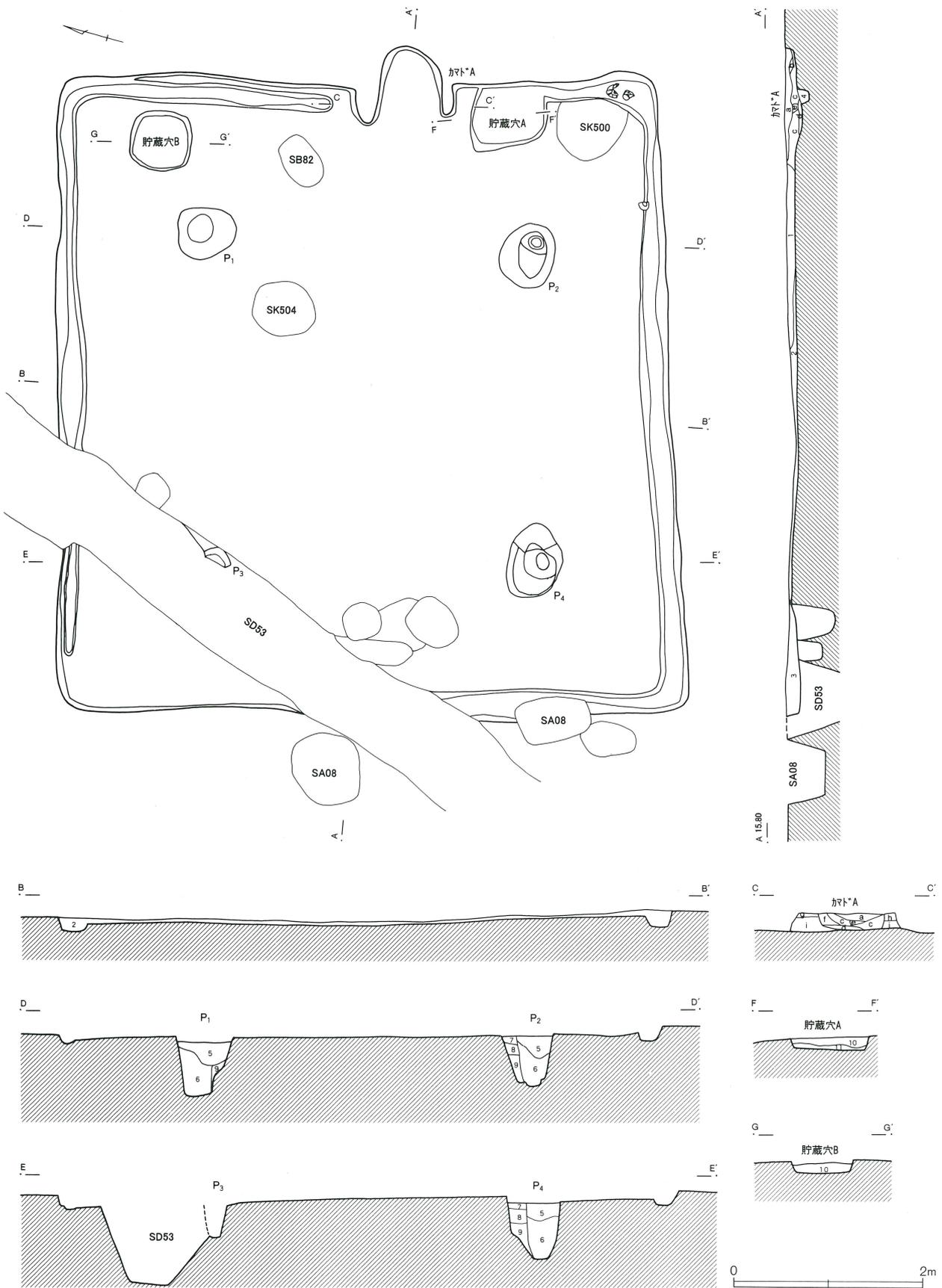
柱穴は4本で、柱は抜き取られている。柱掘形は円形で黄褐色土を含む黒褐色土が充填されている。壁溝は西壁北半を除き全周し、幅0.14~0.32m、深さ0.10~0.14mほどである。貯蔵穴は南東コーナー貯蔵穴Aが東壁カマドに、北東コーナー貯蔵穴Bが北壁カマドに対応するものである。貯蔵穴Aは平面方形で、規模は径0.64m×深さ0.12m、貯蔵穴Bは平面隅丸方形で、規模は長径0.80m×短径(0.53)m×深さ0.14mほどである。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

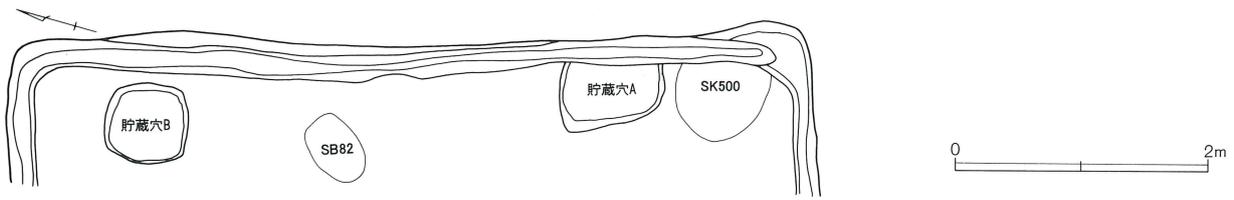
第176号住居跡 (第244・245・49図)

BE37・38グリッドに位置し、重複する第177号住居

第241図 F区第175号住居跡(Ⅰ)



第242図 F区第175号住居跡(2)



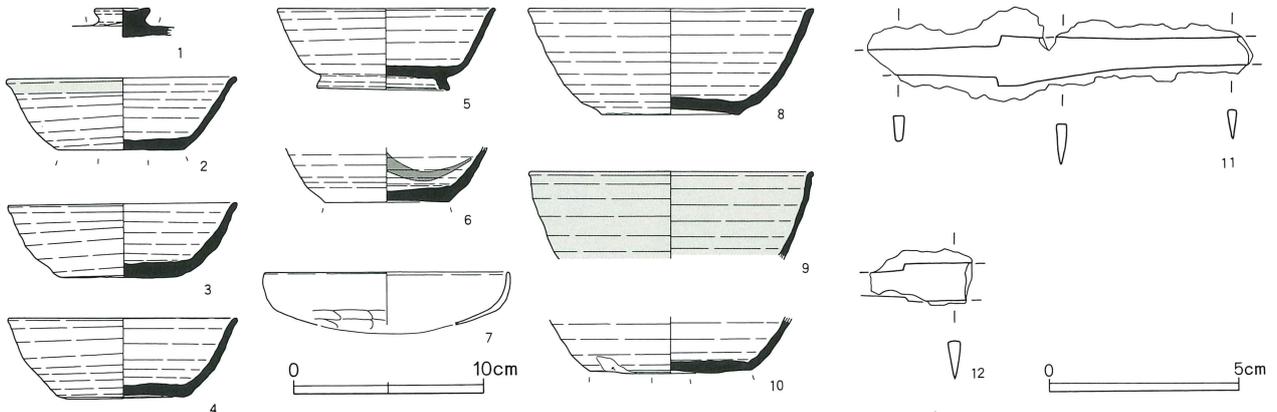
第175号住居跡

- 1 黒褐色土
- 2 にぶい黄褐色土
- 3 暗褐色土 褐色土7°ロック混入 掘方
- 4 黒褐色土 黄褐色土7°ロック(5~30mm)少量
- 柱穴
- 5 黒褐色土 柱抜き取り後の人為的堆積 黄褐色土7°ロック(5~20mm)少量
- 6 灰黄褐色土 柱抜き取り後の人為的堆積 黄褐色土7°ロック(5~20mm)多量 焼土粒・炭化物粒(2~8mm)少量
- 7 黒褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロック(5~15mm)30%弱混入
- 8 灰黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロック(5~15mm)50%強混入
- 9 にぶい黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロック(5~30mm)70%強混入

貯蔵穴

- 10 黒褐色土 黄褐色土7°ロック(5~10mm)少量
- 11 にぶい黄褐色土 黄褐色土7°ロック(5~30mm)多量
- カマド
- a 暗褐色土 焼土7°ロック多量
- b 黒褐色土 焼土7°ロック少量
- c 黒褐色土 焼土7°ロック混入
- d にぶい黄褐色土 砂質
- e 褐色土 褐色土7°ロック
- f 黒色土 焼土7°ロック少量
- カマド袖
- g にぶい黄褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(2~15mm)少量
- h にぶい黄褐色土 g層と同じ 焼土7°ロック(5~20mm)多量
- i 暗褐色土 黄褐色土粒・7°ロック(2~10mm)少量

第243図 F区第175号住居跡出土遺物



F区第175号住居跡出土遺物観察表(第243図)

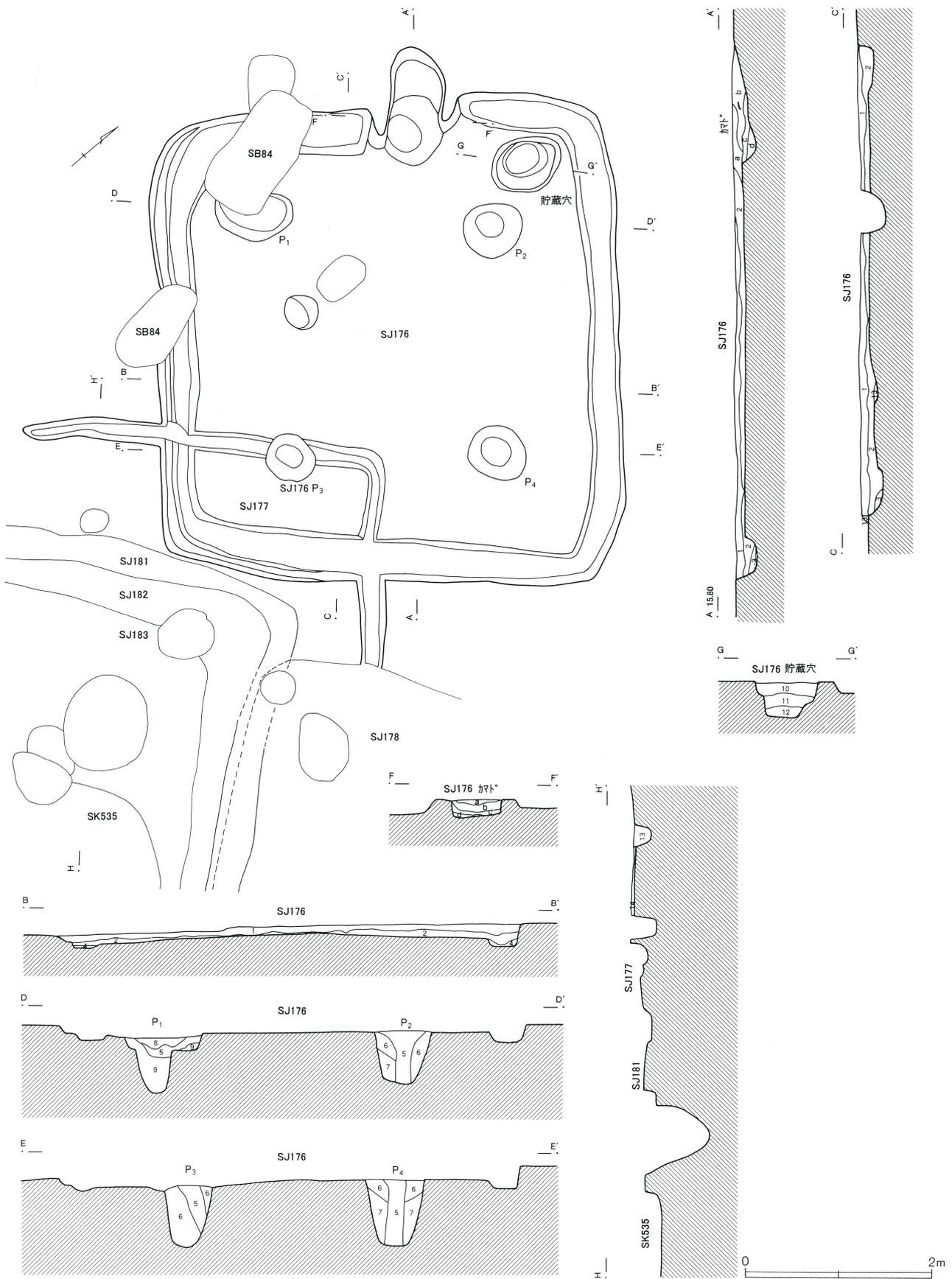
番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(1.5)		W針	B	灰褐	5	南比企産
2	坏	12.1	3.8	6.6	WB針	A	灰白	75	No.2 南比企産 底部周辺ヘラ 自然釉付着
3	坏	(12.0)	3.9	6.4	WB針	A	灰	60	No.4 南比企産 底部糸切離し
4	坏	12.0	4.3	6.2	WBR針	A	灰	70	No.3 南比企産 底部糸切離し
5	高台付坏	11.5	4.3	7.0	WB針	A	灰	60	南比企産 貼付高台
6	坏		(2.9)	(6.5)	WBR針	B	灰褐	25	カマド 南比企産 底部全面ヘラ 火だすき痕
7	坏	(12.8)	(2.8)		WB	B	にぶい黄橙	10	
8	椀	(15.1)	5.6	(7.3)	WB針	A	灰	30	南比企産 底部糸切離し
9	椀	(14.9)	(4.6)		WB針	A	灰	10	南比企産 外面自然釉付着
10	椀		(3.0)	(8.6)	WB針	A	灰白	10	南比企産 底部周辺ヘラ
11	刀子								No.1 長さ10.1×幅1.3×厚さ0.25×重さ24.7g
12	刀子								長さ2.6×幅1.0×厚さ0.3×重さ3.1g

跡よりも新しく、第84号掘立柱建物跡よりも古い。

平面形態は方形で、規模は主軸長5.15m×南北幅5.00m×深さ0.11m、主軸方位N-50.5°-Wを測る。覆土の堆積状況は人為的に埋め戻されていると思われる。床面には貼床が施されている。

カマドは西壁中央に設置され、袖部は地山を掘り残して構築されている。燃焼部には灰層・焼土層が堆積している。柱穴は4本で、柱は抜き取られている。壁溝は全周し、幅0.31~0.45m、深さ0.15~0.20mほどである。貯蔵穴はカマド北側の北西コーナー部に付設

第244图 F区第176·177号住居跡



第176・177号住居跡

第176号住居跡

- 1 黒褐色土 人為的堆積 焼土粒・炭化物粒多量
- 2 にい黄褐色土 人為的堆積 炭化物粒混入 土器片混入
貼り床の土はこの層の下部にあたるか?
- 3 黒褐色土 黄褐色土7°ロツク(20mm)多量
黄褐色土と壁面崩落の混合土か
- 4 にい黄褐色土 壁面崩落

第176号住居跡柱穴

- 5 にい黄褐色土 抜き取り後の人為的堆積 黒色土粒多量
- 6 にい黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロツク(5~10mm)少量
- 7 暗褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)少量
- 8 黒褐色土 焼土粒多量 後世の土壌、あるいはヒョットの土に重なって掘られたと思われる堆積土
- 9 にい黄褐色土 SB84ヒョットの3の壁面の土

第176号住居跡貯蔵穴

- 10 暗褐色土 焼土粒少量
- 11 にい黄褐色土 焼土粒少量
- 12 暗褐色土 褐色土・黄褐色土7°ロツク混入

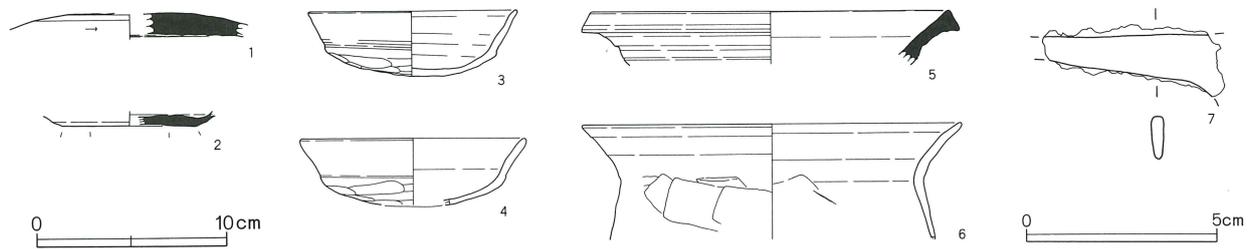
第176号住居跡カマド

- a 暗褐色土 焼土粒多量 黄褐色土粒混入
- b 褐色土 灰層 焼土7°ロツク(20~30mm)・焼土粒・炭化物粒混入
- c 暗褐色土 黄褐色土7°ロツク(30~50mm)多量 炭化物粒混入
- d 黒褐色土 黒色土混入 混入物を考えれば埋め戻されたと思われるのが妥当か

第177号住居跡

- 13 にい黄褐色土 黄褐色土7°ロツク(5~30mm)多量
- 14 灰黄褐色土 黄褐色土7°ロツク(5~15mm)多量

第245図 F区第176号住居跡出土遺物



F区第176号住居跡出土遺物観察表 (第245図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(1.3)		WB	A	灰	10	末野産
2	環		(0.8)	(7.0)	WB 針	A	灰	5	南比企産 底部周辺ヘラ
3	環	(11.0)	3.5		BR	C	暗褐	50	
4	環	(11.8)	(3.5)		WB	B	にふい橙	25	カマド
5	甕	(19.0)	(2.8)		WB	A	灰白		湖西 or 秋間産 自然釉付着
6	甕	(20.0)	(6.1)		WBR	B	にふい黄橙	5	
7	刀子								長さ4.7×幅1.45×厚さ0.3×重さ6.7g

F区第178・179・180・187・196号住居跡出土遺物観察表 (第246図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	(12.3)	(1.8)		WB	A	灰	20	SJ178~180 末野産
2	蓋	(20.0)	(2.3)		WB	B	灰	5	SJ178~180 末野産
3	蓋	(13.6)	(2.3)		WB	A	灰白	10	SJ178~180 湖西産 自然釉付着
4	環		(1.3)	(8.0)	WB 針	A	灰	20	SJ178~180 南比企産 底部周辺ヘラ
5	環		(1.5)	(8.0)	WB 針	A	灰	10	SJ178~180 南比企産 底部周辺ヘラ
6	環	(19.0)	(3.6)		WB 針	A	灰白	5	SJ178~180 南比企産
7	環		(3.1)	9.4	WBR 針	B	灰白	25	SJ178~180 南比企産 底部周辺ヘラ
8	甕	(20.1)	(7.1)		WBR	B	橙	5	SJ178~180
9	環	(11.0)	(2.9)		WB	B	橙	15	SJ178~180
10	環	12.4	3.8		WBR	B	にふい赤褐	80	SJ178~180 No.2
11	環	(12.8)	(2.9)		WBR	A	暗褐	10	SJ178~180 赤彩
12	環	(17.8)	(2.8)		WBR	A	橙	10	SJ178~180 赤彩
13	小型甕	(11.0)	(5.8)		W	B	暗褐	5	SJ178~180
14	小型甕	(16.2)	(10.3)		WR	B	橙	10	SJ178~180
15	環	(12.3)	1.7	(9.3)	WB 針	B	灰白	25	SJ180 P 4 南比企産
16	壺	(9.4)	(4.2)		WB	A	灰		SJ180 P 3 南比企産
17	甕	(22.6)	(12.0)		WBR	B	橙	15	SJ187 カマドNo.1
18	環	(15.7)	3.8		WB	B	橙	60	SJ196 P 1

第178・179・180・187・196号住居跡

第180号住居跡

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒・焼土粒(2~5mm)少量
 - 2 灰黄褐色土 黄褐色土粒(2~8mm)多量
- 第180号住居跡柱穴
- 3 暗褐色土 人為的堆積 黄褐色土⁷ブロック(5~10mm)・焼土粒・炭化物粒(2~8mm)多量
 - 4 灰黄褐色土 人為的堆積 黄褐色土⁷ブロック(5~50mm)多量 焼土粒(2~10mm)若干
 - 5 黒褐色土 黄褐色土粒・焼土粒・炭化物粒(2~8mm)少量
 - 6 暗褐色土 柱掘形充填 黄褐色土⁷ブロック(5~30mm)30%混入 焼土粒・炭化物粒(2~5mm)少量
 - 7 暗褐色土 柱掘形充填 黄褐色土⁷ブロック(5~30mm)50%混入 焼土粒・炭化物粒(2~5mm)少量
 - 8 灰黄褐色土 柱をいける際に埋めた粘土層 黄褐色土⁷ブロック(5~15mm)少量
- 第180号住居跡貯蔵穴
- 9 黄褐色土 焼土粒・黒褐色土⁷ブロック(30~40mm)多量
- 第180号住居跡カマド
- a 黒褐色土 天井崩れ 黄褐色土⁷ブロック(5~20mm)少量
 - b 黒褐色土 天井 焼土⁷ブロック(5~30mm)極多量
 - c 黒褐色土 灰層 焼土粒・炭化物粒(2~5mm)少量
 - d 灰褐色土 火床面 黄褐色土⁷ブロック(5~20mm)少量 c層との境赤化

第179号住居跡

- 10 黒褐色土 人為的堆積 黄褐色土⁷ブロック・炭化物粒(5~20mm)若干
 - 11 黒褐色土 人為的堆積 黄褐色土⁷ブロック・焼土粒(2~10mm)少量
 - 12 灰黄褐色土 人為的堆積 黄褐色土⁷ブロック(5~15mm)多量
- 第179号住居跡柱穴
- 13 黒褐色土 人為的堆積 黄褐色土⁷ブロック(5~15mm)少量 焼土粒・炭化物粒(2~5mm)若干
 - 14 黒褐色土 人為的堆積 黄褐色土⁷ブロック(5~15mm)・焼土粒・炭化物粒(2~5mm)若干
 - 15 暗褐色土 人為的堆積 黄褐色土⁷ブロック(5~20mm)多量
 - 16 黒褐色土 黄褐色土粒(2~5mm)若干
 - 17 黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土⁷ブロック(5~30mm)50%混入
 - 18 黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土⁷ブロック(5~50mm)70%混入
 - 19 灰黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土⁷ブロック(5~30mm)30%混入

第179号住居跡カマド

- e 灰褐色土 黄褐色土⁷ブロック・焼土⁷ブロック(5~15mm)少量
- f 灰褐色土 天井 褐色粘土⁷ブロック混入 褐色土⁷ブロック(5~30mm)多量 焼土粒(2~8mm)少量
- g 黒褐色土 灰層 焼土粒・炭化物粒(2~5mm)少量
- h 暗褐色土 火床面 掘形 黄褐色土⁷ブロック(5~10mm)少量 焼土粒・炭化物粒(5~10mm)多量
- i 注記なし

第178号住居跡

- 20 暗褐色土 人為的堆積 黄褐色土⁷ブロック(5~15mm)少量
 - 21 暗褐色土 人為的堆積 黄褐色土⁷ブロック(5~20mm)多量
- 第178号住居跡柱穴
- 22 暗褐色土 抜き取りの為の掘り起こし 黄褐色土⁷ブロック(5~15mm)・焼土粒・炭化物粒(2~5mm)少量
 - 23 黒褐色土 焼土粒・黄褐色土粒(2~5mm)少量
 - 24 暗褐色土 柱掘形充填 人為的堆積 黄褐色土⁷ブロック(5~30mm)多量
- 第178号住居跡貯蔵穴
- 25 黒褐色土 黄褐色土⁷ブロック(5~15mm)・焼土粒(2~5mm)少量
 - 26 灰黄褐色土 黄褐色土⁷ブロック(5~30mm)多量 焼土粒・炭化物粒(2~8mm)少量

第196号住居跡柱穴

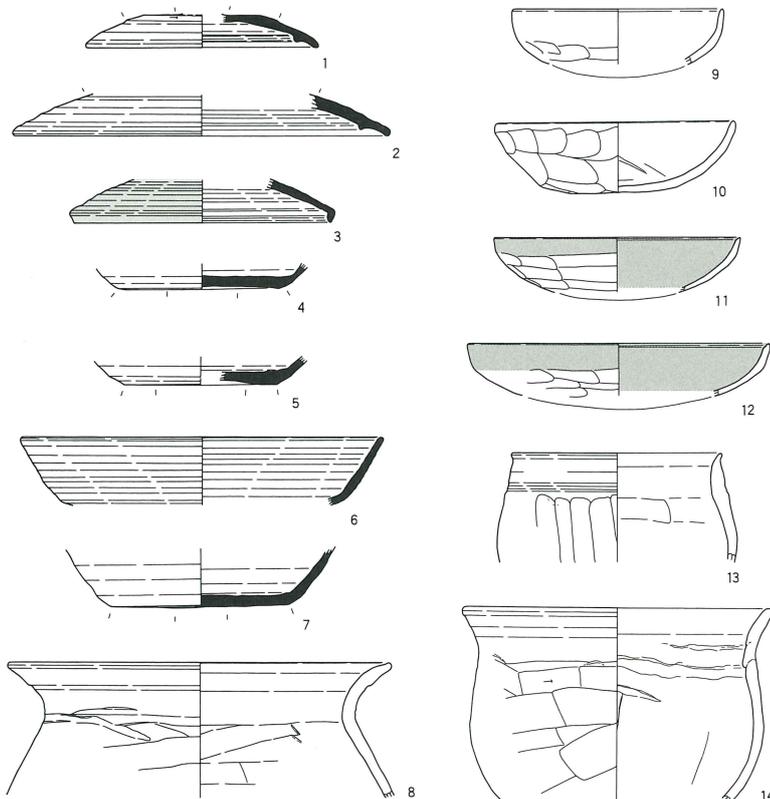
- 27 黒褐色土 焼土粒・黄褐色土粒(2~5mm)少量
- 28 暗褐色土 黄褐色土⁷ブロック(20~30mm)多量 焼土粒少量
- 29 黒褐色土 焼土粒・黒色土粒混入
- 30 黄褐色土 黄褐色土⁷ブロック(30mm)少量
- 31 黒褐色土 柱掘形充填 焼土粒(2~5mm)少量 黄褐色土⁷ブロック(5~15mm)30%混入
- 32 黒褐色土 柱掘形充填 黄褐色土⁷ブロック(5~20mm)若干
- 33 黒褐色土 柱掘形充填 黄褐色土⁷ブロック(5~15mm)30%混入

第187号住居跡カマド

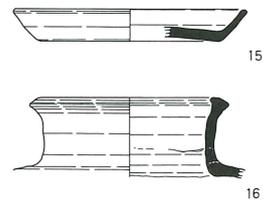
- j 黒褐色土 黄褐色土粒・焼土粒(2~10mm)少量
 - k 黒褐色土 天井 焼土⁷ブロック(5~30mm)極多量
 - l 黒褐色土 灰層 炭化物(2~10mm)多量
 - m 黄褐色土 掘形 黄褐色土⁷ブロック(5~20mm)少量
- 第187号住居跡カマド袖
- n 黒褐色土 作り袖 黄褐色土⁷ブロック・焼土粒(2~15mm)少量 平行して⁷ブロック

第246図 F区第178・179・180・187・196号住居跡出土遺物

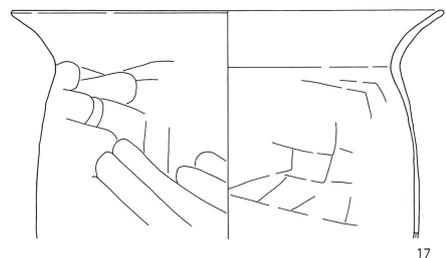
第178・179・180号住居跡



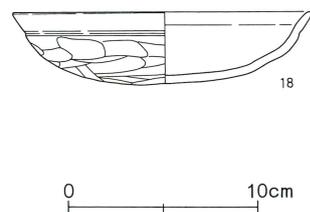
第180号住居跡



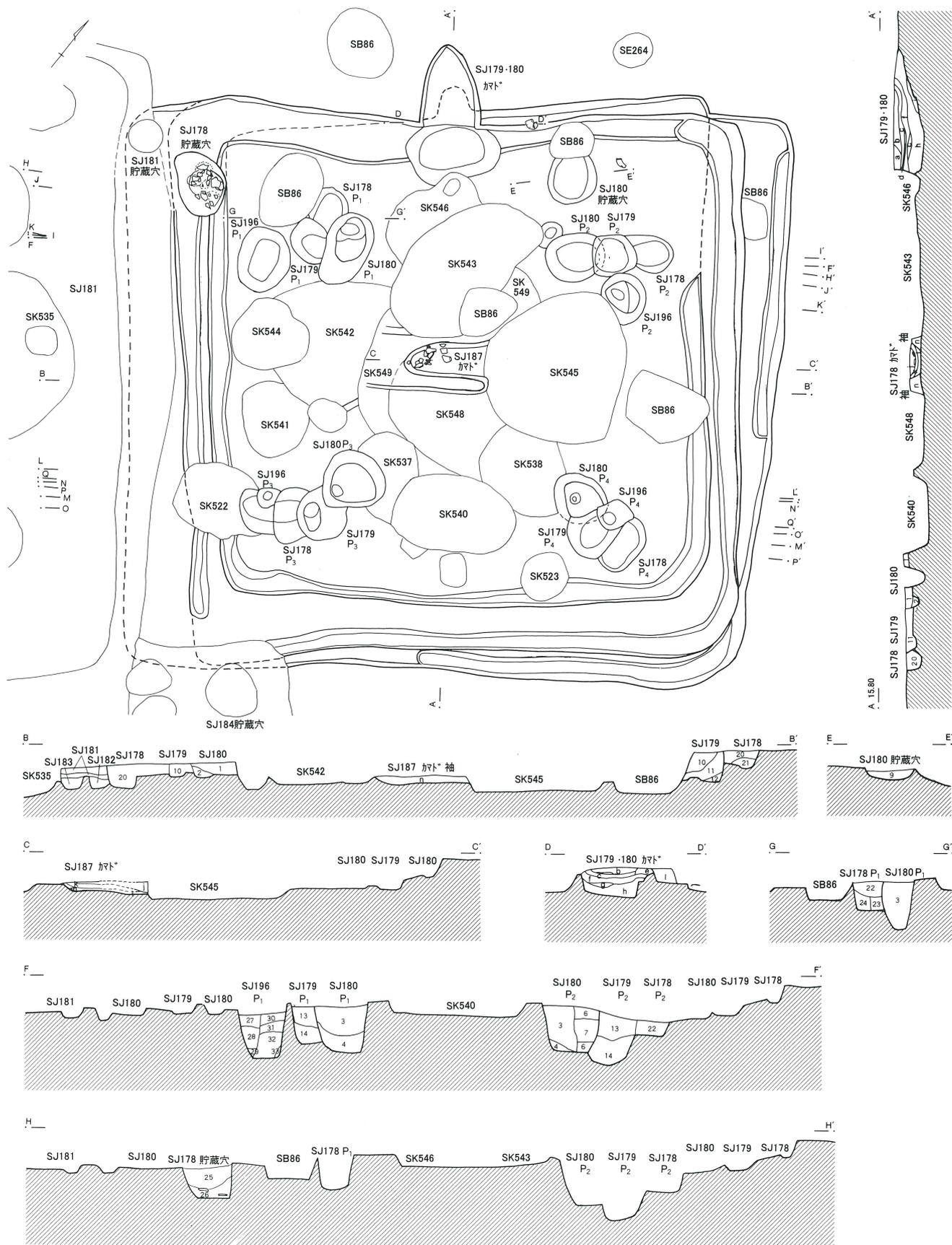
第187号住居跡

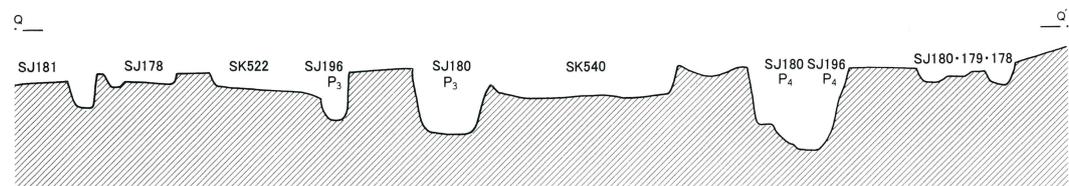
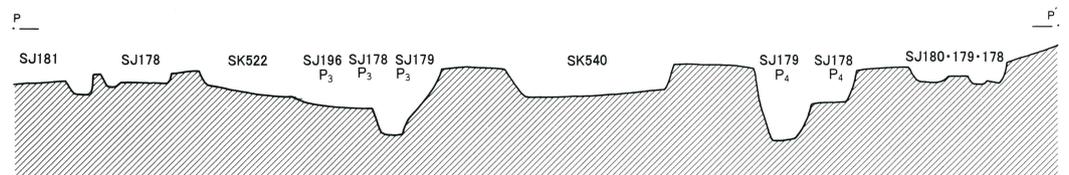
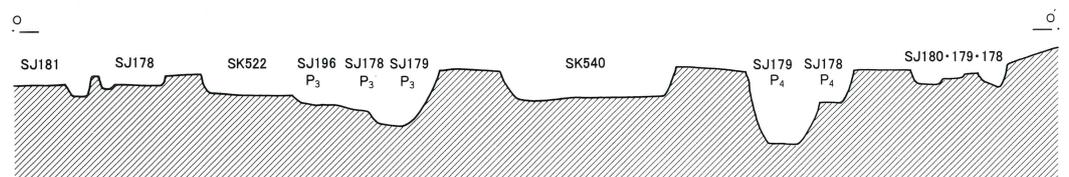
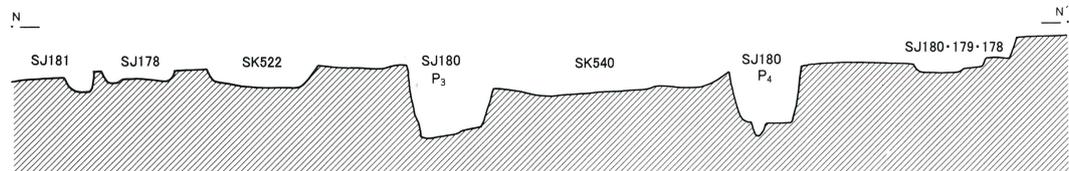
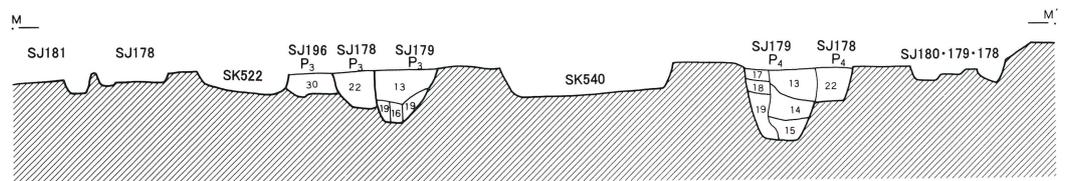
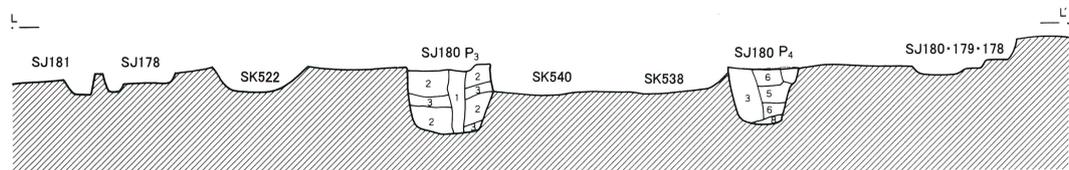
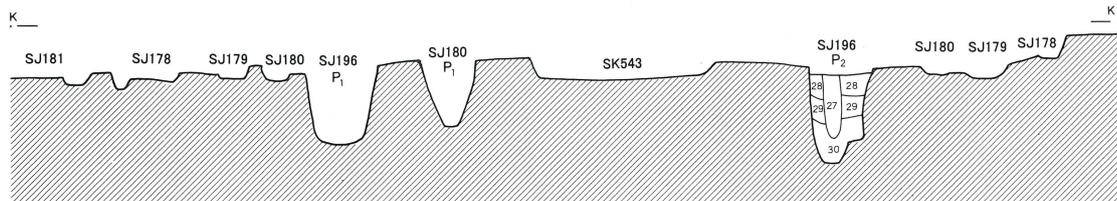
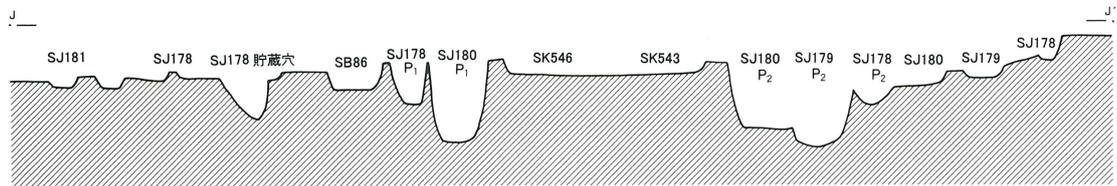
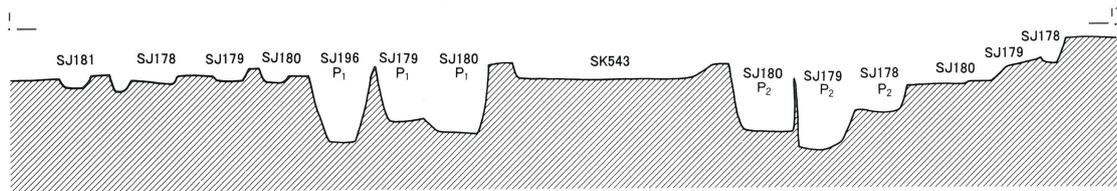


第196号住居跡

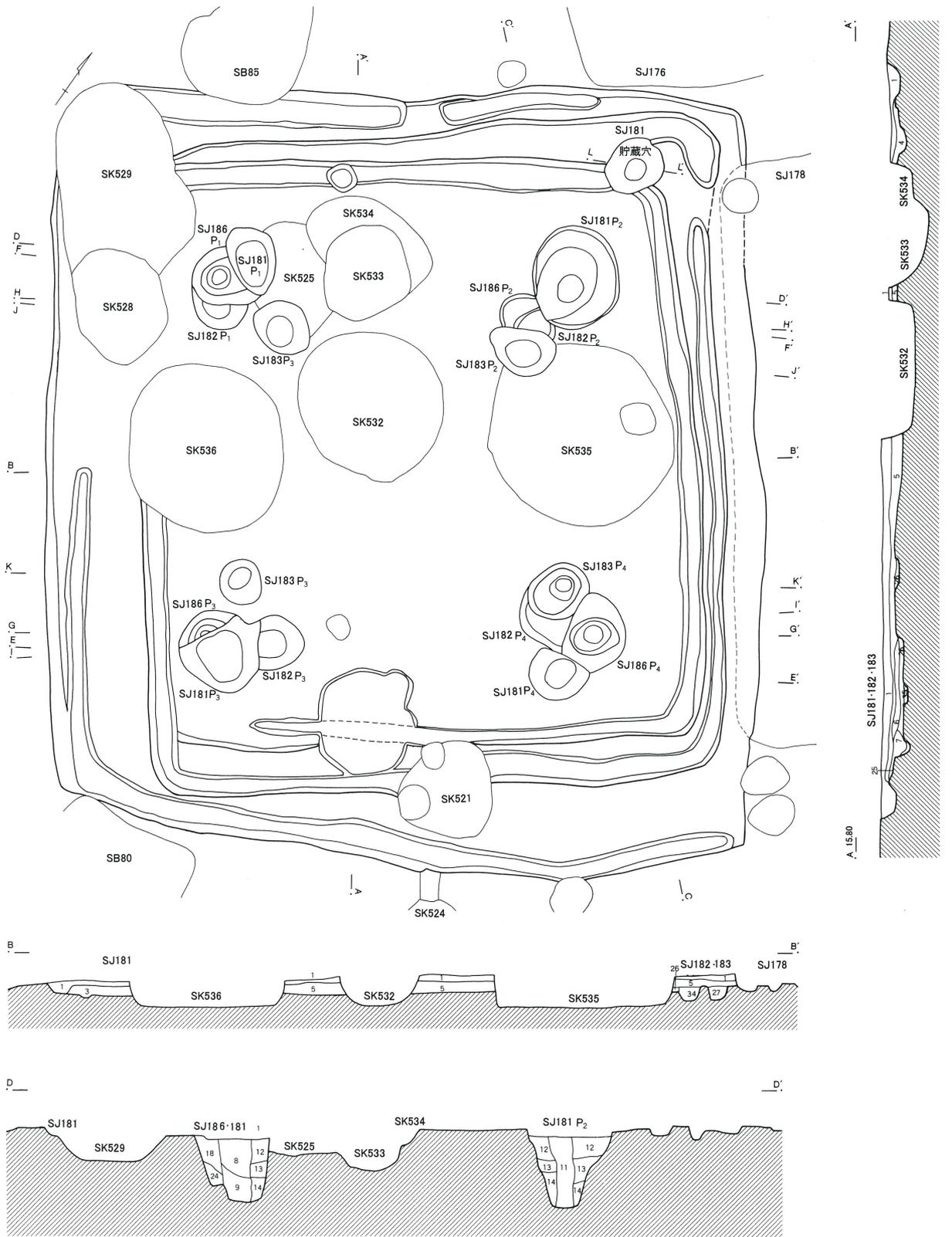


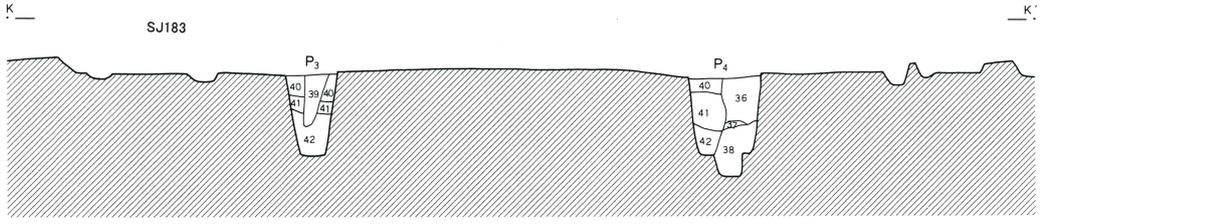
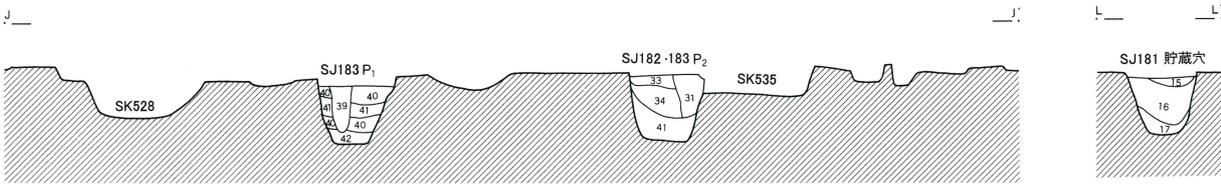
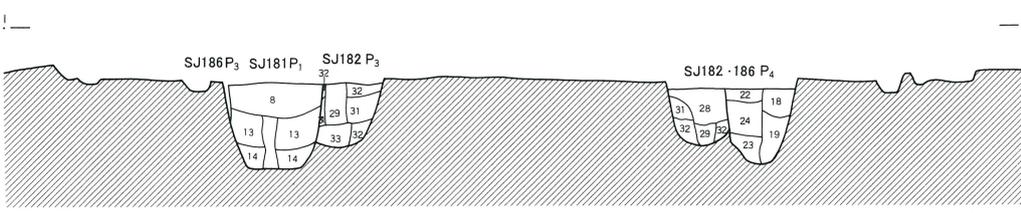
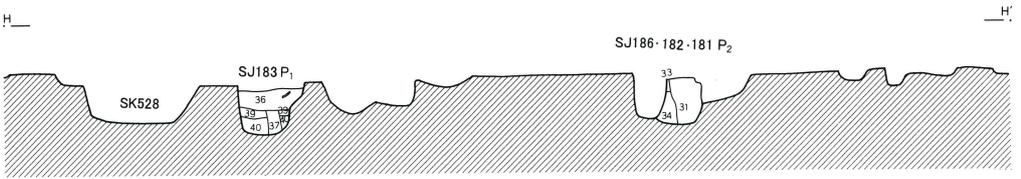
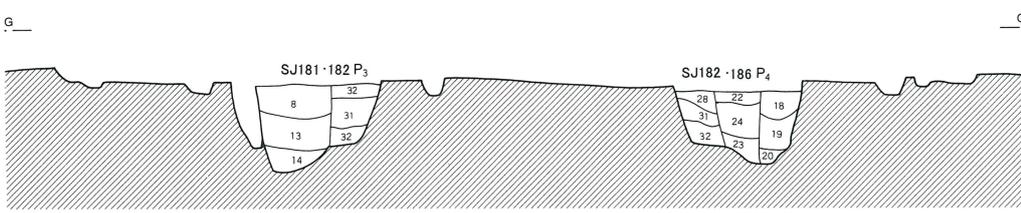
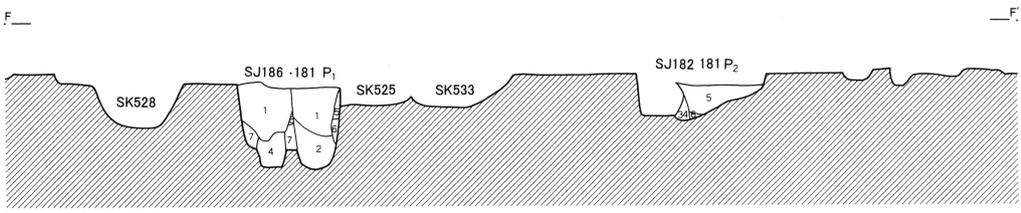
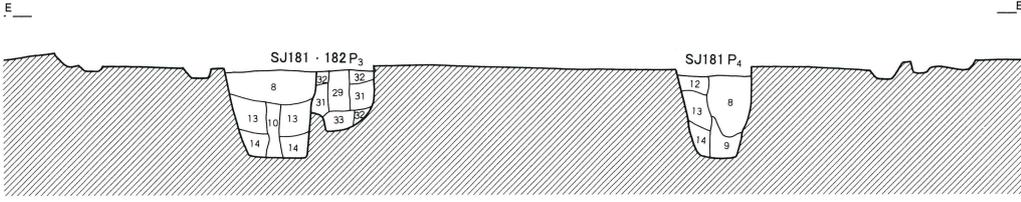
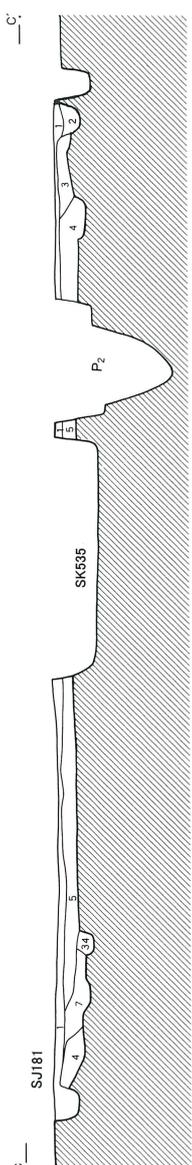
第247図 F区第178・179・180・187・196号住居跡





第248图 F区第181·182·183·186号住居跡





第181号・182号・183・186号住居跡

第181号住居跡

- 1 黒褐色土 黄褐色土粒・焼土粒(2~5mm)若干
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒・焼土粒(2~10mm)少量
- 3 暗褐色土 掘形 人為的堆積 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)多量 焼土粒(2~10mm)若干
- 4 暗褐色土 掘形 人為的堆積 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)少量
- 5 暗褐色土 掘形 人為的堆積 床が残る 黄褐色土7°ロツク(5~15mm)多量
- 6 暗褐色土 掘形 人為的堆積 黄褐色土7°ロツク(5~10mm)少量
- 7 黒褐色土 掘形 人為的堆積 黄褐色土7°ロツク(5~10mm)若干

第181号住居跡柱穴

- 8 黒褐色土 人為的堆積 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)多量 焼土粒(2~8mm)少量
- 9 暗褐色土 人為的堆積 黄褐色土7°ロツク(5~30mm)多量
- 10 暗褐色土 黄褐色土粒(2~5mm)少量
- 11 黒褐色土 黄褐色土粒・焼土粒・炭化物粒(2~8mm)少量
- 12 黒褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)30%混入 焼土粒(5~8mm)少量

- 13 暗褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロツク(5~30mm)50%混入
- 14 黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロツク(5~30mm)70%混入

第181号住居跡貯蔵穴

- 15 黒褐色土 中心部分に焼土粒集中して混入 黄褐色土7°ロツク(10~20mm)少量
- 16 黒褐色土 黄褐色土7°ロツク(10~30mm)多量 焼土粒混入 黄褐色土7°ロツク(10~20mm)少量
- 17 黄褐色土 黄褐色土7°ロツク(20mm)少量 壁面の崩落土か

第186号住居跡柱穴

- 18 暗褐色土 人為的堆積 黄褐色土7°ロツク(5~30mm)多量
- 19 黄褐色土 人為的堆積 黄褐色土7°ロツク(5~50mm)多量
- 20 黄褐色土 人為的堆積 黄褐色土7°ロツク(5~50mm)極多量
- 21 暗褐色土 黄褐色土粒(2~8mm)少量
- 22 暗褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)30%混入
- 23 灰黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)50%混入
- 24 灰黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)70%混入

第182号住居跡

- 25 灰黄褐色土 壁溝の残がい 黄褐色土7°ロツク(5~10mm)多量
- 26 黄褐色土 床 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)多量
- 27 灰黄褐色土 壁溝 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)多量 焼土粒(2~5mm)多量

第182号住居跡柱穴

- 28 暗褐色土 人為的堆積 黄褐色土7°ロツク(5~30mm)多量
- 29 暗褐色土 黄褐色土粒・焼土粒(2~5mm)少量
- 30 暗褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)30%混入
- 31 灰黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)70%混入
- 32 灰黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)50%混入
- 33 黄灰色土 柱の下に埋め込んだ粘土塊? 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)混入 鉄分少量

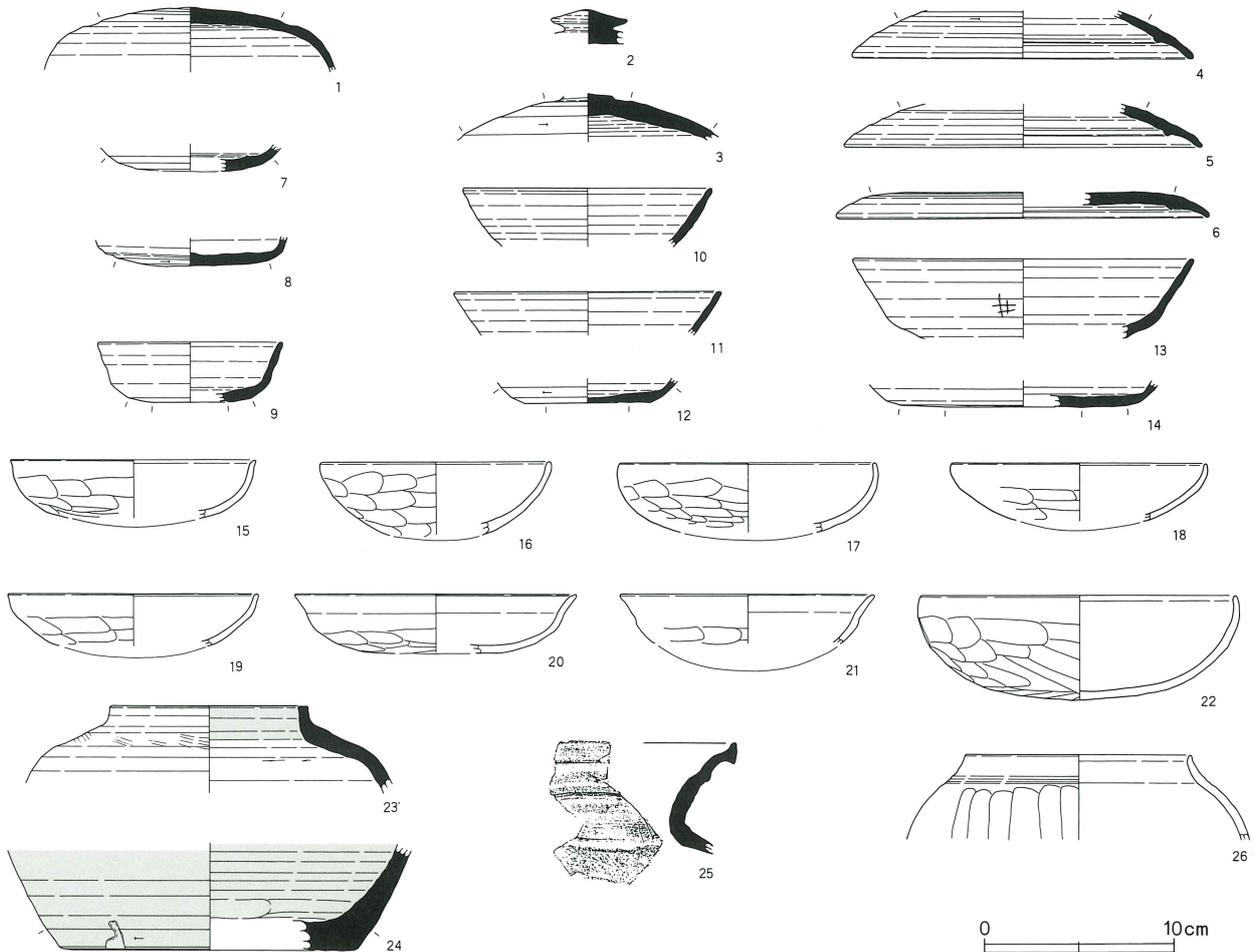
第183号住居跡

- 35 灰黄褐色土 壁溝の残がい 黄褐色土7°ロツク(5~15mm)多量 SJ182への拡張の際に人為的堆積

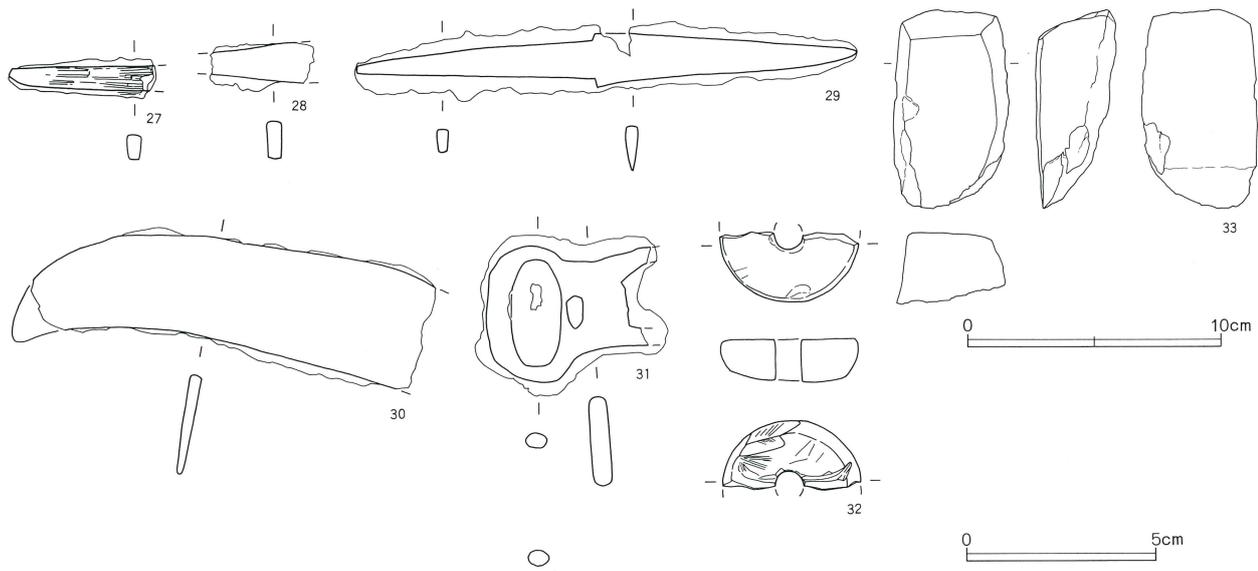
第183号住居跡柱穴

- 36 暗褐色土 人為的堆積 黄褐色土7°ロツク(5~30mm)多量 焼土粒(2~5mm)若干
- 37 褐灰色土 人為的堆積? 白色粘土? 黄褐色土粒(2~5mm)若干
- 38 褐灰色土 人為的堆積 ベースは粘性の高い土 黄褐色土7°ロツク(5~30mm)多量
- 39 暗褐色土 黄褐色土粒(2~8mm)少量
- 40 暗褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)30%混入
- 41 黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)50%混入
- 42 黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ロツク(5~20mm)70%混入 褐灰色土粘性の高い7°ロツク20%混入

第249図 F区第181・182・183・186号住居跡出土遺物(1)



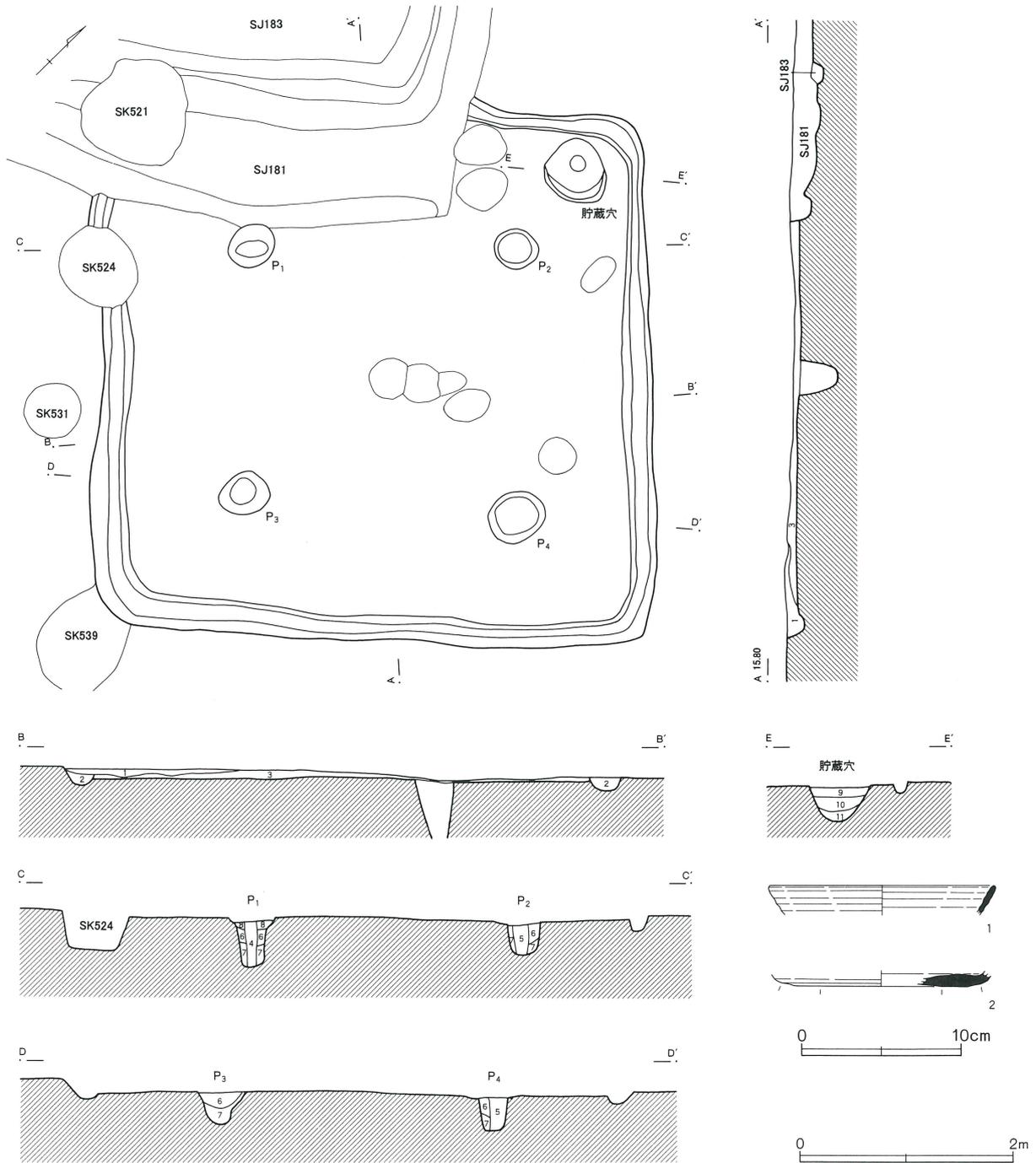
第250図 F区第181・182・183・186号住居跡出土遺物(2)



F区第181・182・183・186号住居跡出土遺物観察表(第249・250図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(3.4)		WB	A	灰	30	SJ181~183 末野産
2	蓋		(1.8)		WB	C	灰白	5	SJ181~183 末野産
3	蓋		(2.6)		WB	B	灰白	10	SJ181~183 末野産
4	蓋	(17.9)	(2.5)		WB 針	A	灰白	5	SJ181~183 南比企産
5	蓋	(18.8)	(2.3)		WBR	C	灰白	5	SJ181~183 末野産
6	蓋	(19.5)	(1.4)		WB	A	灰	20	SJ181 P 2 末野産
7	坏		(1.4)		WB	A	灰白	5	SJ184 湖西産?
8	坏		(1.4)		WBR	B	灰黄	20	SJ181~183 末野産 底部全面ヘラ
9	坏	(9.8)	(3.2)	(6.5)	WB	A	灰	25	SJ181~183 湖西産?
10	坏	(13.0)	(3.1)		WB 針	A	灰	10	SJ181~183 南比企産
11	坏	(14.0)	(2.3)		W針	A	灰白	5	SJ181~183 南比企産
12	坏		(1.3)	(6.6)	WBR	B	灰白	10	SJ181~183 末野産 底部周辺ヘラ
13	坏	(17.9)	(4.2)		WBR	B	黄灰	30	SJ181~183 末野産 「#」線刻
14	坏		(1.4)	(12.0)	WB 針	A	灰	10	SJ181~183 南比企産 底部周辺ヘラ
15	坏	(12.9)	(3.1)		WBR	B	にぶい黄橙	15	SJ181~183
16	坏	(12.0)	(3.9)		WBR	B	橙	20	SJ181~183
17	坏	(13.2)	(3.7)		WBR	B	にぶい黄橙	20	SJ181~183
18	坏	(13.3)	(3.1)		WBR	B	橙	10	SJ181~183
19	坏	(13.2)	(2.8)		WBR	B	にぶい赤褐	5	SJ181~183
20	盤	14.8	(3.1)		WBR	B	にぶい橙	50	SJ181~183
21	坏	(13.3)	(2.6)		WBR	A	橙	5	SJ181~183
22	碗	(16.4)	5.5		WBR	B	橙	50	SJ181~183
23	長頸壺	(10.5)	(4.6)		WB	A	灰白	5	SJ181~183 藤岡産 or 秋間産 自然釉付着
24	甕		(5.7)	(16.5)	WB	A	灰白		SJ181~183 産地不明 内外面自然釉付着
25	甕				WB	A	灰白		SJ181~183 湖西産 自然釉付着
26	短頸壺	(11.8)	(4.5)		WB	B	暗褐	5	SJ181~183
27	刀子								SJ181 長さ3.9×幅0.65×厚さ0.35×重さ4.3g
28	刀子								SJ181~183 長さ2.7×幅1.0×厚さ0.4×重さ4.2g
29	刀子								SJ181 P 2 長さ13.2×幅1.4×厚さ0.3×重さ22.3g
30	鎌								SJ181~183 長さ10.4×幅3.0×厚さ0.3×重さ43.9g
31	鉸具								SJ181~183 長さ4.0×幅3.6×厚さ0.5×重さ26.4g
32	石製紡錘車								SJ181~183 上径3.6×下径3.0×孔径0.7×厚さ1.1×重さ10.3g
33	砥石								SJ181~183 長さ7.9×幅4.5×厚さ2.8×重さ123.0g

第251図 F区第184号住居跡・出土遺物



第184号住居跡

- 1 暗褐色土 黄褐色土粒(2~8mm)少量
- 2 灰黄褐色土 黄褐色土粒(2~10mm)多量
- 3 におい黄褐色土 黄褐色土7°ブロック極多量 床
- 柱穴
- 4 灰黄褐色土 ピット1の抜き取り 焼土7°ブロック(40~50mm)多量
7°ブロック周囲には灰土が回る
- 5 黒褐色土 ピット2・ピット4の抜き取り 黄褐色土7°ブロック(20~30mm)多量
- 6 におい黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土粒多量
- 7 におい黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土7°ブロック(30~40mm)少量
- 8 黒褐色土 焼土粒子混入 抜き取りの際の拡張掘削か

貯蔵穴

- 9 暗褐色土 焼土粒・黒色土粒・炭化物粒少量
黄褐色土7°ブロック(5~20mm)多量
- 10 におい黄褐色土 粘土7°ブロック(10~20mm)・焼土7°ブロック(20mm)多量
炭化物粒少量 層上部、下部、中央部分にそれぞれ粘土・
焼土の混合層 厚さ15cm、長さ15cm広がる 灰層と類似
- 11 黒褐色土 焼土粒混入

され、平面方形で、規模は長径0.80m×短径0.60m×深さ0.40mほどである。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第177号住居跡（第244・49図）

BE37・38グリッドに位置し、重複する第176・178・181号住居跡よりも古い。

遺構確認段階で既に床面を消失し、壁溝の一部が検出されたのみである。平面形態は方形で、規模は不明である。南北軸方位はN-44°-Wを測る。カマド・柱穴・貯蔵穴は確認されていない。壁溝は北壁～東壁にかけて検出され、幅0.24m、深さ0.18mほどである。

遺物は出土していない。

第178・179・180・187・196号住居跡

（第246・247・49図）

BE38、BF38グリッドに位置し、5軒の住居跡が重複している。ほかに第177・181・182・183・184・186号住居跡、第86号掘立柱建物跡、第522・523・537・538・540・541・542・544・545・546・548・549号土壌とも重複している。

第178号住居跡は第177・181・184号住居跡よりも新しく、第179・180号住居跡よりも古い。平面形態は方形で、規模は南北長6.33m×東西長7.20m、南北軸方位N-37°-Wを測る。カマドは北壁中央に設置されていたものと思われるが、第179・180号住居跡カマドに壊され、残痕もみられない。柱穴は4本である。壁溝は東壁～南壁に沿って確認され、幅0.18～0.26m、深さ0.19mほどである。貯蔵穴は北西コーナー付近に付設され、平面楕円形で、規模は長径0.74m×短径0.54m×深さ0.19mほどである。

第179号住居跡は第178号住居跡よりも新しく、第180号住居跡よりも古い。平面形態は方形で、規模は主軸長5.75m×東西幅5.71m、主軸方位N-37°-Wを

測る。カマドは北壁中央に設置されているが、重複する第180号住居跡カマドに壊され、袖部・煙道部の一部が確認されているのみである。柱穴は4本である。壁溝は北壁西半を除いて巡り、幅0.16～0.34mほどである。貯蔵穴は検出されていない。

第180号住居跡は重複する5軒の住居跡のうち最も新しい。平面形態は方形で、規模は主軸長5.45m×東西幅5.24m、主軸方位N-37°-Wを測る。カマドは北壁中央に設置されている。第179号住居跡カマドを攪乱しているが、第546号土壌によって袖部・燃焼部が壊され、煙道部のみが残存している。柱穴は4本である。壁溝は、幅0.10～0.26m、深さ0.10mほどである。貯蔵穴はカマド東脇に付設され、平面円形で、規模は径0.53m×深さ0.14mほどである。

第187号住居跡は第178・179・180号住居跡精査中にカマドのみが確認された住居跡である。カマド煙道部は第179号住居跡床面上面まで掘り込まれ、新旧関係は第178・179・180号住居跡よりも新しい。しかし土壌との重複が激しく、住居跡の平面プランは確認できない。カマドは西壁に設置され、燃焼部付近は第545号土壌に攪乱されている。袖部は黒褐色土によって造り付けられ、北側の袖には黄褐色土が多く含まれている。柱穴・壁溝・貯蔵穴は検出されていない。

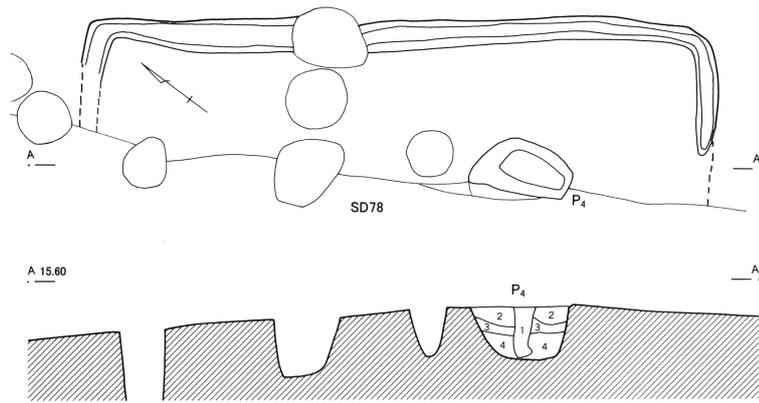
第196号住居跡は4本の柱穴のみが検出され、住居跡の規模や施設については不明である。ただし、柱穴が第178・179・180号住居跡の柱穴と重複していることから、第178・179・180号住居跡相当の平面規模が想定できる。新旧関係は第178・179・180号住居跡よりも古い。

遺物は図示したほかに、第178・179・180号住居跡一括遺物の須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片、第187号住居跡一括遺物の須恵器坏片、土師器甕片、第196号住居跡一括遺物の須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

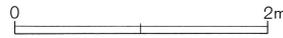
F区第184号住居跡出土遺物観察表（第251図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	(14.0)	(1.9)		WB 針	B	灰白	5	南比企産
2	椀		(1.0)	(11.0)	WBR 針	A	灰		南比企産

第252図 F区第188号住居跡



- 第188号住居跡柱穴
- 1 黒褐色土
 - 2 黒褐色土 黒褐色土主体
 - 3 黒褐色土・黄褐色土1:1
 - 4 黄褐色土 黄褐色土主体



第181・182・183・186号住居跡

(第248・249・250・49図)

BE37・38、BF37・38グリッドに位置し、重複する3軒の住居跡である。ほかに第177・178・179・180・196・184号住居跡、第85号掘立柱建物跡、第521・525・528・529・532・533・534・535・536号土壌とも重複している。

第181号住居跡は最も新しい。平面形態が方形で、規模は南北長7.75m×東西長7.37m×深さ0.19m、南北軸方位N-36°-Wを測る。カマドは検出されていないが、壁溝が途切れる北壁中央に設置されていたことが予想される。柱穴は4本で、柱は抜き取られている。壁溝は北壁中央付近および西壁北半を除いて巡り、幅0.17~0.34m、深さ0.15~0.20mほどである。貯蔵穴は北東コーナー付近に付設され、平面円形で、規模は長径0.60m×短径0.53m×深さ0.48mほどである。

第186号住居跡は第182・183号住居跡よりも新しく、第181号住居跡よりも古い。4本の柱穴のみが検出された住居跡で、平面プランや規模は不明である。ただし、いずれの柱穴も第181・182・183号住居跡柱穴と重複していることから、第181・182・183号住居跡相当の規模が想定される。柱は抜き取られている。

第182・183号住居跡は2軒の住居跡として調査を開

始したが、覆土の堆積状況などから第183号住居跡の東壁・南壁が拡張され、第182号住居跡に建て替えられたものとなつたと判断される。第181・186号住居跡よりも古い。平面形態は方形で、第182号住居跡の規模は南北長6.80m×東西長5.98m×深さ0.20m、第183号住居跡の規模は南北長6.00m×東西長5.74m、南北軸方位N-36°-Wを測る。カマド・貯蔵穴は検出されていない。柱穴は建て替え前後ともに4本で、柱は抜き取られている。壁溝は第182・183号住居跡ともに西壁北半を除いて巡り、第182号住居跡は幅0.16~0.32m、深さ0.25m、第183号住居跡は幅0.15~0.25m、深さ0.08~0.16mほどである。出土遺物はなく、時期は特定し得ない。

遺物は図示したほかに、第181・182・183号住居跡一括遺物の須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片、第186号住居跡からは土師器甕片が出土している。

第184号住居跡 (第251・49図)

BF38グリッドに位置し、重複する第178・179・180号住居跡、第181・182・183・186号住居跡よりも古い。ほかに第521・524・539号土壌とも重複する。

平面形態は方形で、規模は南北長5.00m×東西長5.30m、南北軸方位N-48°-Wを測る。遺構確認段階で既に床面が露呈している箇所があり、埋没状況は明確ではない。

カマドは検出されていないが、重複する第181号住居跡南東コーナー付近に焼土の散布がみられ、北壁中央部に設置されていた可能性がある。柱穴は4本で、柱は抜き取られている。柱掘形は円形で、黄褐色土を含む黒褐色土が充填されている。壁溝は全周し、幅0.13~0.35m、深さ0.16mほどである。貯蔵穴は北東コーナーに付設され、平面円形で、規模は長径0.59m×短径0.58m×深さ0.34mほどである。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第188号住居跡 (第252・49図)

BE37グリッドに位置する。第84・85号掘立柱建物跡と重複し、第78号溝跡よりも古い。

平面形態は方形で、規模は南北長5.00m、南北軸方位N-37°-Wを測る。遺構確認段階で既に床面が消失しており、埋没状況は不明である。

カマド・貯蔵穴は確認されていない。柱穴は1本のみが検出され、ほかは第78号溝跡によって攪乱されて

いる。柱痕が残存し、柱掘形には黄褐色土を含む黒褐色土が充填されている。壁溝は北壁~東壁~南壁南東コーナー付近にかけて巡り、幅0.13~0.27mほどである。

遺物は図示し得ないが、須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第189号住居跡 (第253・49図)

BE37グリッドに位置する。第84・85号掘立柱建物跡と重複し、第78号溝跡よりも古い。

平面形態は方形であるが、規模は不明で、南北軸方位N-41°-Eを測る。

カマド・貯蔵穴は確認されていない。柱穴は2本のみ検出され、ほかは第78号溝跡によって攪乱されている。柱掘形は円形で、柱は抜きとられている。壁溝は北東コーナー~東壁~南壁南東コーナー付近に巡り、幅0.09~0.17m、深さ0.10mほどである。

遺物は図示したほかに、土師器甕・坏片が出土している。

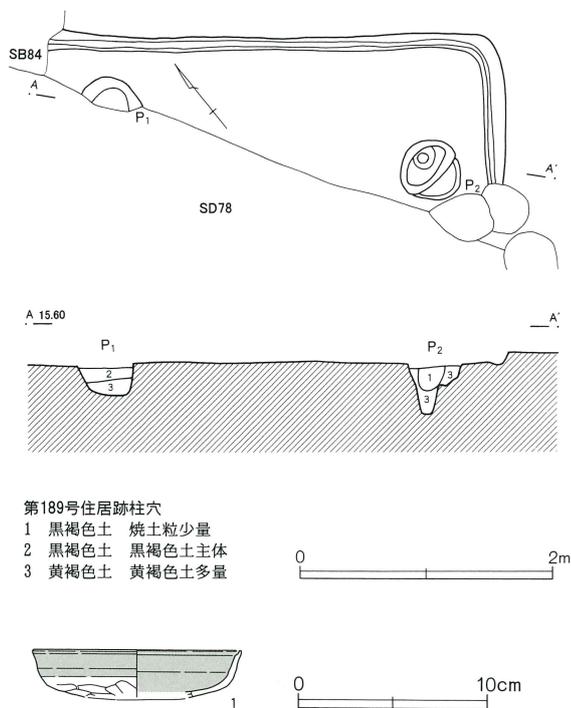
第190・191・192・193・194・195号住居跡

(第254・255・256・51・52図)

BD39、BE38・39グリッドに位置し、6軒の住居跡が重複している。新旧関係は、第190号住居跡が最も新しく、第191・193号住居跡→第192号住居跡→第194・195号住居跡の順に古くなる。しかし第191号住居跡と第193号住居跡、第194号住居跡と第195号住居跡の新旧関係は不明である。ほかに第86号掘立柱建物跡、第555・556・558・563・564・565号土壇、第253号井戸跡、第53号溝跡とも重複する。第53号溝跡は第190・191・192・193・194・195号住居跡よりも古い。

第190号住居跡の平面形態は方形で、西側1/3は明確にできなかった。規模は主軸長4.38m×深さ0.16m、主軸方位N-2.5°-Eを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。床面には黒褐色土に黄褐色土を混入した貼床が施されている。カマドは北壁に設置され、

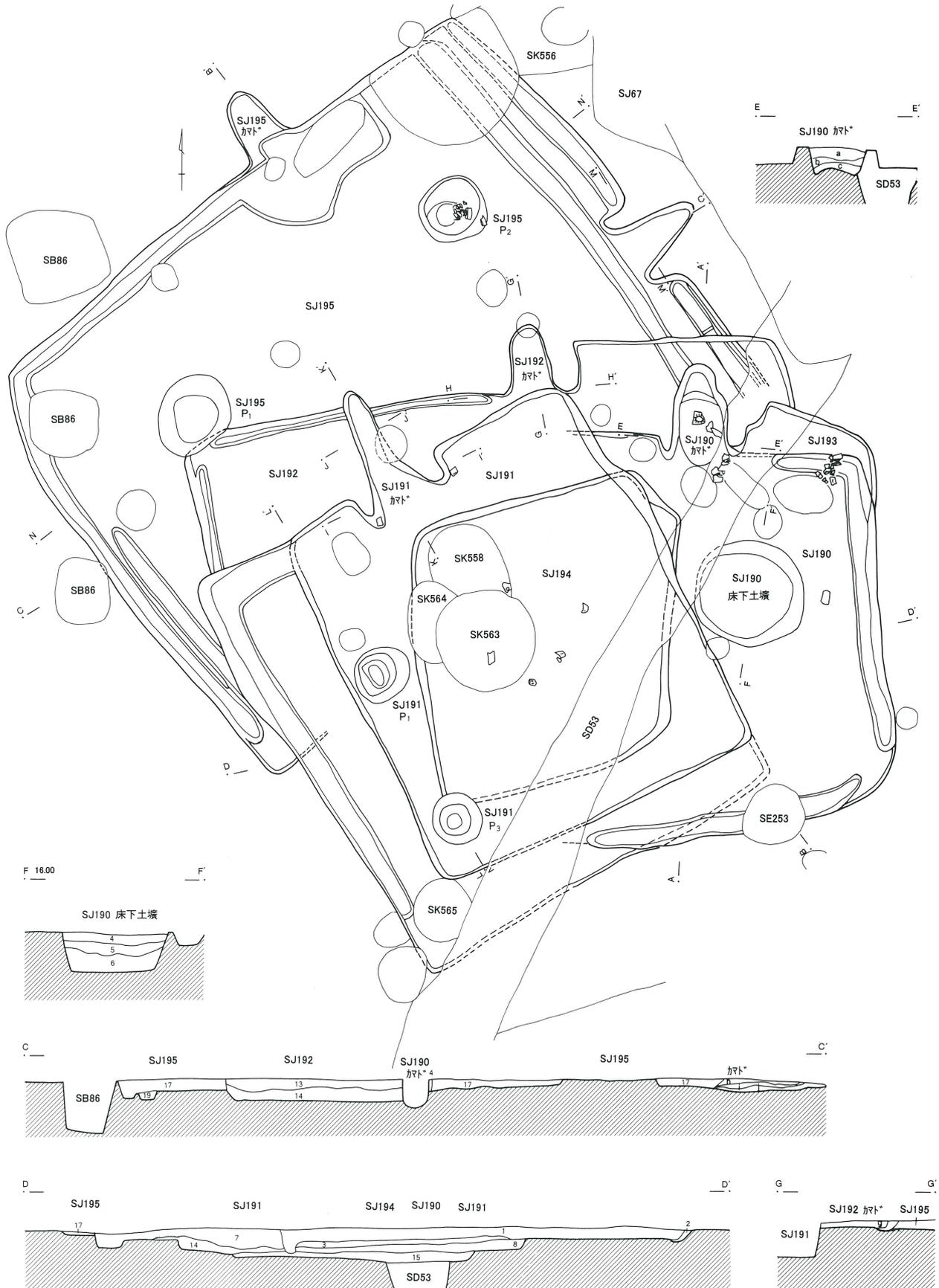
第253図 F区第189号住居跡・出土遺物

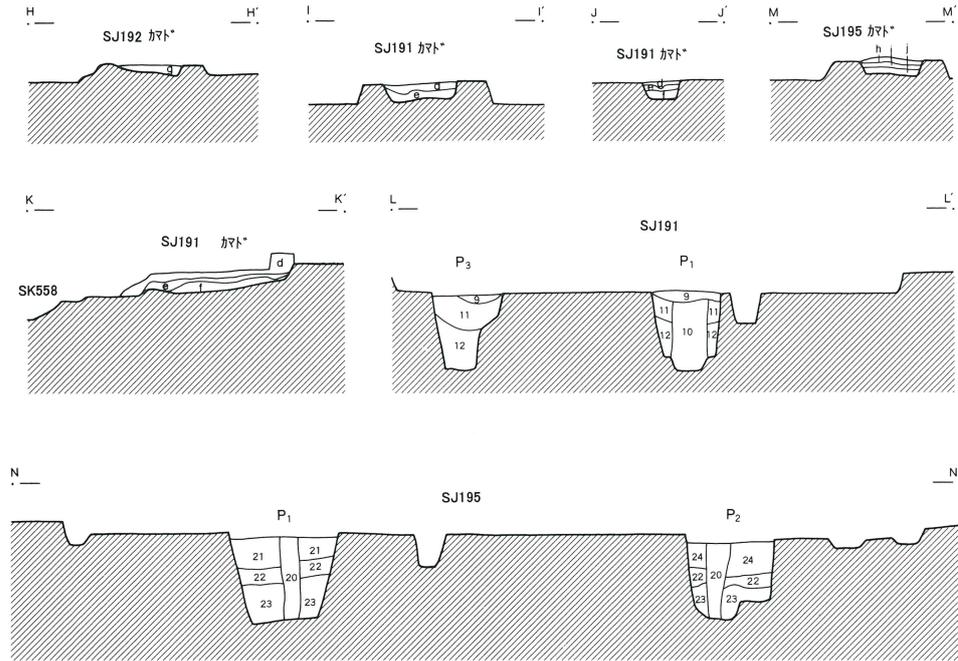
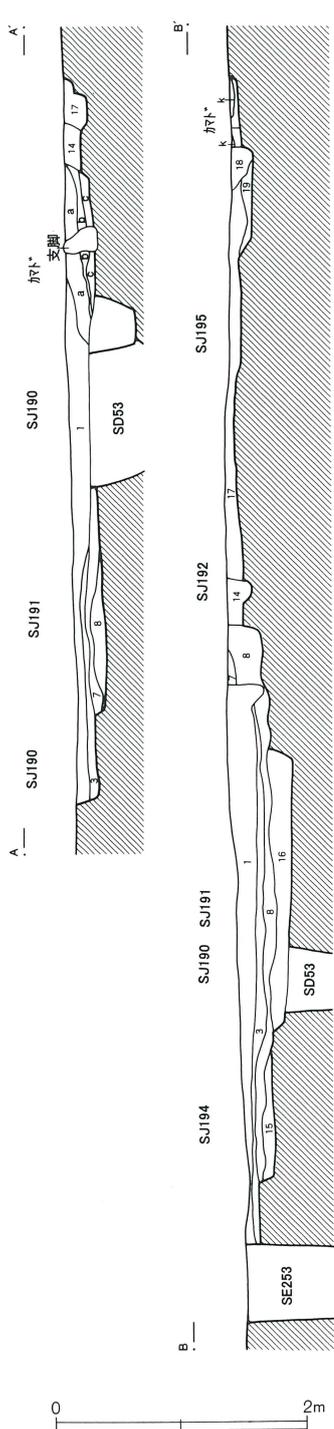


F区第189号住居跡出土遺物観察表 (第253図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	11.0	(2.5)		WR	A	橙	10	赤彩

第254図 F区第190・191・192・193・194・195号住居跡





第190・191・192・193・194・195号住居跡

第190号住居跡

- 1 黒色土 黄褐色土粒・焼土粒少量
- 2 黒褐色土 壁際自然堆積 黄褐色土粒多量
- 3 黒褐色土 黒褐色土・黄褐色土混合 貼り床

第190号住居跡床下土壌

- 4 黒褐色土 黄褐色土フロック(10~20mm)少量 粘土質 焼土多量
- 5 黒褐色土 黄褐色土フロック(10~40mm)多量 焼土粒少量
- 6 黒褐色土 黄褐色土フロック(20~50mm)特に右多量 5層類似 焼土粒を殆ど含まない

第190号住居跡カマド

- a 黒褐色土主体 白色系粘質フロック・焼土粒多量 炎上部人為的な破壊に伴う崩落
- b 炭化物層 カマド火床面付近の破壊 焼土フロック・粒多量

第191号住居跡

- 7 黒色土 人為的堆積 焼土粒・炭化物粒少量
- 8 黒褐色土 人為的堆積 黄褐色土粒・フロック多量

第191号住居跡柱穴

- 9 黒色土 人為的堆積 焼土粒多量
- 10 暗褐色土
- 11 黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土フロック(20~40mm)多量
- 12 黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土粒少量 基本的に抜き取り

第191号住居跡カマド

- d 暗褐色土 天井部崩落 人為的な破壊 焼土粒多量
- e 黒色炭化物層
- f 黒褐色土 煙道部掘形 人為的堆積

第192号住居跡

- 13 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒・黄褐色土粒多量
 - 14 黒褐色土 黄褐色土フロック多量
- 第192号住居跡カマド
- g 炭化物層 焼土粒多量

第194号住居跡

- 15 人為的堆積 黒褐色土・黄褐色土の混合
- 16 黒褐色土 炭化物粒・焼土粒多量

第195号住居跡

- 17 黒褐色土 人為的堆積 黄褐色土フロック多量
- 18 焼土粒が流れ込んでいる
- 19 黒褐色土 黄褐色土フロック多量 旧壁溝の人為的堆積造りかえの際に、拡張もししくは壁の修復か?

第195号住居跡柱穴

- 20 暗褐色土 黄褐色土フロック(10~30mm)多量 上部土器片少量
- 21 黒褐色土 柱掘形充填 黄褐色土フロック(20~40mm)少量 焼土粒混入
- 22 黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土粒少量
- 23 黄褐色土 柱掘形充填 黄褐色土フロック(10~20mm)少量
- 24 黒褐色土 柱掘形充填 焼土粒多量 黄褐色土フロック混入は殆ど見られない

第195号住居跡カマドA

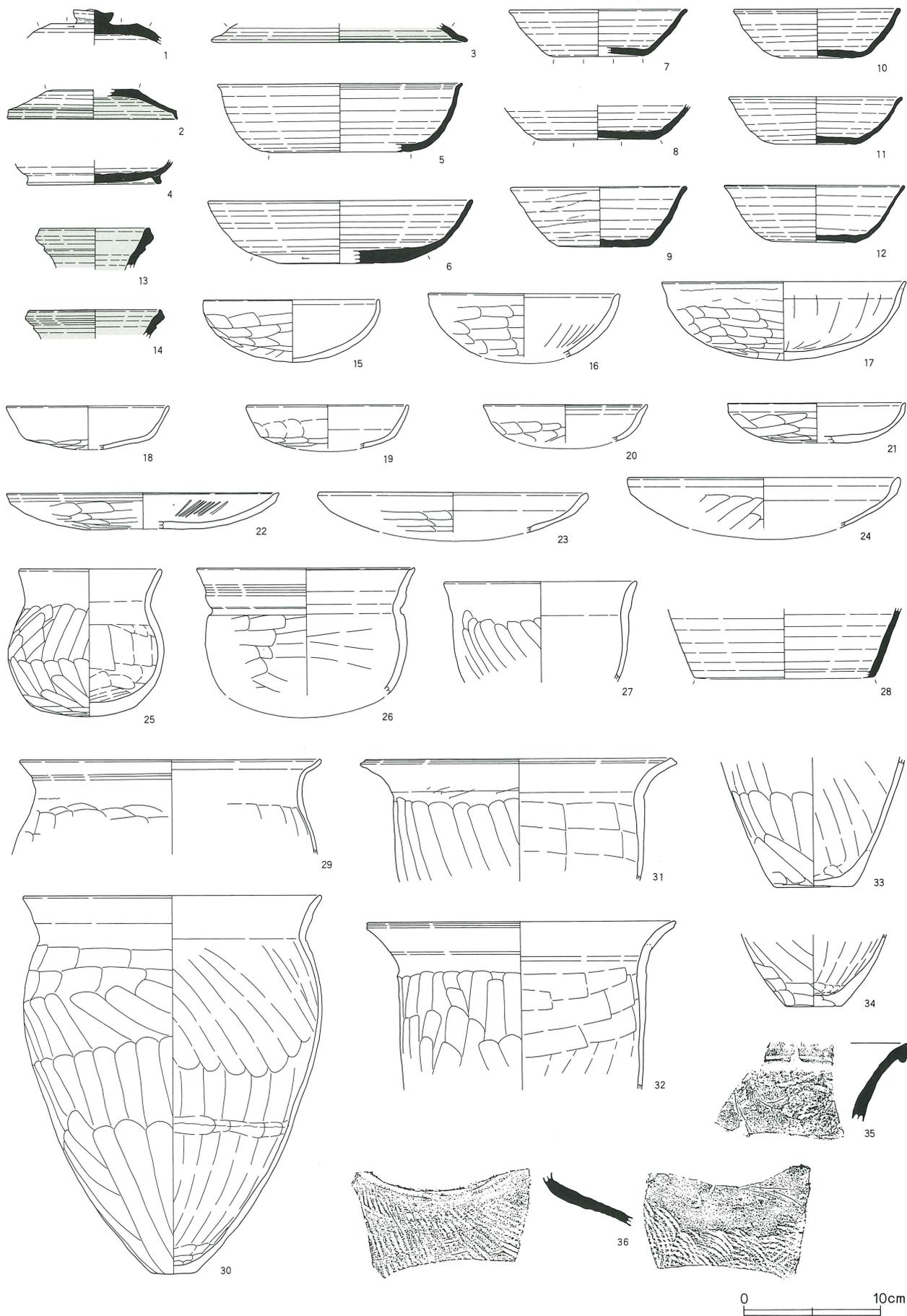
- h 黒褐色土 焼土粒・フロック多量 天井部の破壊?
 - i 炭化物層
 - J 黒褐色土 掘形充填 焼土粒少量
- 第195号住居跡カマドB
- k 黒褐色土 焼土粒多量 天井部破壊
 - l 炭化物層

袖部は白色粘土によって造り付けられている。燃焼部には火床上面に炭化物が堆積している。埋没状況から、住居跡廃絶段階にカマドは破壊されているようである。柱穴・貯蔵穴は検出されていない。壁溝は北壁北東コーナー付近~東壁、南東コーナーで途切れ、南壁に沿って巡り、幅0.19~0.28m、深さ0.12mほどで

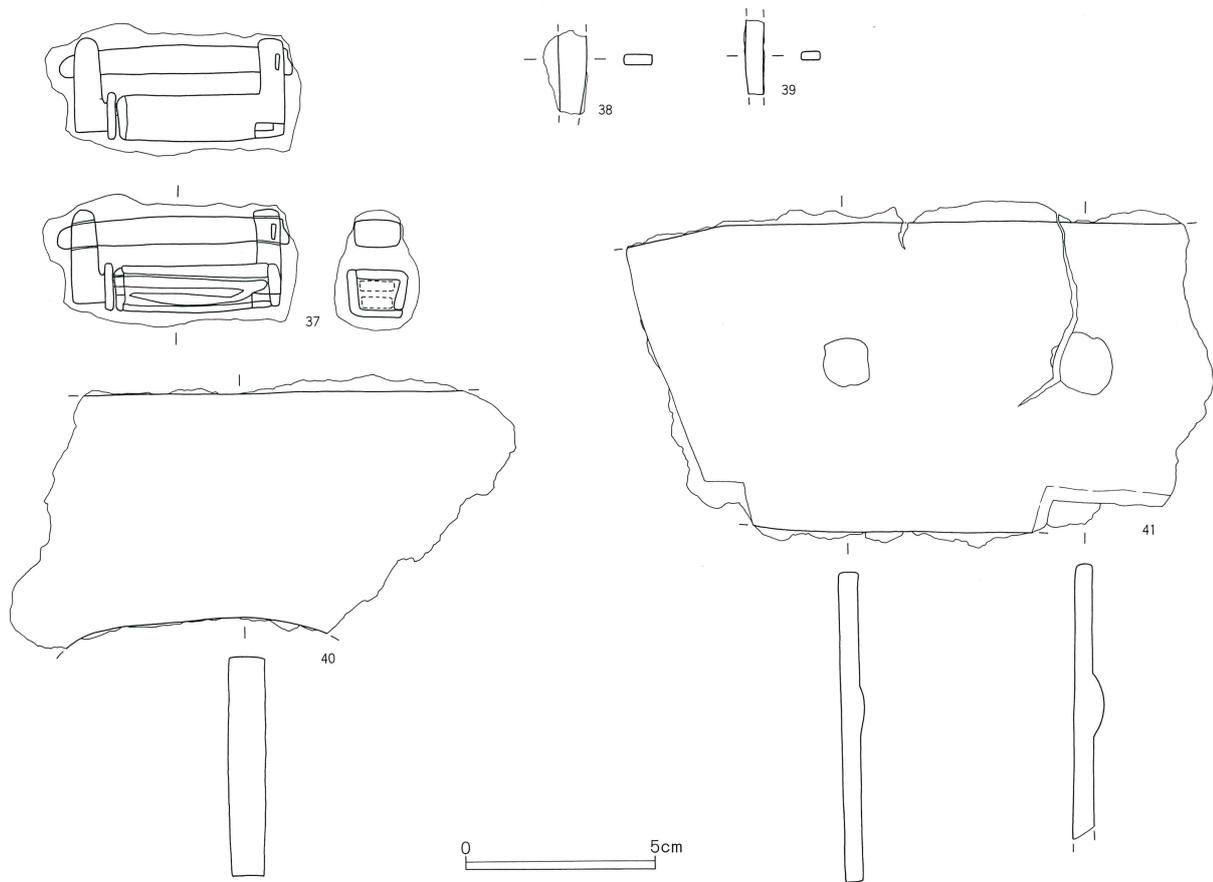
ある。中央部に床下土壌が付設され、上面には床が貼られている。平面円形で、規模は長径1.23m×短径1.12m×深さ0.42mほどである。

第191号住居跡は拡張が行われ、床面は拡張前後で段差を生じている。拡張後の床面は拡張前の掘形を埋め戻して形成している。平面形態は方形で、規模は拡

第255图 F区第190·191·192·193·194·195号住居跡出土遺物(1)



第256図 F区第190・191・192・193・194・195号住居跡出土遺物(2)



張後が主軸長4.94m×東西幅4.57m×深さ0.11m、拡張前は主軸長4.35m×東西幅3.75m×深さ0.27m、主軸方位N-30.5°-Wを測る。覆土の堆積状況は人為的に埋め戻されている。カマドは北壁に設置され、拡張前後ともカマドの位置は替わらない。袖部は造り付けられている。カマドは住居跡廃棄段階で、人為的に破壊されている。柱穴は2本検出され、いずれも拡張後の住居跡に伴うものである。断面観察から、住居跡廃絶段階に地表上の柱部が切り取られ、埋設部分はそのまま地中に放置されている。そのため、柱痕や柱掘形の充填状況が看取できる。壁溝は拡張後の北西コーナーから西壁に沿って巡り、幅0.22~0.33m、深さ0.07mほどである。貯蔵穴は確認されていない。

第193号住居跡は第191号住居跡の北東コーナー付近に、既に床面が露呈した状態で確認されている。規模は不明であるが、平面形態が方形、カマドは北壁に設置されているものと推測される。

第192号住居跡は大半が第190・191号住居跡に攪乱されている。平面形態は方形で、規模は東西幅6.47m×深さ0.14m、主軸方位N-10.5°-Wを測る。覆土には黄褐色土ブロックが多量に含まれ、人為的に埋め戻されている可能性が高い。カマドは北壁中央東よりに設置されている。カマドは片袖タイプで、東側の北壁は袖部を造り付けて外方へ張り出している。柱穴・貯蔵穴は確認されていない。壁溝は北西コーナーで途切れているが北壁中央~西壁に沿って巡り、幅0.08~0.17m、深さ0.23mほどである。

第194号住居跡も第190・191号住居跡に攪乱され、平面形態は方形と思われるが不明瞭である。カマド・柱穴・壁溝・貯蔵穴等の施設は確認されていない。

第195号住居跡は東西方向に拡張が行われている。平面形態は方形で、規模は拡張前が東西幅6.23m、拡張後が主軸長5.12m×東西幅6.82m×深さ0.08m、主軸方位N-52.5°-Eを測る。カマドは拡張後が東壁中

F区第190・191・192・193・194・195号住居跡出土遺物観察表（第255・256図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋		(2.6)		WBR 針	A	灰	10	SJ190～195 南比企産
2	蓋	12.4	(2.2)		WB	A	灰	75	SJ190～195 南比企産 自然釉付着
3	蓋	(18.8)	(1.4)		WB	B	灰白	5	SJ190～195 秋間産 or 湖西産 自然釉付着
4	高台付坏		(1.8)	9.8	WB	A	灰白	10	SJ190～195 湖西産
5	椀	(18.0)	5.0	(10.4)	WB 針	A	灰	5	SJ190～195 南比企産
6	坏	19.2	4.6		WB	A	黄灰	45	SJ190～195 藤岡産 底部全面ヘラ
7	坏	(13.0)	3.4	(6.5)	WB 針	A	灰	20	SJ190～195 南比企産 底部周辺ヘラ
8	椀		(2.1)	(8.4)	WB 針	A	灰	10	SJ190～195 南比企産 底部周辺ヘラ
9	坏	12.8	4.4	6.6	WB 針	A	灰	80	SJ190 南比企産 底部糸切離し
10	坏	12.0	3.6	5.4	WB 針	A	灰	75	SJ190 南比企産 底部糸切離し 底部内面擦痕
11	坏	12.6	3.5	6.0	WBR 針	A	灰	70	SJ190 南比企産 底部糸切離し
12	坏	13.2	4.2	6.2	WB	A	灰白	60	SJ191 末野産 底部糸切離し
13	長頸壺	(8.0)	(3.0)		WB	A	灰白		SJ190～195 湖西産 内外面自然釉付着
14	長頸壺	(9.6)	(2.1)		WB	A	灰		SJ190～195 湖西産 内外面自然釉付着
15	坏	(12.6)	4.6		WB	B	橙	30	SJ190～195
16	坏	(13.8)	(4.6)		BR	B	にふい黄橙	10	SJ190～195
17	坏	(15.7)	5.8		WB	B	にふい橙	50	SJ195
18	坏	(11.8)	3.2		WB	B	橙	25	SJ190～195
19	坏	(11.7)	(3.2)		WB	B	橙	10	SJ190～195 SJ190カマド
20	坏	(11.9)	(2.7)		WBR	B	暗褐	10	SJ190～195
21	坏	(12.8)	2.9		BR	A	橙	20	SJ190～195No.10
22	盤	(19.8)	(2.7)		BR	B	橙	15	SJ190～195
23	盤	(19.5)	(2.9)		WBR	B	暗褐	10	SJ190～195
24	盤	(19.7)	(3.7)		BR	B	橙	10	SJ190～195
25	小型甕	(10.3)	10.7		WBR	B	にふい橙	50	SJ195カマド
26	鉢	(15.8)	(9.3)		WBR	B	橙	20	SJ190～195
27	小型甕	(13.9)	(7.4)		WBR	B	暗赤褐	10	SJ190～195
28	坏		(5.1)	(13.0)	W針	A	灰	5	SJ190～195 南比企産
29	甕	22.0	(6.9)		WBR	B	橙	10	SJ190～195No.10
30	甕	(21.8)	27.7	3.2	WBR	B	にふい橙	65	SJ190～195No.5
31	甕	(22.2)	(8.9)		BR	B	橙	15	SJ190～195 SJ191カマド
32	甕	22.4	(12.3)		BR	B	にふい黄橙	30	SJ190～195 P 1
33	甕		(9.4)	(5.5)	WBR	B	にふい橙	10	SJ195 P 1
34	甕		(5.3)	4.1	WBR	B	にふい黄褐	10	SJ190～195No.5
35	甕				WBR	C	灰黄		SJ195 末野産
36	甕				WBR	A	にふい橙		SJ190～195 末野産
37	錠								SJ190～195No.2 長さ6.7×幅3.2×厚さ2.2×重さ80.2g
38	刀子								SJ190～195 長さ2.2×幅0.75×厚さ0.3×重さ1.8g
39	刀子								SJ190～195 長さ1.9×幅0.5×厚さ0.2×重さ1.1g
40	不明鉄製品								SJ190～195 長さ13.7×幅5.8×厚さ1.0×重さ321.5g
41	不明鉄製品								SJ190 長さ15.4×幅8.2×厚さ0.55×重さ474.9g

次に、拡張前が北壁中央に設置されている。拡張後のカマドは袖部が造り付けられ、住居跡廃絶段階で破壊されているようである。拡張前のカマドは拡張に伴って破壊され、煙道部のみが検出されている。柱穴は2本検出され、柱痕が残存し、柱掘形の充填状況が看取できる。住居跡廃絶段階に地表上の柱部が切り取られ、埋設されている部分が放置されたものと思われる。壁溝は拡張前が東壁および西壁南半に、拡張後は東壁～北壁～西壁に沿って巡り、幅0.17～0.26m、深さ0.12

～0.18mほどである。貯蔵穴は確認されていない。

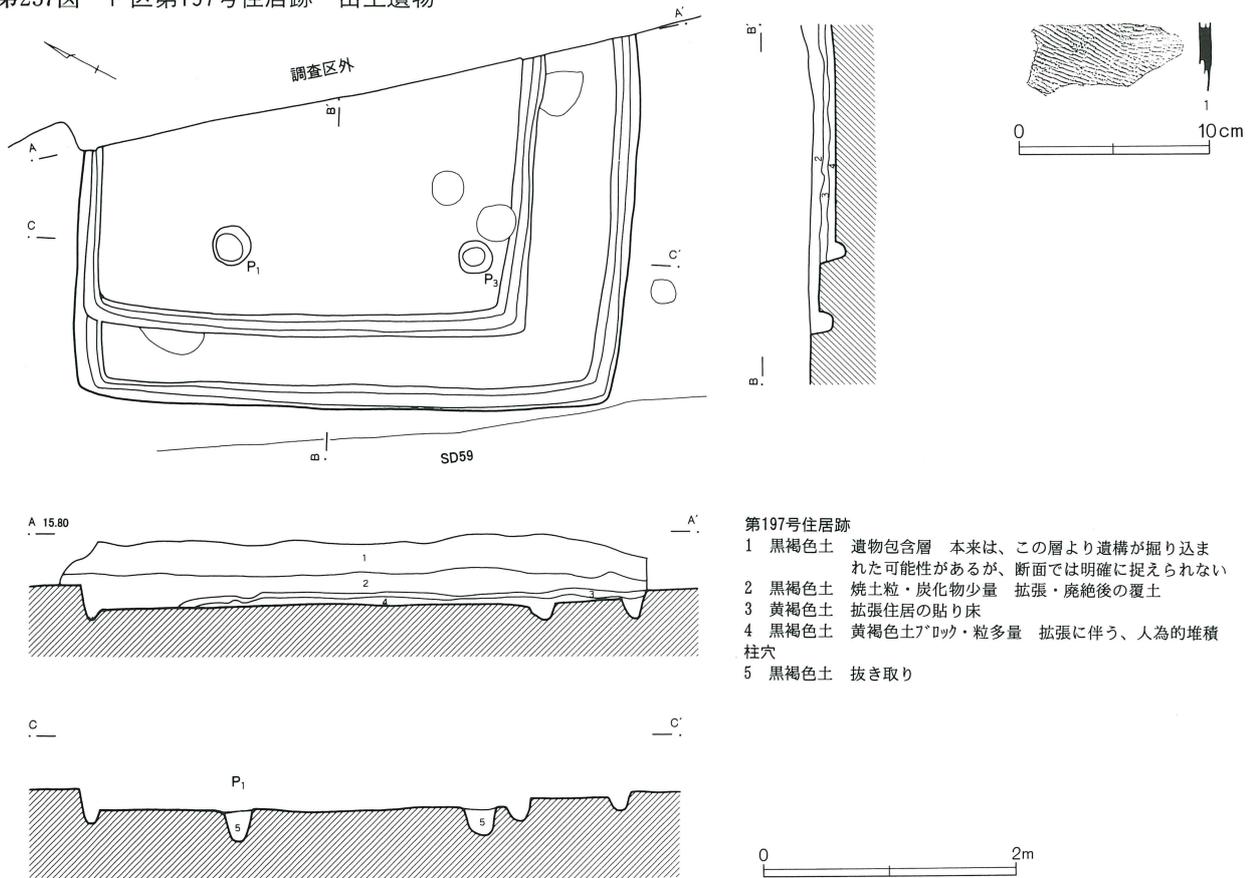
遺物のなかで鉄製錠は注目され、図示したほかに一括遺物として須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第197号住居跡（第257・46図）

AY35グリッドに位置し、東半は調査区外にある。

西壁・南壁が拡張されている住居跡で、平面形態は方形である。規模は拡張前が南北長3.63m、拡張後が南北長4.45m×深さ0.22m、南北軸方位N-26°-W

第257図 F区第197号住居跡・出土遺物



- 第197号住居跡
- 1 黒褐色土 遺物包含層 本来は、この層より遺構が掘り込まれた可能性があるが、断面では明確に捉えられない
 - 2 黒褐色土 焼土粒・炭化物少量 拡張・廃絶後の覆土
 - 3 黄褐色土 拡張住居の貼り床
 - 4 黒褐色土 黄褐色土7°ロック・粒多量 拡張に伴う、人為的堆積柱穴
 - 5 黒褐色土 抜き取り

F区第197号住居跡出土遺物観察表（第257図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	甕				WB	A	灰		湖西 or 秋間産？

を測る。覆土の堆積状況は自然堆積である。

カマド・貯蔵穴は確認されていない。柱穴は4本のうち2本が検出されている。壁溝は拡張前後とも全周し、幅0.15~0.19m、深さ0.17~0.27mほどである。

遺物は図示したほかに、須恵器甕片、土師器甕・坏片が出土している。

第198号住居跡（第258・46図）

AY33・34、AZ33・34グリッドに位置する。

平面形態は方形で、規模は主軸長4.56m×幅4.46m×深さ0.09m、主軸方位N-31°-Wを測る。覆土の堆積状況は自然堆積である。

カマドは北壁中央に設置されているが、C区発掘調査に伴って掘削した排水溝に削平され、煙道部先端が検出されたにすぎない。柱穴は4本で、柱は抜き取られ、人為的に埋め戻されている。壁溝は北壁を除き全

周し、幅0.14~0.30m、深さ0.13~0.21mほどである。貯蔵穴は検出されていない。中央部には立ち上がりがあり、きわめて不明瞭な、不整形の窪みがみられる。

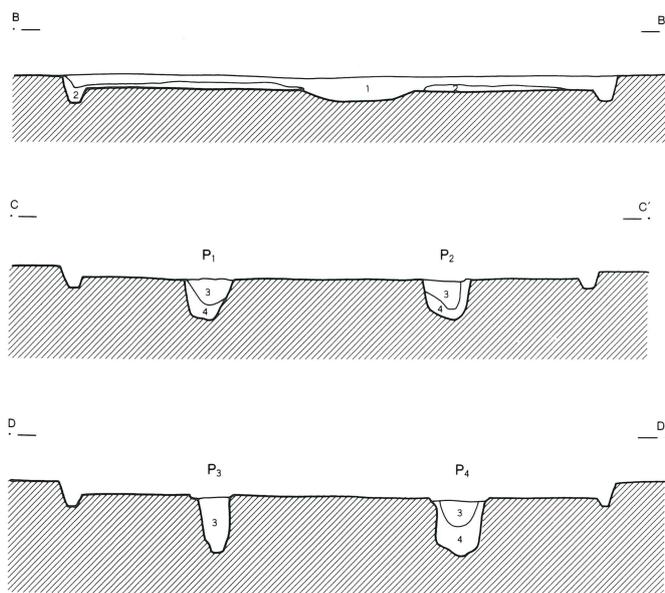
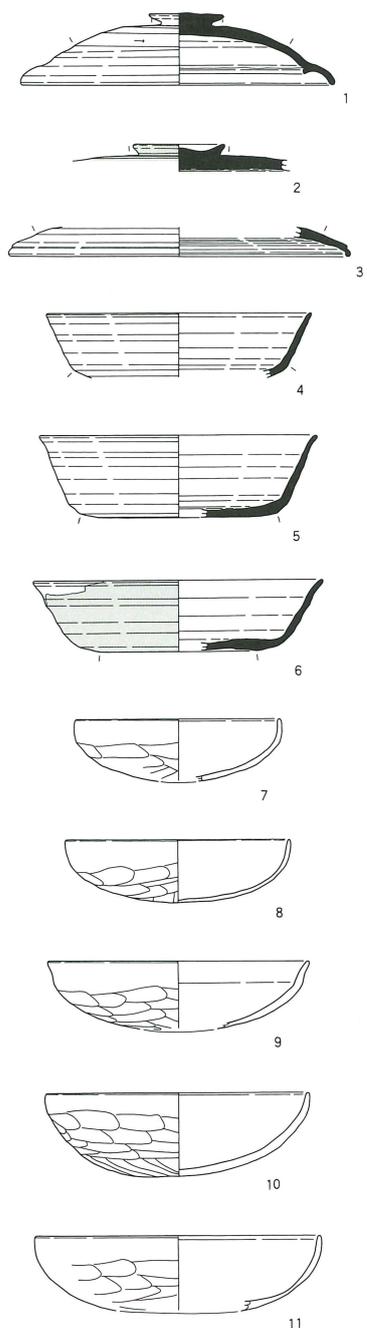
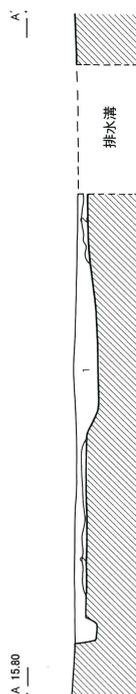
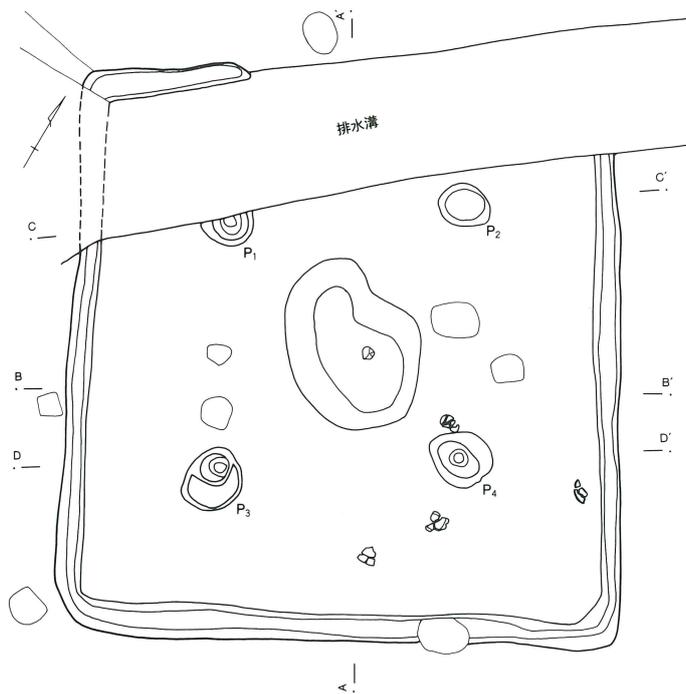
遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第199・200号住居跡（第259・260・46図）

AZ33グリッドに位置する。重複する2軒の住居跡で、第62号溝跡によって西半が攪乱されている。また第199号住居跡の北半は調査区外にある。2軒の住居跡の新旧関係は第200号住居跡が新しく、第199号住居跡が古い。

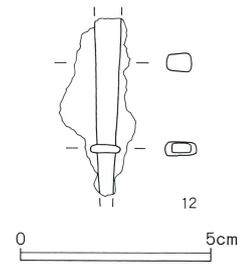
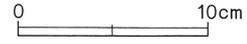
第199号住居跡の平面形態は方形であるが、規模は不明である。深さ0.21m、南北軸方位N-35°-Wを測る。覆土は人為的に埋め戻されている。カマド・柱穴・貯蔵穴は確認されていない。一部、壁溝が検出されて

第258図 F区第198号住居跡・出土遺物



第198号住居跡

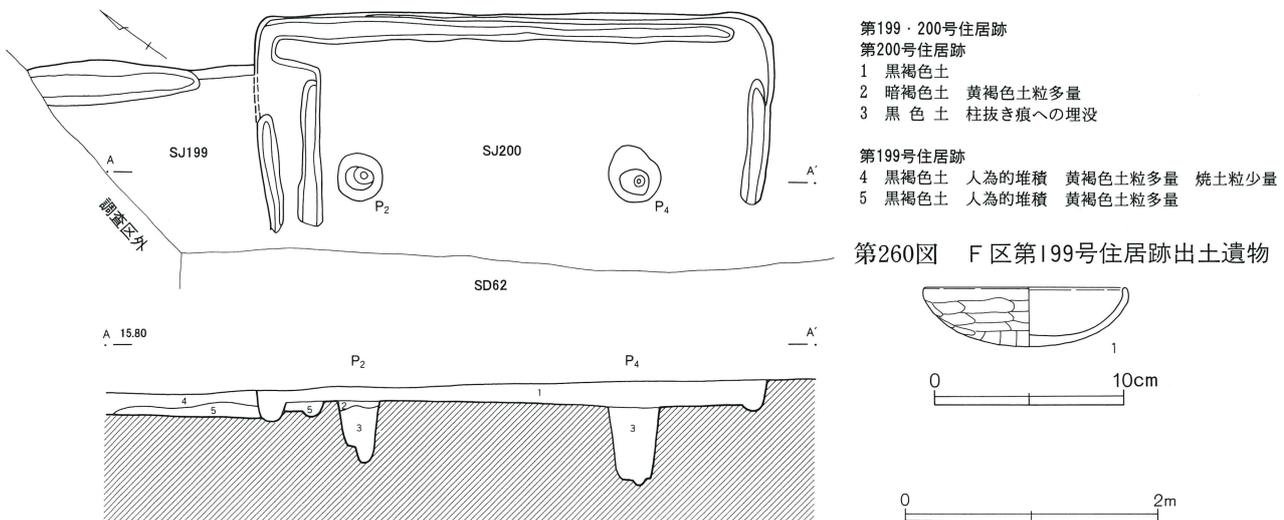
- 1 黒褐色土 焼土粒・炭化物粒・黄褐色土粒少量 自然堆積か？
- 2 暗黄褐色土 床面付近土層の同化？
- 柱穴
- 3 黒褐色土 抜き取り後の人為的堆積 黄褐色土粒少量
- 4 黒褐色土 抜き取り後の人為的堆積 黄褐色土粒・ﾌﾟﾛｯｸ多量



F区第198号住居跡出土遺物観察表（第258図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	蓋	16.6	3.8		WBR片	C	灰黄	75	No.4 末野産
2	蓋		(1.4)		W	B	灰	5	群馬産 自然釉付着
3	蓋	(17.9)	(1.5)		WB針	B	灰白	5	南比企産
4	坏	(13.8)	(3.4)	(9.8)	W針	B	灰	5	南比企産
5	坏	(14.5)	4.3	(10.4)	WB針	B	灰	30	南比企産 底部全面ヘラ
6	坏	(15.0)	3.8	(8.2)	WBR針	C	にふい黄橙	25	No.3 南比企産 底部全面ヘラ タール状の付着物
7	坏	(10.6)	(3.3)		WBR	B	橙	20	
8	坏	11.8	3.3		B	B	橙	80	No.2
9	坏	(13.6)	(3.6)		BR	B	にふい橙	30	
10	坏	(13.6)	4.4		WB	B	橙	30	No.5
11	坏	(15.0)	(3.9)		BR	B	橙	25	No.1
12	釘								長さ4.7×幅0.6×厚さ0.45×重さ9.0g

第259図 F区第199・200号住居跡



第260図 F区第199号住居跡出土遺物

F区第199号住居跡出土遺物観察表（第260図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	坏	10.5	3.2		WBR	B	橙	80	

いる。

第200号住居跡の平面形態は方形で、規模は南北長4.05m×深さ0.20m、南北軸方位N-35°-Wを測る。覆土の堆積状況は自然堆積と思われる。

カマド・貯蔵穴は検出されていない。柱穴は2本が検出され、ほかは第62号溝跡によって攪乱されている。柱は抜き取られ、人為的に埋め戻されている。壁溝は南東コーナー付近が途切れ、幅0.13~0.20m、深さ0.24mほどである。

遺物は図示したほかに、第199・200号住居跡一括遺物の須恵器坏片、土師器甕・坏片が出土している。

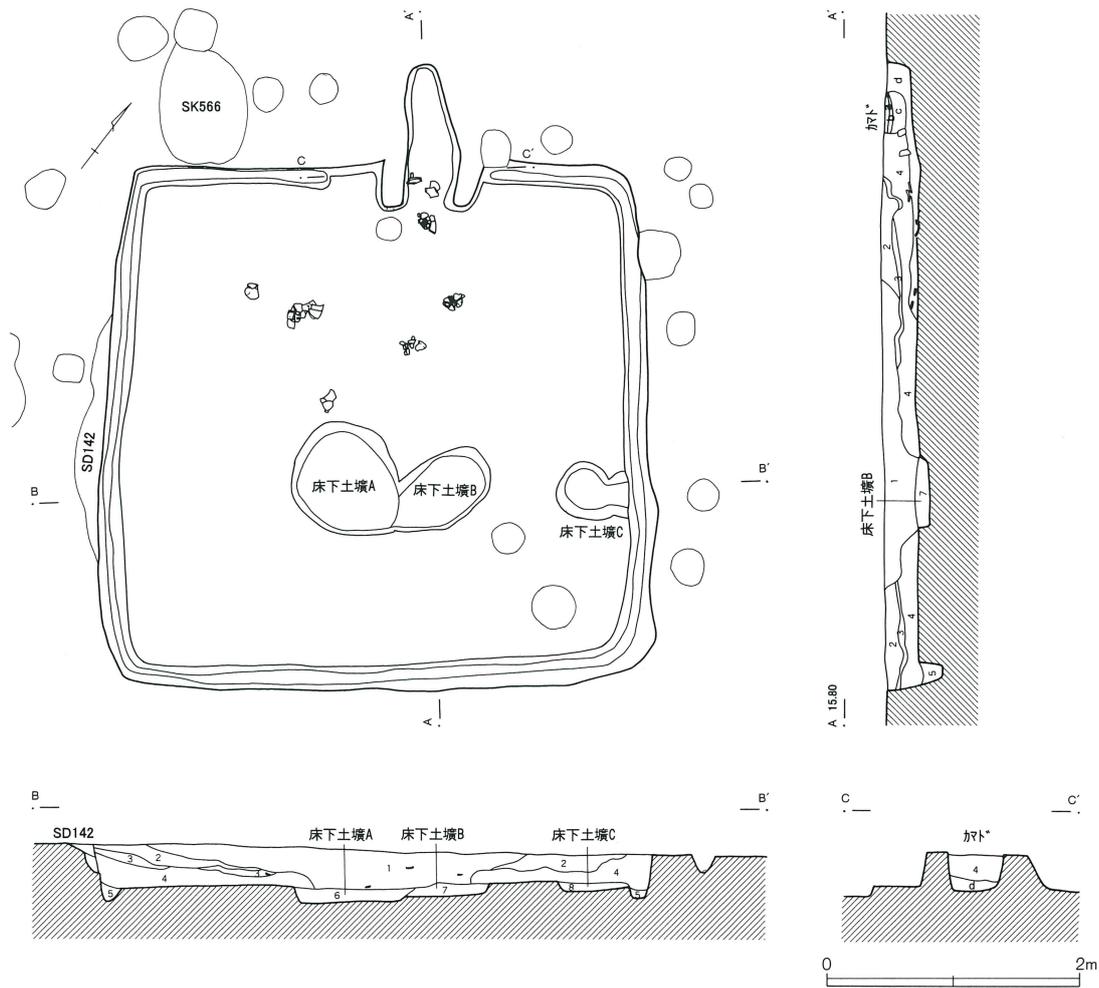
第201号住居跡（第261・262・46図）

AY34・35、AZ34・35グリッドに位置し、重複する第142号溝跡よりも新しい。

平面形態は方形で、規模は主軸長4.19m×東西幅4.34m×深さ0.33m、主軸方位N-39°-Wを測る。覆土の堆積状況は自然堆積である。

カマドは北壁中央に設置され、袖部は地山が掘り残され、白色粘土によって構築されている。残存状態は比較的良好、天井部の一部と煙出部が残存している。燃焼部・火床面・煙道部壁面・天井部は被熱による焼土化が著しい。壁溝は全周し、幅0.12~0.24m、深さ0.34~0.44mほどである。柱穴・貯蔵穴は検出されて

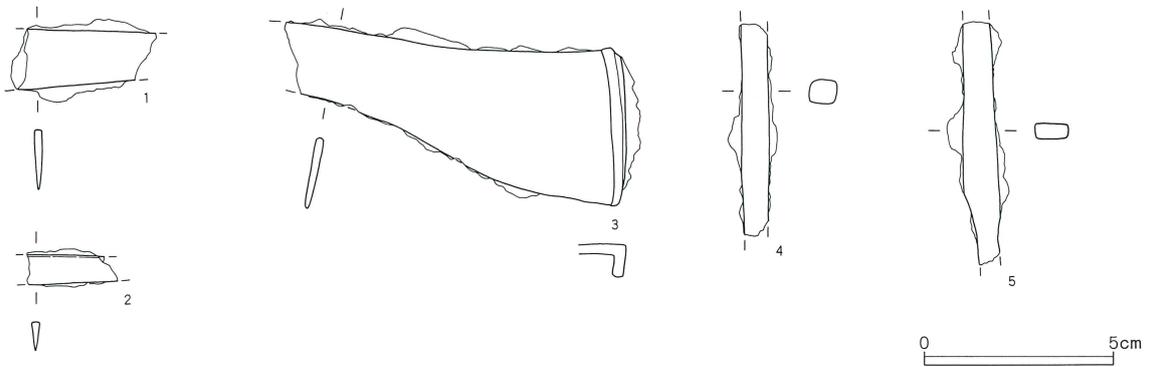
第261図 F区第201号住居跡・出土遺物(1)



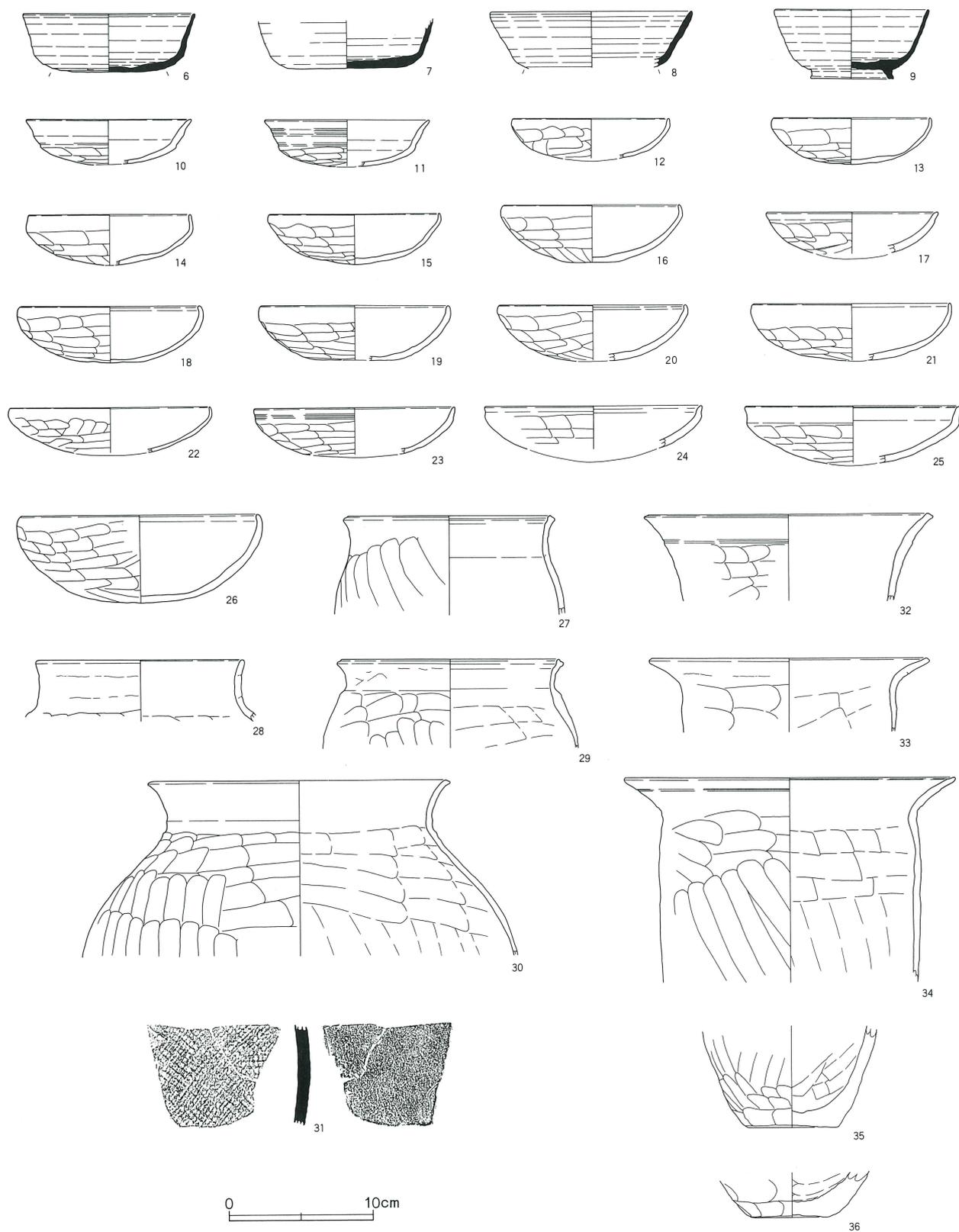
第201号住居跡

- 1 黒色土 リズ状堆積中央陥没部の最終的な流入土
焼土粒・炭化物粒多量
- 2 黒褐色土 黄褐色土粒少量
- 3 暗黄褐色土 黄褐色土粒の薄い堆積
- 4 黒褐色土 黄褐色土粒・ブロンズ・焼土粒少量
- 5 暗黄褐色土・黒褐色土の混合層 壁の崩れ 壁溝部に堆積
- 床下土壌A
- 6 黒色土 黒色土・焼土粒・炭化物粒多量

- 床下土壌B
- 7 黒褐色土 人為的堆積 黄褐色土多量
- 床下土壌C
- 8 黒褐色土 人為的堆積 黄褐色土多量
- カマド
- a 白色粘土 煙道部天井先端～煙出し部までの残
- b 煙道部天井内壁の焼土化
- c 暗茶褐色土 焼土粒・黄褐色土粒少量 煙道部への流入
- d 黒褐色土 焼土粒・炭化物多量



第262图 F区第201号住居迹出土遗物(2)



F区第201号住居跡出土遺物観察表(第261・262図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	刀子								長さ3.5×幅1.6×厚さ0.2×重さ8.0g
2	刀子								長さ2.3×幅0.75×厚さ0.15×重さ1.7g
3	鎌								長さ9.0×幅4.2×厚さ0.2×重さ60.4g
4	釘								長さ5.6×幅0.7×厚さ0.6×重さ6.0g
5	刀子								長さ6.4×幅0.9×厚さ0.4×重さ10.0g
6	椀	(11.9)	4.1	(7.8)	WBR	B	黄灰	30	末野産 底部全面ヘラ
7	椀		(3.4)	(8.4)	WR	C	にぶい褐	30	末野産 底部全面ヘラ
8	坏	(13.8)	(3.9)	(9.2)	WB	A	灰	5	南比企産?
9	高台付坏	(10.6)	4.8	5.7	WB	A	灰	30	南比企産 貼付高台
10	坏	(11.4)	(3.1)		B	B	にぶい黄橙	10	
11	坏	(11.3)	(3.2)		BR	B	にぶい黄橙	40	
12	坏	(10.8)	(2.8)		WB	B	にぶい橙	10	
13	坏	10.8	3.2		WB	B	橙	90	No.6・10
14	坏	(11.2)	(3.5)		WB	B	橙	40	
15	坏	(11.8)	3.6		WBR	B	橙	35	No.11
16	坏	(12.1)	4.0		BR	B	橙	40	
17	坏	(11.8)	(2.8)		WB	B	橙	10	
18	坏	(12.3)	3.9		WB	B	橙	30	
19	坏	(13.0)	(3.8)		WB	B	暗褐	30	カマド No.7
20	坏	(12.8)	(3.8)		WBR	B	にぶい黄橙	30	No.9
21	坏	(13.6)	(3.9)		BR	B	橙	70	No.4
22	坏	(13.7)	(3.1)		WBR	B	橙	20	
23	坏	(13.8)	(3.2)		WBR	B	にぶい橙	20	
24	坏	(14.8)	(2.9)		WB	B	橙	5	
25	盤	(14.8)	(4.0)		WB	B	暗褐	15	
26	椀	(16.4)	6.1		WB	B	橙	30	No.5
27	小型甕	(14.0)	(6.8)		WB	B	にぶい橙	10	
28	小型甕	(14.0)	(4.3)		WB	B	暗褐	5	
29	小型甕	(15.0)	(6.1)		WBR	B	暗褐	5	
30	甕	20.2	(12.2)		WBR	B	橙	20	No.1・8
31	甕				WBR	B	灰白		末野産
32	甗	(19.2)	(6.0)		BR	B	にぶい黄橙	5	
33	甕	(19.0)	(5.1)		WBR	B	橙	5	
34	甕	(23.0)	(13.7)						No.2
35	甕		(7.0)	6.2	WBR	B	にぶい橙	10	カマド
36	甕		(3.1)	5.8	W	B	にぶい橙	10	No.1

いない。

確認された3基の土壙は、住居跡との重複関係が不明瞭である。上面には住居跡の貼床が施されておらず、明確に判断し得ないが、床下土壙として捉えた。床下土壙Aは規模が長径0.91m×短径0.85m×深さ0.11mの平面円形、床下土壙Bは規模が長径(0.88)m×短径0.53m×深さ0.09mの平面円形、床下土壙Cは規模が長径(0.58)m×短径0.45m×深さ0.08mの平面不整形である。いずれも用途・性格等は不明である。

遺物は図示したほかに、須恵器甕・蓋・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第202号住居跡(第263・264・46図)

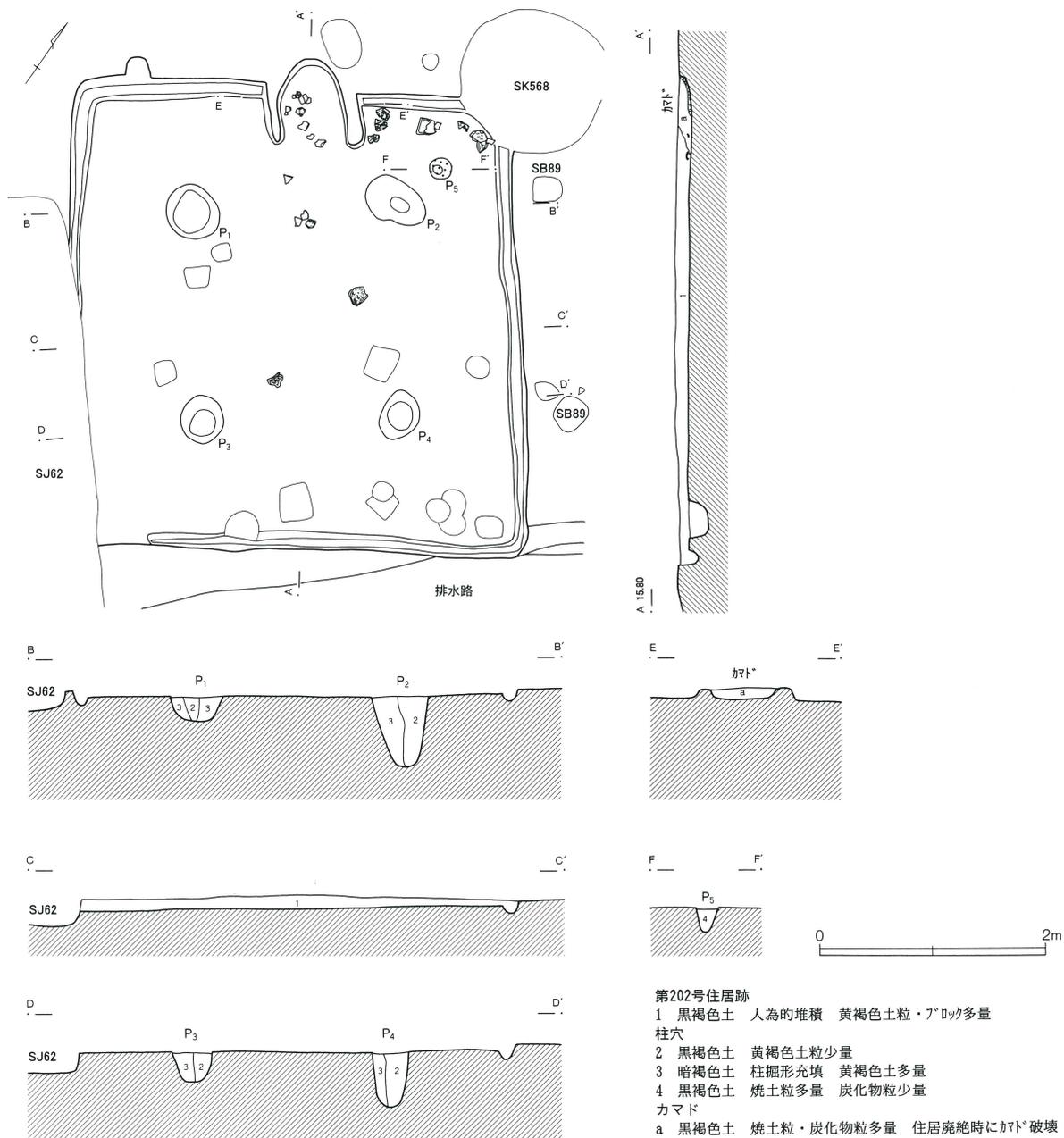
AZ33・34、BA33グリッドに位置し、重複する第62

号住居跡、第568号土壙よりも古い。

平面形態は方形で、規模は主軸長4.11m×東西幅3.96m×深さ0.12m、主軸方位N-33°Wを測る。覆土は人為的に埋め戻されている。

カマドは北壁中央に設置されているが、住居廃絶段階に破壊されている。袖部は地山が掘り残され、燃焼部には焼土・炭化物が多量に堆積している。北東コーナー付近には小ピットが掘り込まれ、多量の焼土粒と少量の炭化物を含む黒褐色土が充填されている。柱穴は4本で、柱痕が残存している。掘形は円形で、深さは東列と西列で異なる。壁溝は南西コーナー付近を除き全周し、幅0.09~0.19m、深さ0.10~0.17mほどである。貯蔵穴は検出されていない。

第263図 F区第202号住居跡

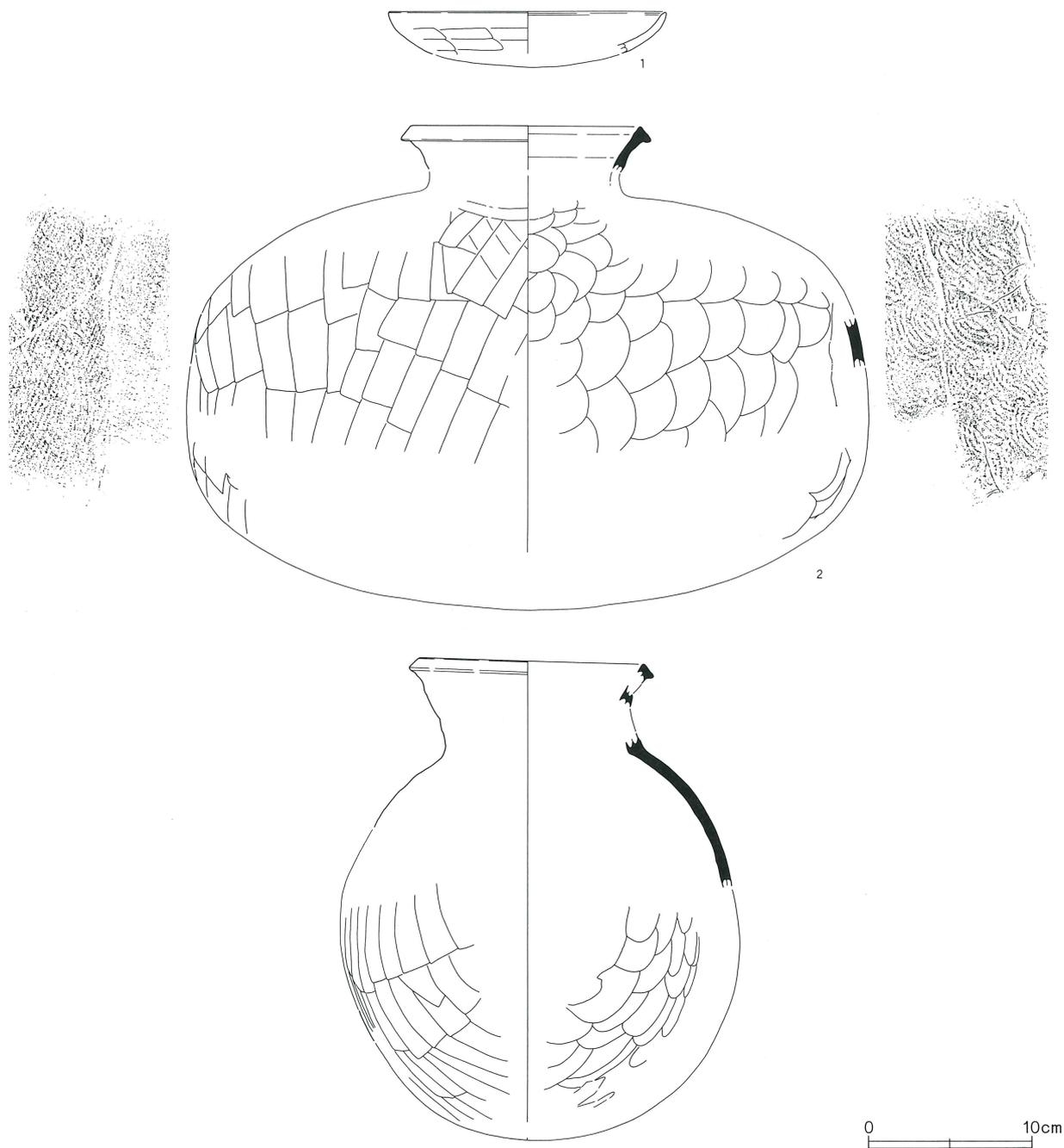


F区第202号住居跡出土遺物観察表 (第264図)

番号	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	残存率	備考
1	盤	(16.9)	(2.6)		WBR	B	暗褐	5	SJ203No.62
2	横瓶	14.1	(28.7)		WB	B	灰	30	末野産 (胎土分析28)

遺物は図示したほかに、須恵器甕・坏片、土師器甕・坏片が出土している。

第264图 F区第202号住居跡出土遺物



報告書抄録

ふりがな	つきみちしたいせき							
書名	築道下遺跡IV							
副書名	行田南部工業団地造成事業関係埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	V							
シリーズ名	埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書							
シリーズ番号	第246集							
編著者名	山本 靖							
編集機関	財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団							
所在地	〒369-0108 埼玉県大里郡大里村船木台4丁目4番地1 TEL 0493-39-3955							
発行年月日	西暦2000(平成12)年3月24日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
つきみちしたいせき 築道下遺跡	さいたまけんぎょうだしおお 埼玉県行田市大 あざのあぎなかはたけ 字野字高畑3744 番地5他	11206	144	36°05'51"	139°29'15"	19960401 ~19980331	32,550m ²	工業団地 造成に伴 う事前調 査
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
築道下遺跡	集落跡	古墳時代後期 奈良・平安時 代 中世	住居跡	222	土師器	鉄製錠(F区SJ190) 火打金(F区SB13) 奈良三彩小壺? (G区SD31) 湖西産・群馬産の須 恵器が多数出土		
			掘立柱建物跡	106	須恵器			
			柵列跡	14	鉄器			
			土壇	673	石製品			
			井戸跡	289	陶磁器			
			溝跡	253				
			茶毘跡	14				
			墓壇	1				
			不明遺構	6				
			ピット					

埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書 第246集

行田市

築道下遺跡 IV

行田南部工業団地造成事業関係埋蔵文化財発掘調査報告

-V-

〈第1分冊〉

平成12年3月15日 印刷

平成12年3月24日 発行

発行／財団法人 埼玉県埋蔵文化財調査事業団
〒369-0108 埼玉県大里郡大里村船木台4丁目4番地1
電話 0493 (39) 3955

印刷／朝日印刷工業株式会社